

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

22.5度系の比の折り出し

Folding Out 22.5 Degree and Relevant Angles

神谷哲史 Kamiya Satoshi

折り図 Diagrams

白雁 Snow Goose

津田良夫 Tsuda Yoshio



展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

ブロントテリウム

Brontotherium

堀口直人

Horiguchi Naoto

つまみおり Information

第15回折紙探偵団コンベンション参加募集開始

Registration Information of the 15th Origami Tanteidan Convention

通巻 115 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線

Line indicating valley fold

山折り線

Line indicating mountain fold

手前に折る

Fold paper forwards

後ろへ折る

Fold paper backwards

折り筋をつける

Making a crease line

段折り

Pleat fold

裏返す

Turn paper over

引き出す

Pull out

図の見る位置が変わる

Rotation

図が大きくなる

A magnified view

見えないところ

A hidden line

押す、押しつぶす

Push paper in

切る

Cut

白雁

作: 津田良夫 (P.22)

Snow Goose

by Tsuda Yoshio (P.22)

■ふんわりとした全方位対応の曲面構成に、水鳥特有の重量感がしっかりと融合した仕上がり。繊細な最終調整技術が必須であり、表紙の作例は津田氏だからこそ可能な完成度となっていますが、折り手の各自の技量に応じてつきつめてゆけばゆくほどそれぞれに課題が見えてくる、挑戦のしがいがある作品だと思います。

(解説 北條高史) Comments : Hojyo Takashi



Snow Goose : Tsuda Yoshio

クローズアップ / Close-up

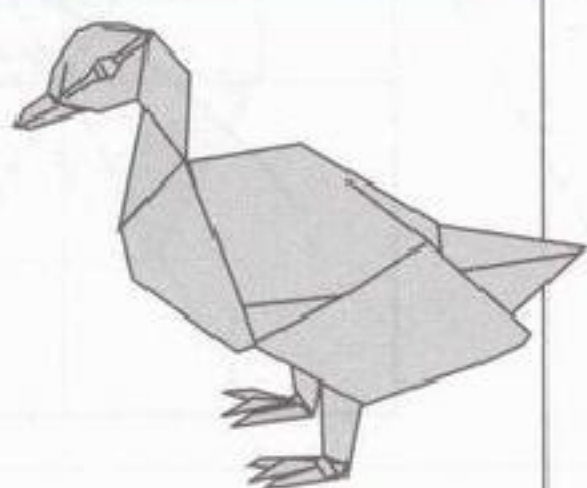
P.11 **22.5 度系の
比の折り出し**

Folding Out 22.5 Degree and
Relevant Angles

神谷哲史
Kamiya Satoshi

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.22 **白雁**
Snow Goose



津田良夫
Tsuda Yoshio

P.34 **展開図折りに挑戦！**
Crease Pattern Challenge!

ブrontテリウム
Brontotherium

堀口直人
Horiguchi Naoto

カラーページ / Color

P.20 **オリガミ・フォトギャラリー**
Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments : Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 **知子の部屋**

Tomoko's Room

ベルト正 20 面体・12 枚組

Band-Shaped Modules (Regular Icosahedron (12 modules))

布施知子
Fuse Tomoko

P.8 **おりがみ我楽多市**

Origami Odds and Ends

ジャンボこま・フリスビー

Spinning Top with 7 Modules・Frisbee

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 **日本折紙協会回想録**

Reminiscence of and Notes on NOA

阿部 恒さんとの出会い

(Re)Union with Mr. Abe Hisashi

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

P.16 **折紙図書館の本棚から**

From the Bookshelves of the JOAS Library

上田憲治氏の「 $\sqrt{2}$ の基本型」

Ueda Kenji's $\sqrt{2}$ Base

小松英夫
Komatsu Hideo

P.18 **スキップで折紙散歩**

Origami Sampo Skipping Every Other Step

店の名は

Pubs Named "Orizuru"

前川 淳
Maekawa Jun

P.35 **ペーパーフォルダーの横顔**

Paper Folders on File

エリック・ジャーディ

Eric Gjerde

取材：羽鳥公士郎
Hatori Koshiro

コラム / Columns

P.7 **折り紙の周辺**

Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

P.32 **おりすじ**

Orisuzi ("Fold-Creases")

三浦公亮
Miura Koryo

P.33 **折紙三昧**

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司
Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.36 **つまみおり** Rabbit Ear

第 15 回折紙探偵団コンベンション参加募集開始

Registration Information of the
15th Origami Tanteidan Convention

ベルト正 20 面体・12 枚組

Band-Shaped Modules
(Regular Icosahedron (12 modules))

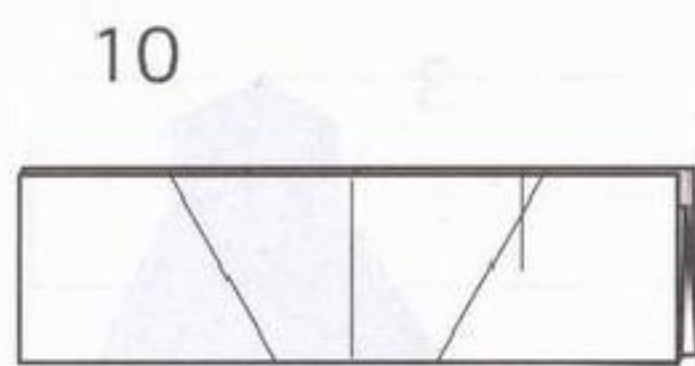
113 号に続きベルトで組む立体です。丈夫な出来上がりになります。ベルトのバランスを変えたり、ここでは紹介できませんが長方形の紙から折ることもできます。



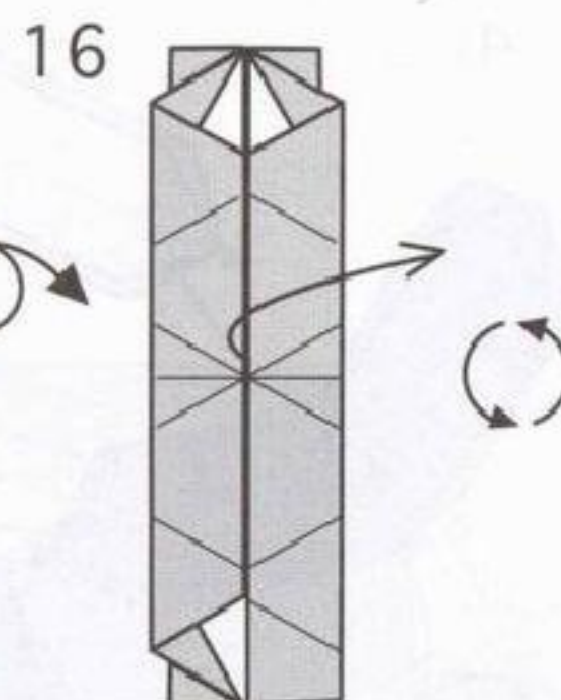
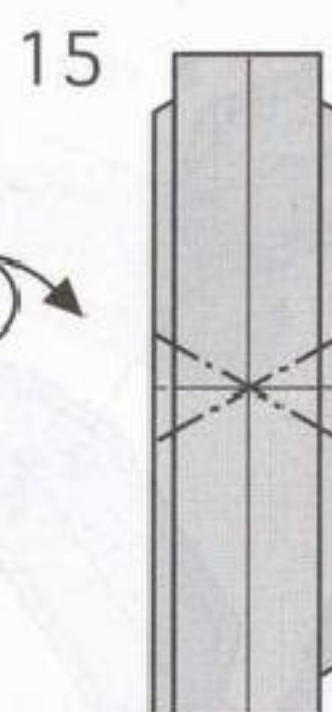
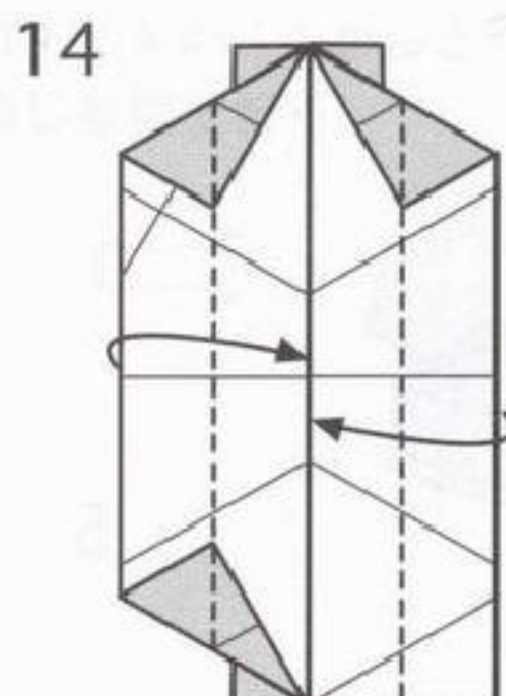
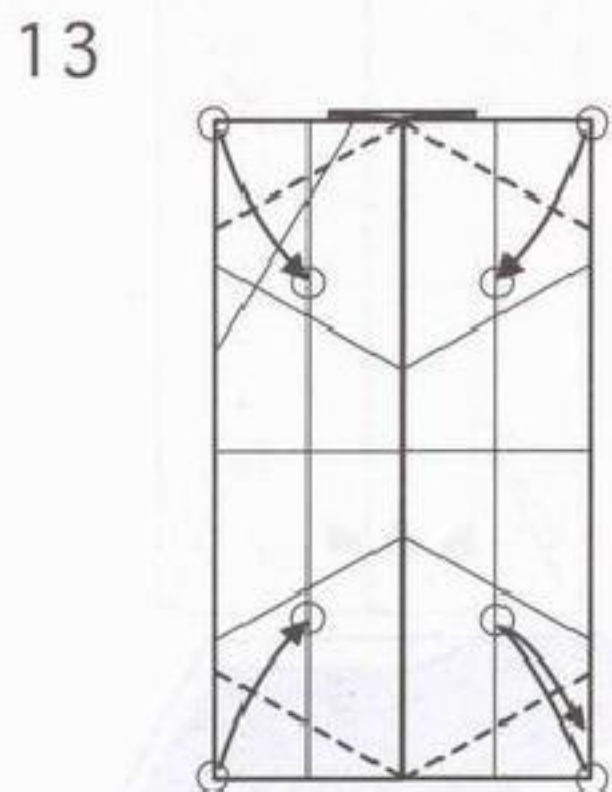
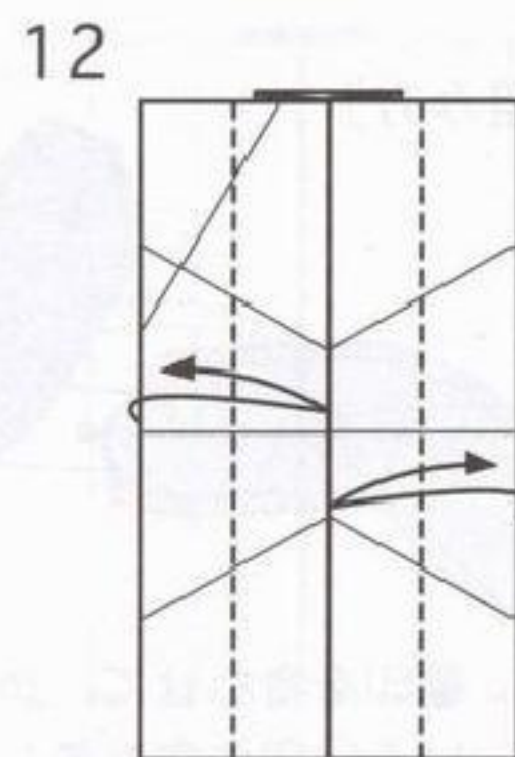
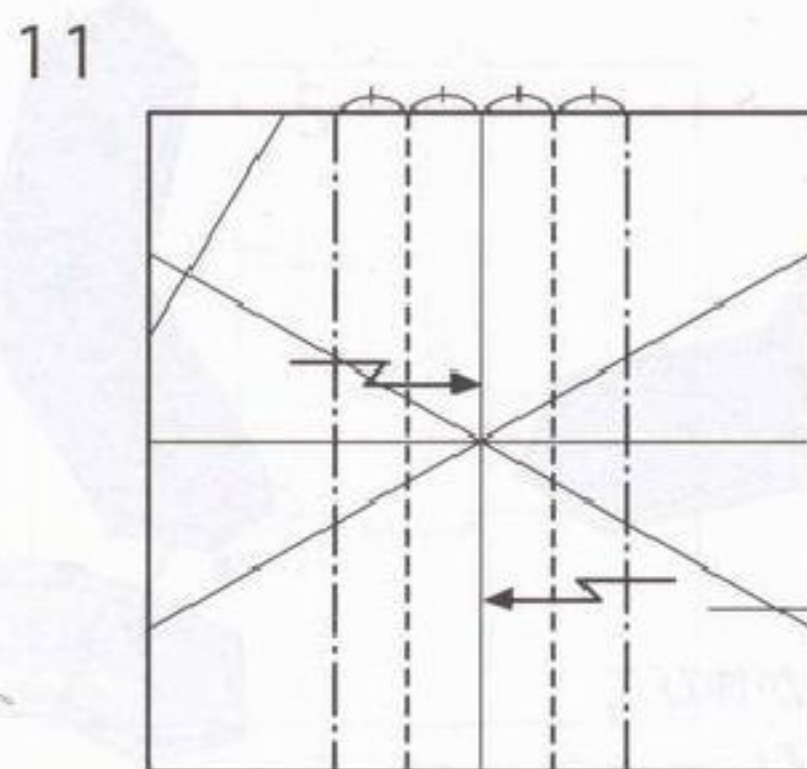
用紙：12 × 12cm が基準

-
-
- △印を軸に○印を合わせて折る
-
- 全部開く
-
- 折り線をつけたら開く
- 印を合わせて段に折る
-

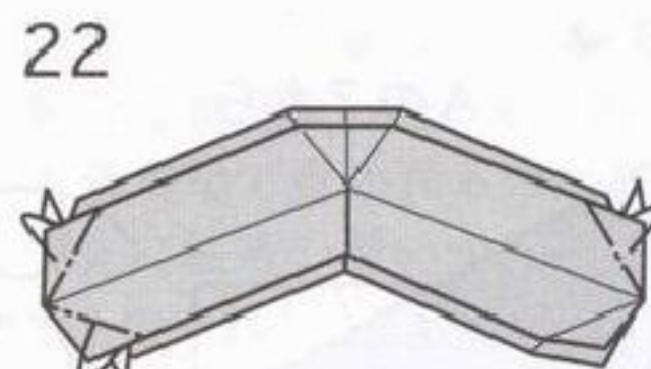
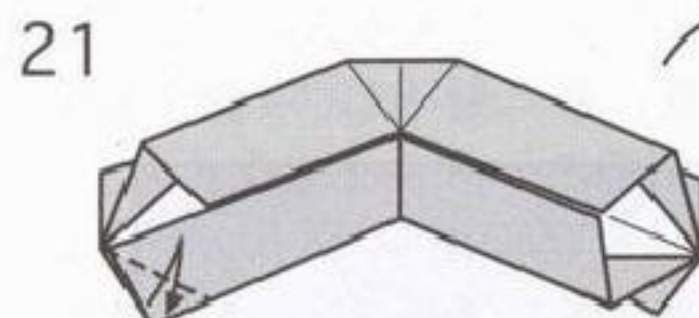
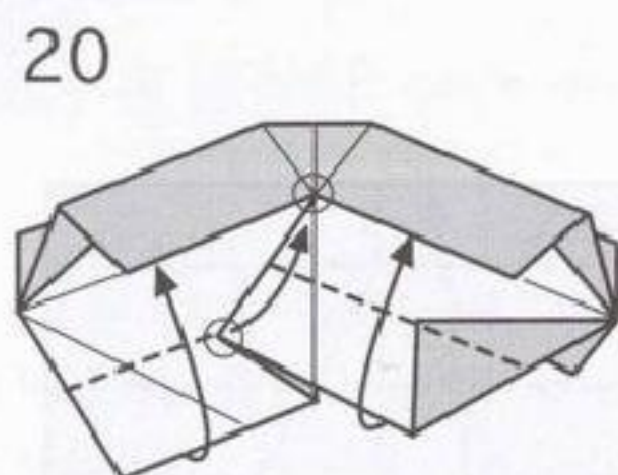
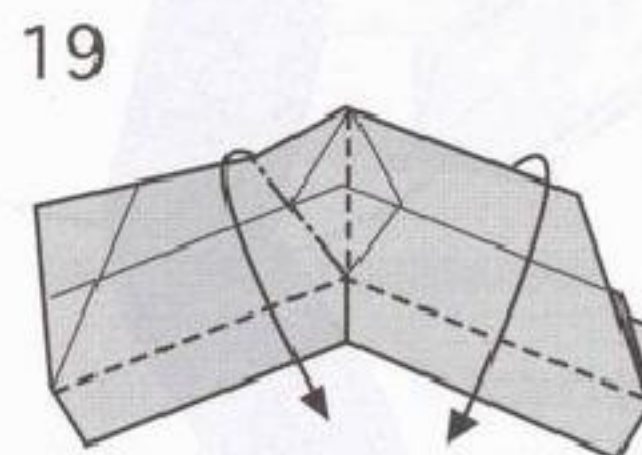
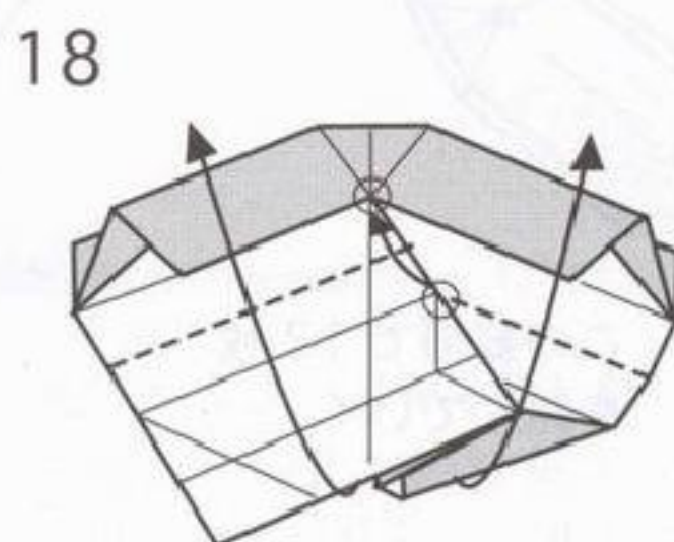
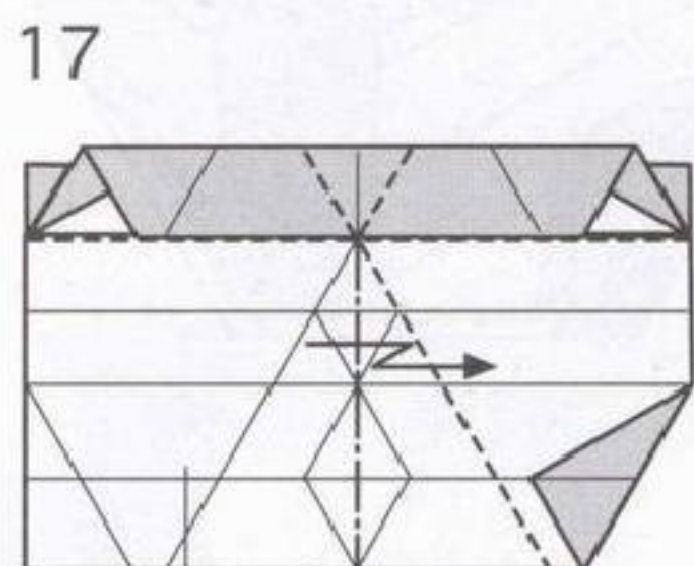
辺に合わせて折る



全部開く



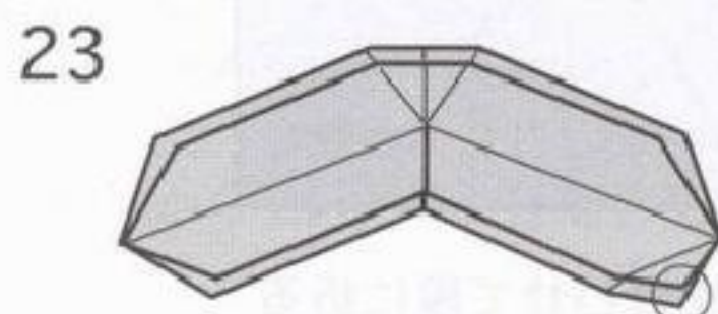
しっかり山線をつける



一カ所だけ上下一緒に
折り線をつける

3カ所を 45° で内側に折る

▶ A ◀

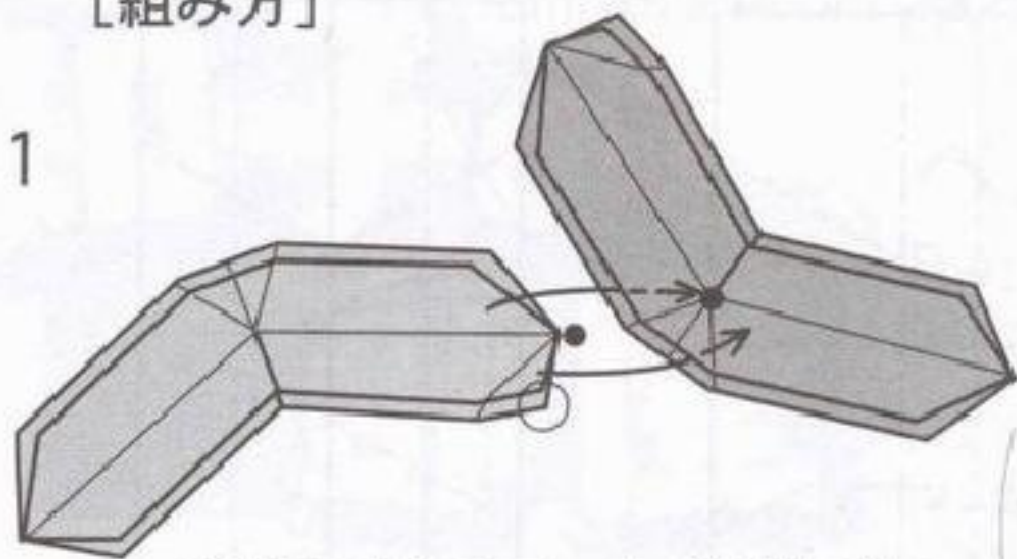


○印の 1 カ所が折り目だけついて
かどが伸びている

(× 12)

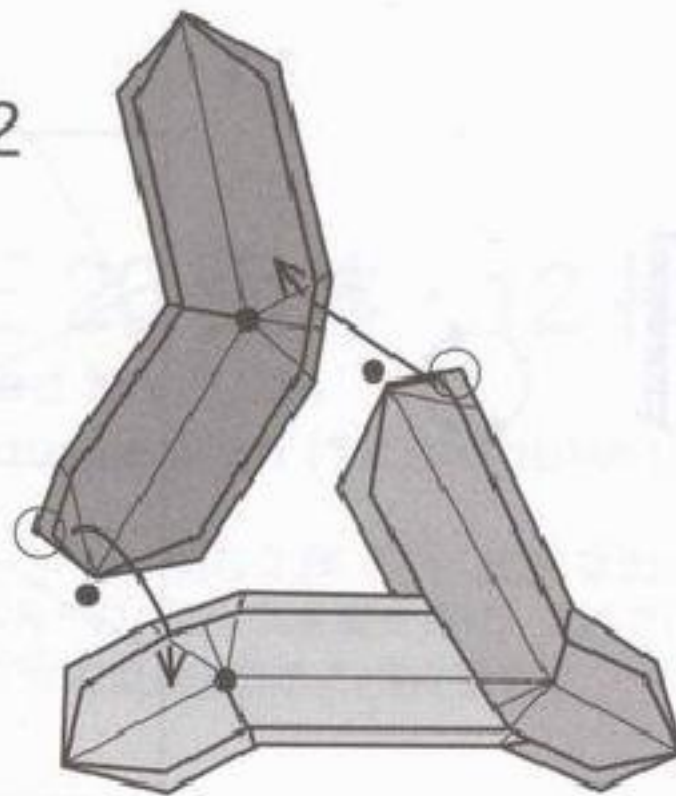
[組み方]

1

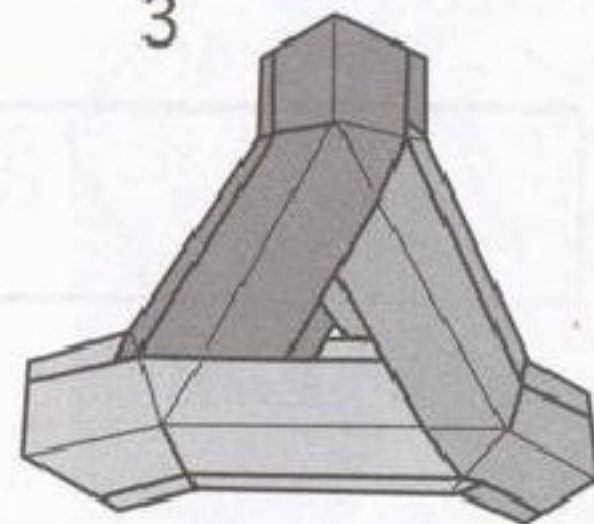


●印を合わせて、かどが伸びている○印の先を差し込む

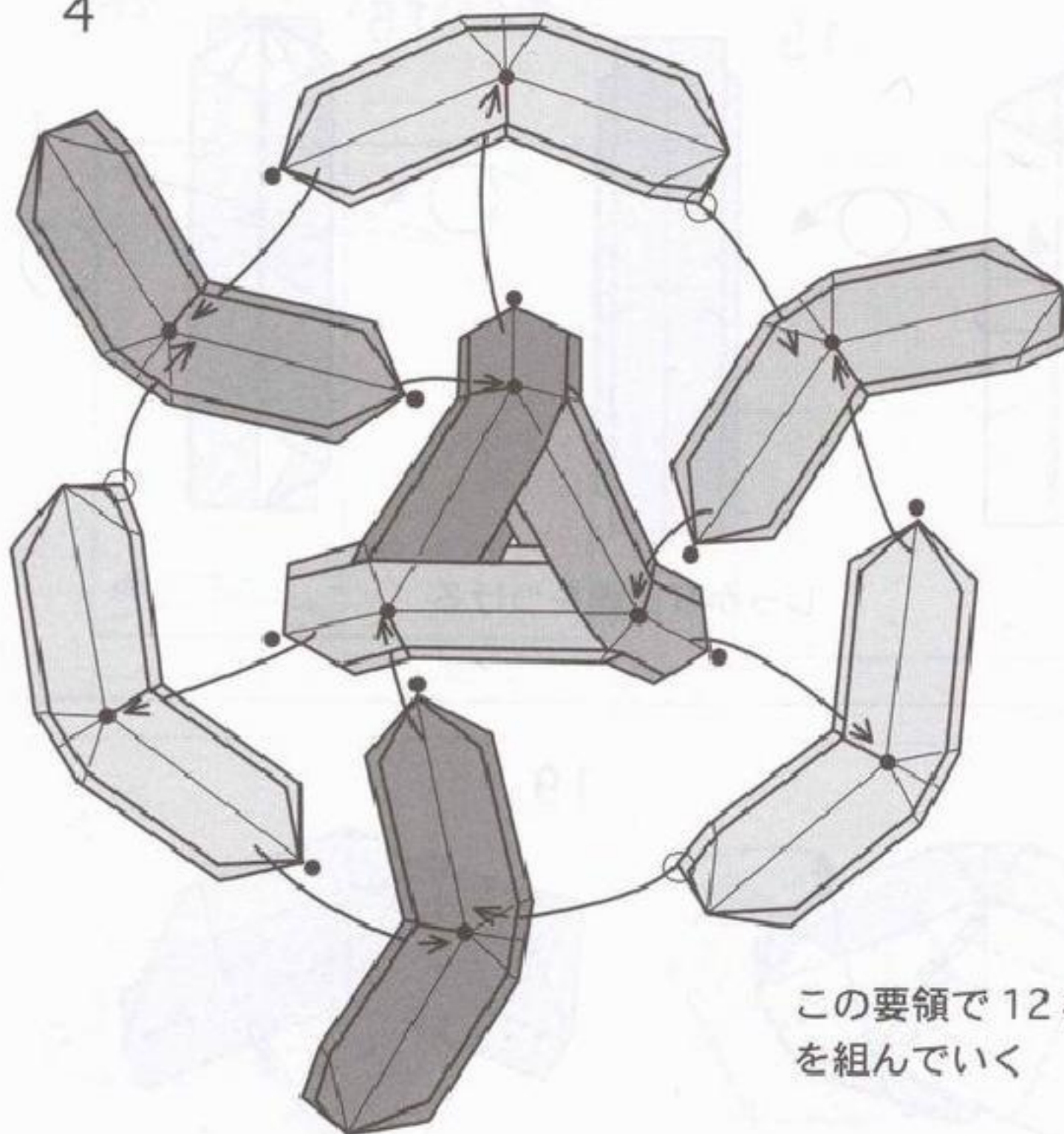
2



3

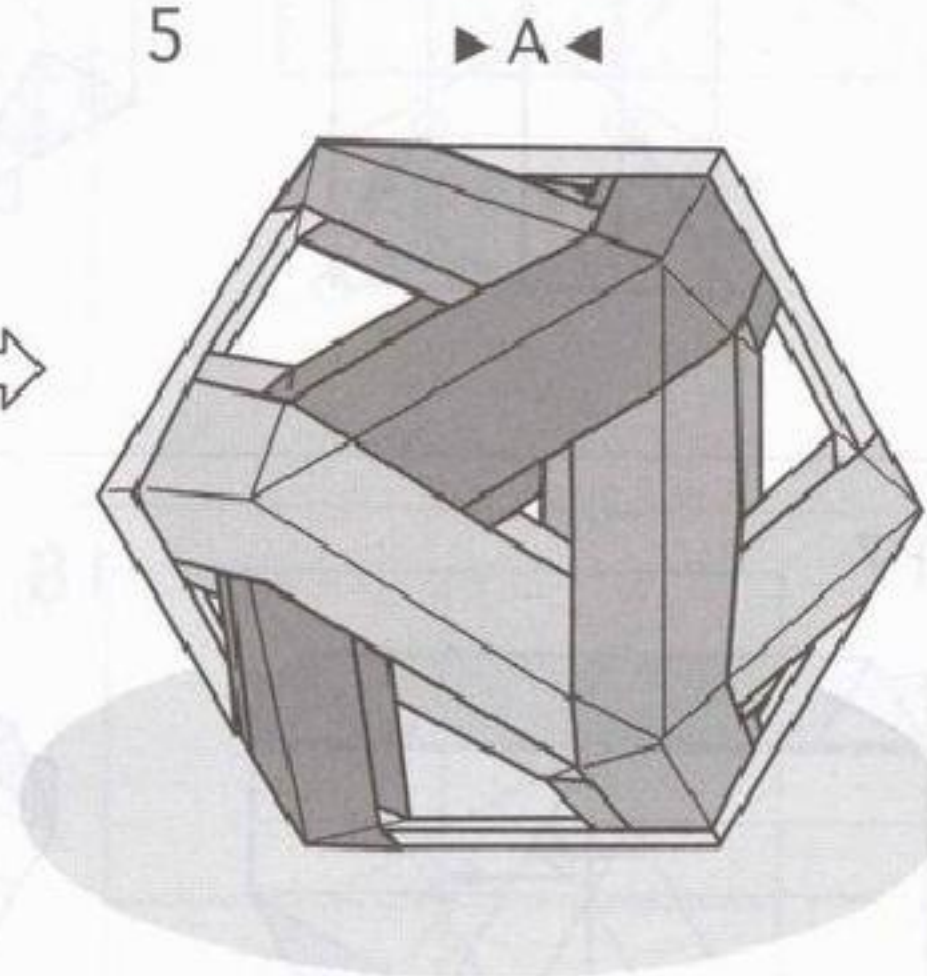


4



この要領で12枚を組んでいく

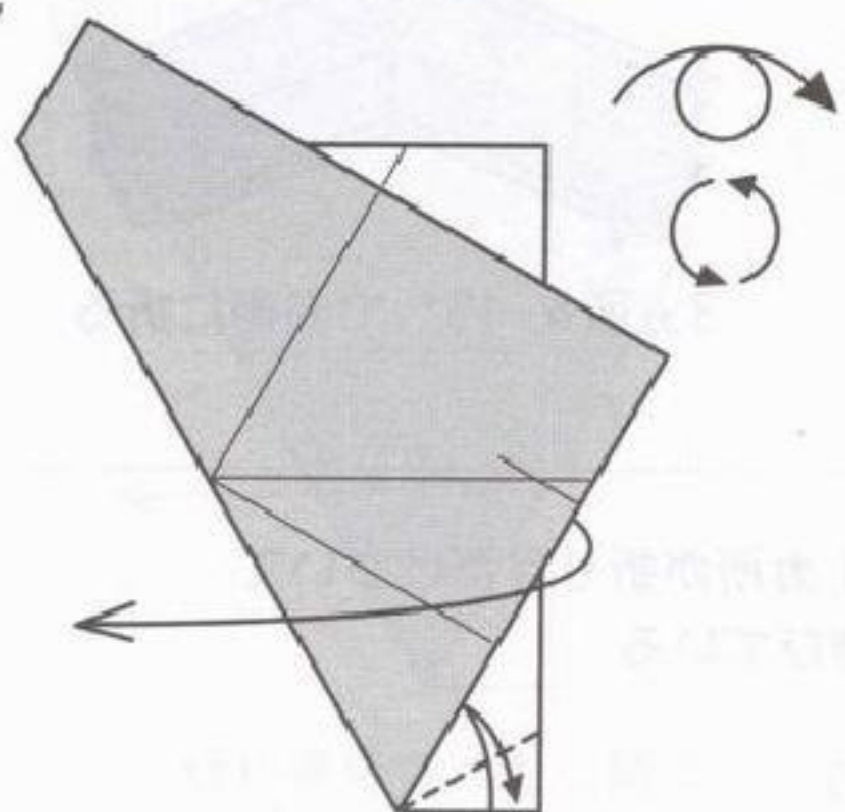
5



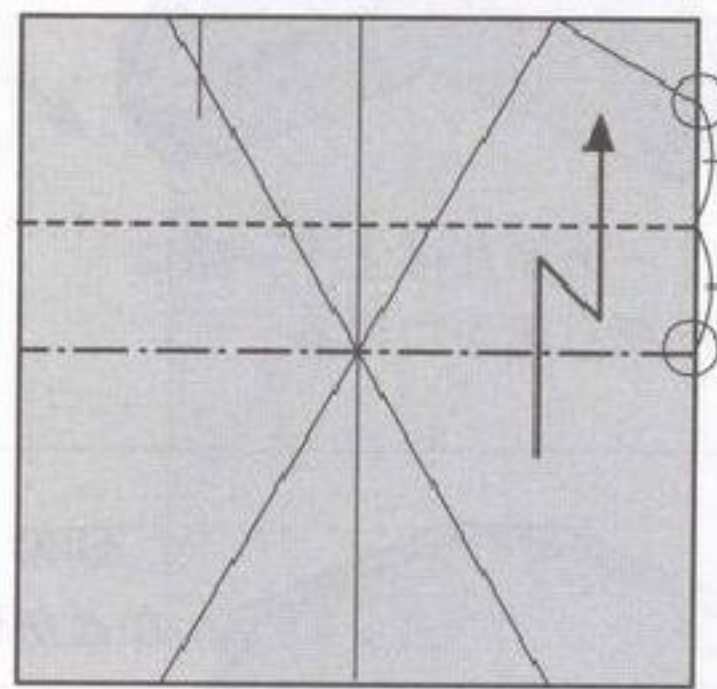
▶ B ◀

Aの7から

7

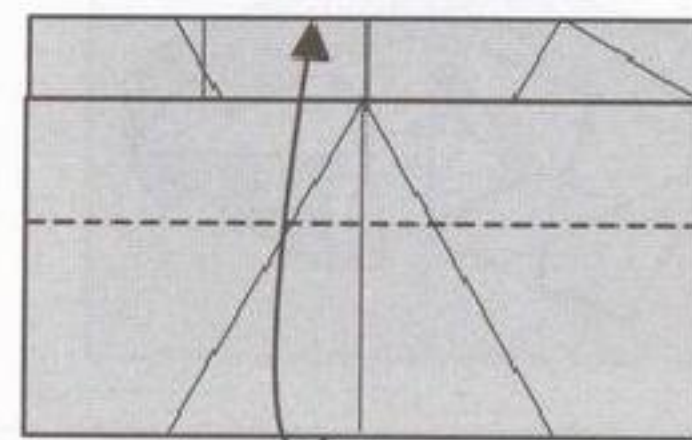


8

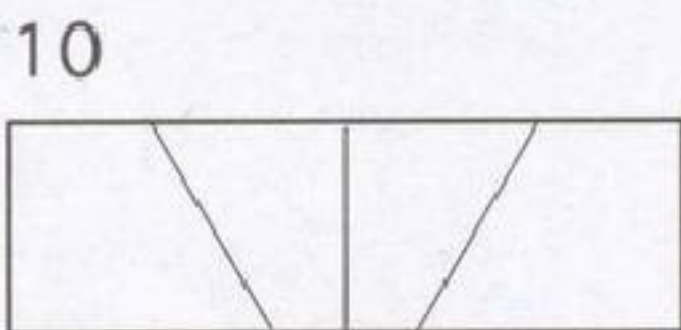


○印を合わせて段に折る

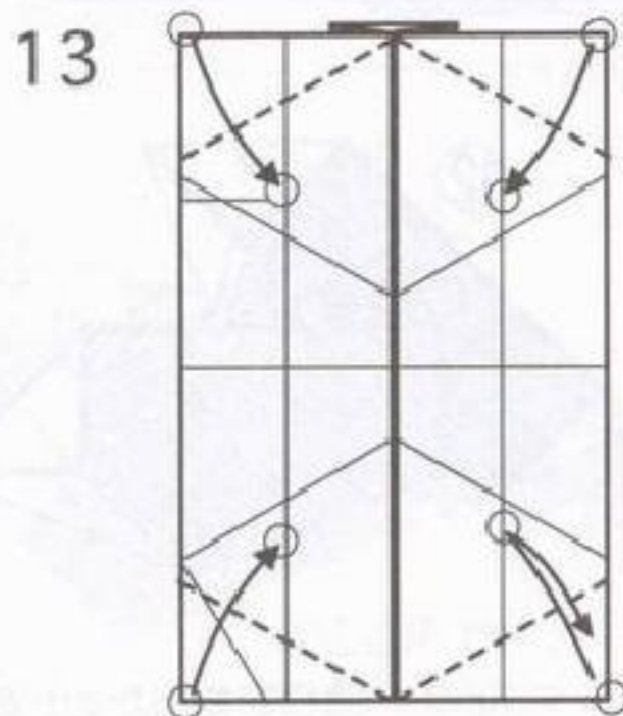
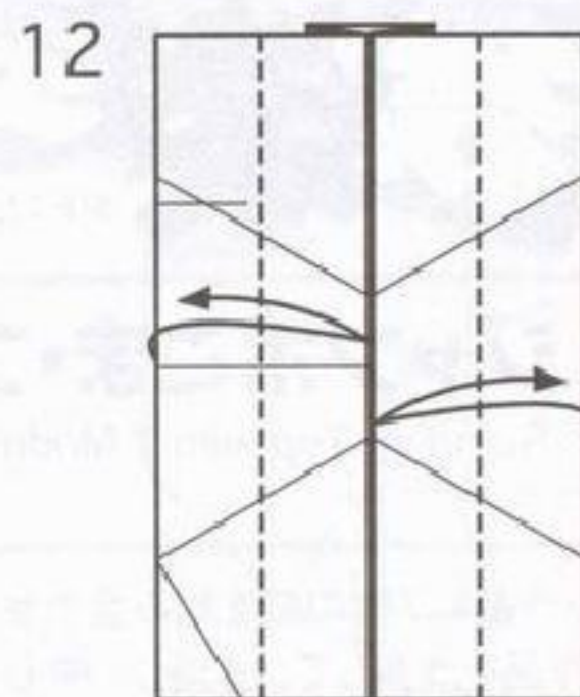
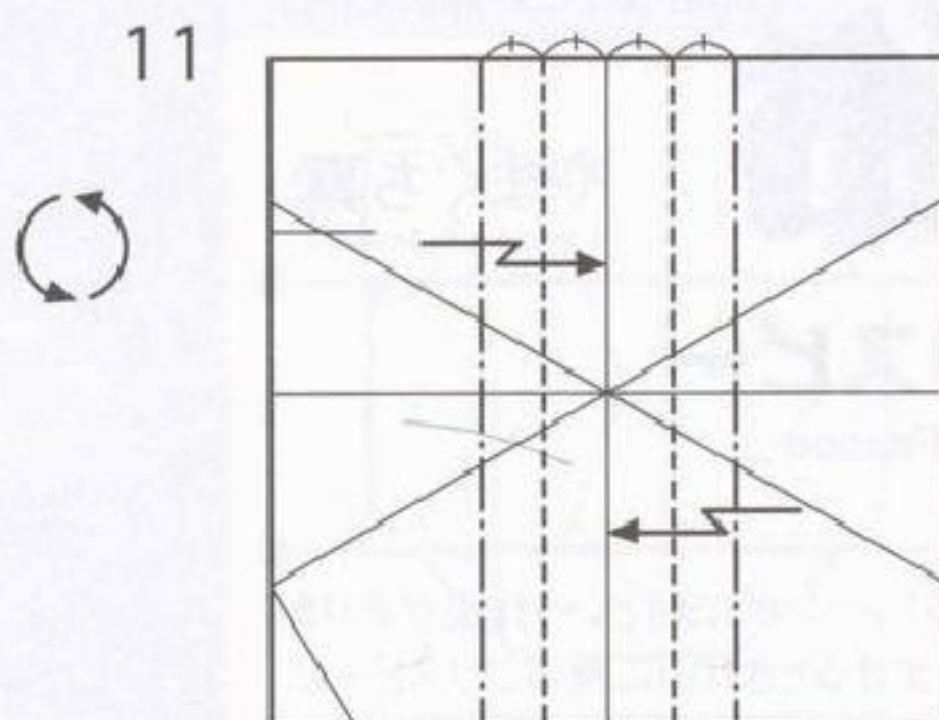
9



辺に合わせて折る

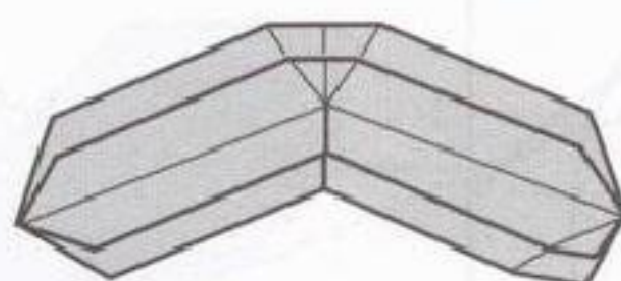
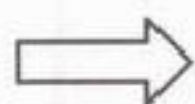


全部開く



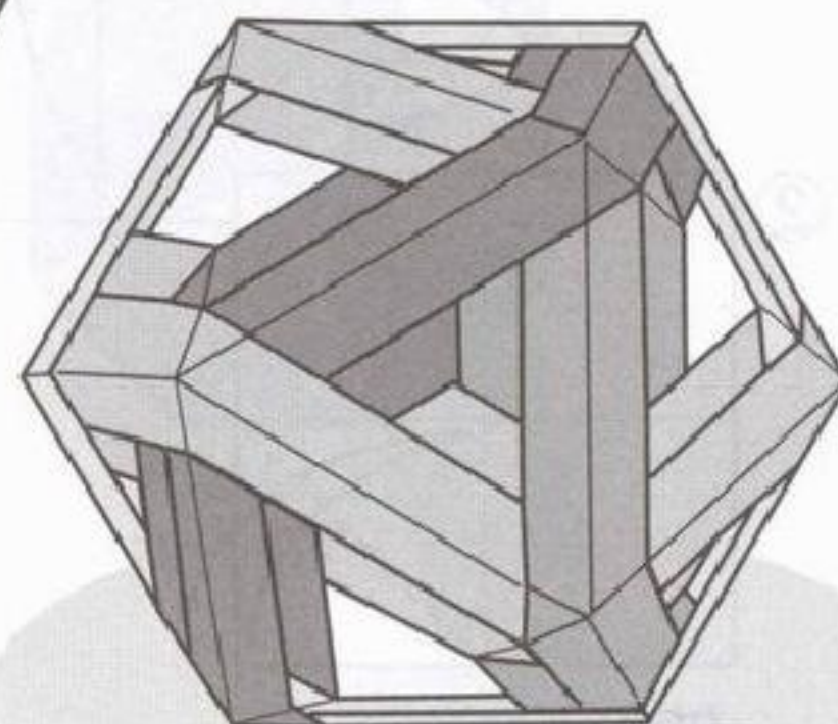
以下、Aの14からと
同じ要領で折る

▶ B ◀



(× 12)

組み方も A と
同じ要領



折り紙の 周辺

第35回

ゴム長靴と
編み上げ靴
Rubber Boots and
Lace-Up Boots

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

山で暮らしていると、市内に買い物に行くときをのぞいて、履物はゴム長靴が定番。庭仕事や家庭菜園など、家から出るときはゴム長。土が入りにくいこと、着脱に時間がかからないこと。それに蛇や虫が多いのでくるぶしを覆っていないと不安。いつだったか、サンダルでちょっと庭に出た連れ合いの足

元にマムシがにゆるりと動いて「静かに、そのまま絶対動かないで!」と叫んだことがある。事故は一瞬の隙に起る。ゴム長はスーパーで千円以下で売っている。最近は値段はそのままだが、質が落ちて折り曲がる所にじきに穴があく。穴のあいたゴム長を履くのは不快。草の露などじくじくと水がしみ込んで靴下が濡れる。1ヶ月に一足買っても1年で1万円くらいだから贅沢に履こう、と思うのだけれど、まだ買ったばかりの感じのするものを捨てる気にならず、ぐずぐず履き続けて気持ちの悪い思いをしている。昔の人は自転車のパンク直しでゴム長の穴をふさいでいた。今はそんな人にとんとお目にかからない。ゴム長は右側に穴のあく

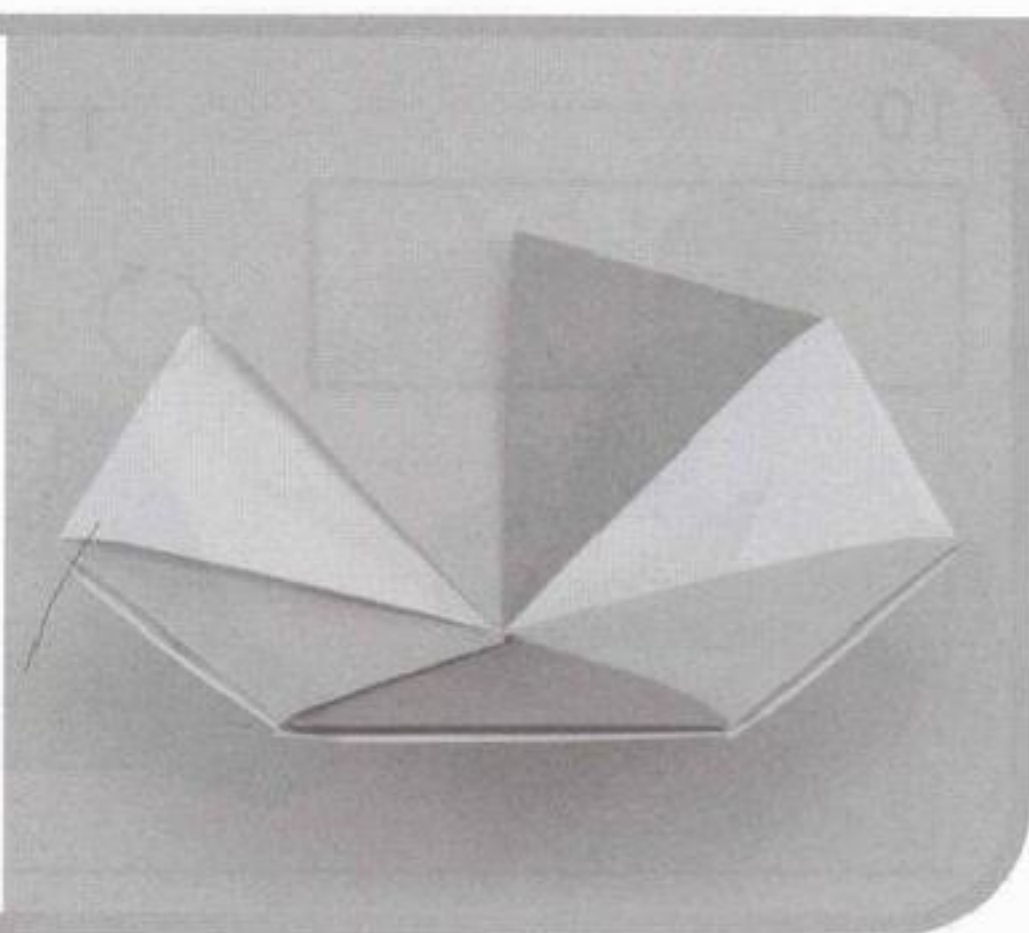
確率が多い。歩き方の癖なのだろう。折り紙を折る時にも微妙な癖が出るのか、ユニットのパーツは一人が折ったものを組み立てる方がうまくいくようだ。

日課の散歩にもゴム長を履いていたが、この春に思い切って安全靴なる物を買った。8千円。主に工事現場で履かれるのだろう。つま先に鉄板の覆いが入っていて重いものを落としても安全なようにできている。見た目よりずいぶん軽く編み上げ靴になっている。出掛ける度に腰をおろしてひもを結ぶ。時間がかかる。その都度、津田良夫さんの「編み上げ靴」を思い出す。記憶に深く残るユニークな作品だ。

第36回 **ジャンボこま・フリスビー**

Spinning Top with 7 Modules · Frisbee

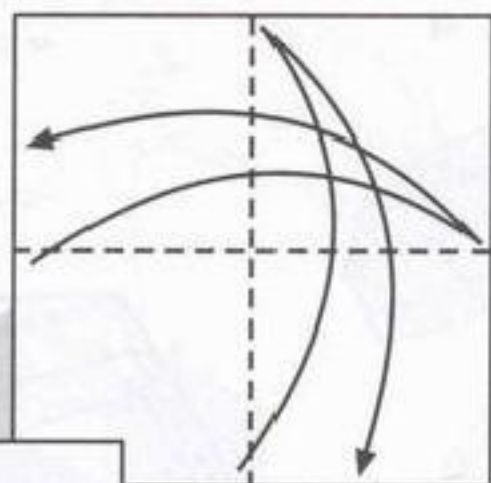
私の古い作品に7枚の紙を組み合わせて作る「ジャンボこま」という作品があります。この作品を改良している時に、中心をへこませるときれいに飛ぶフリスビーになる事に気がつきました。



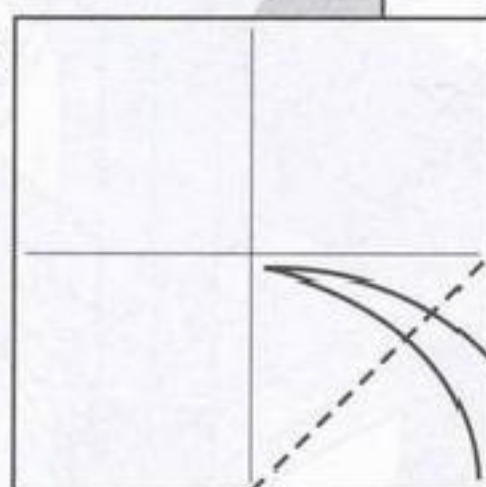
【ジャンボこま】

①

半分に
折り筋を
つける

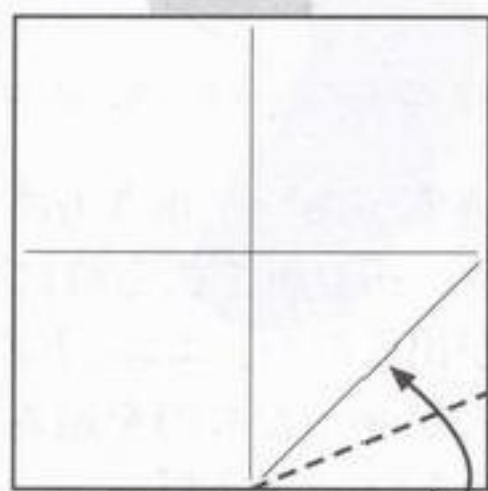


②



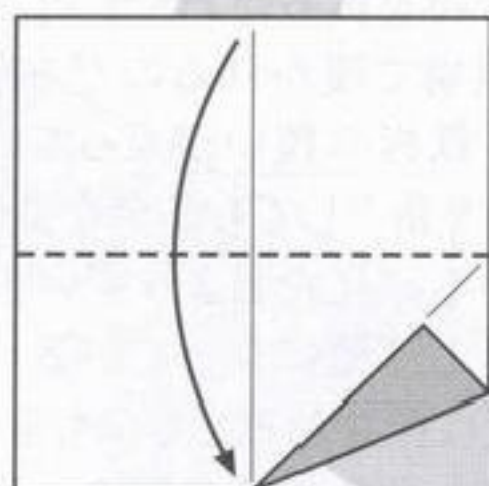
カドを中心に合わせて
折り筋をつける

③



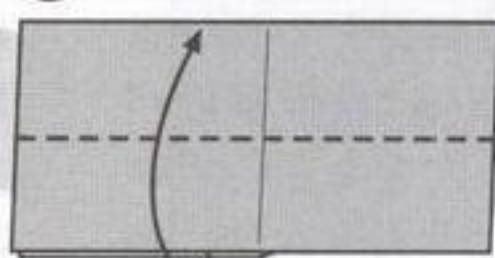
フチを折り筋に
合わせて折る

④



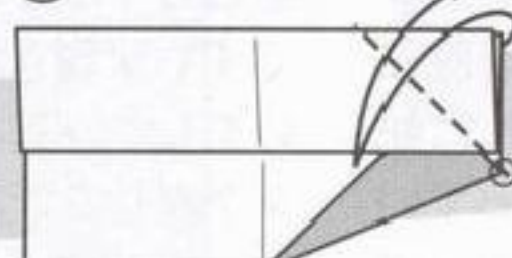
半分に折る

⑤



フチとフチを
合わせて折る

⑥

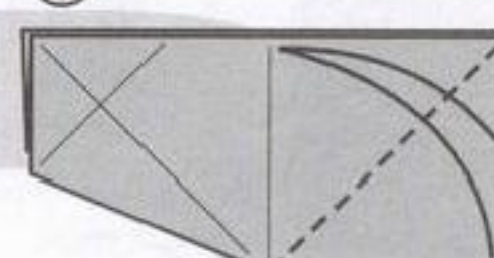


カドのところで
折り筋をつける

⑦

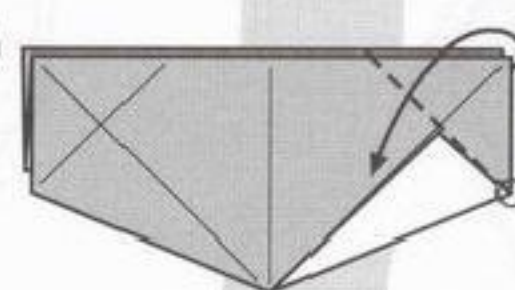


⑧



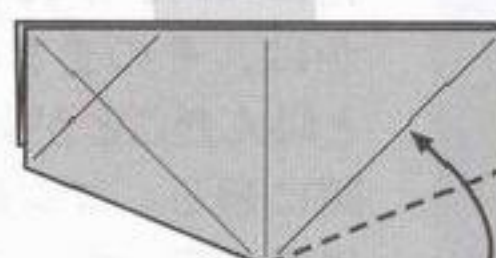
フチを中心に
合わせて折る

⑩



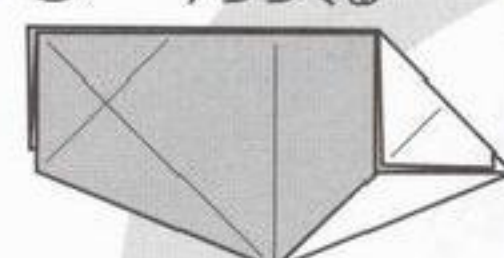
カドのところで折る

⑨



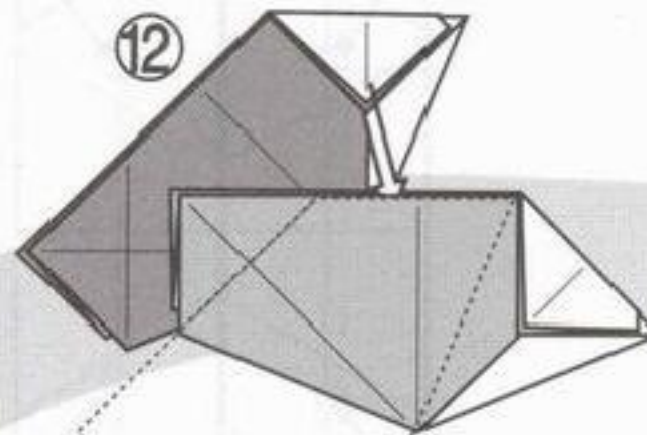
フチを折り筋に
合わせて折る

⑪



同じ物を
7つ作る

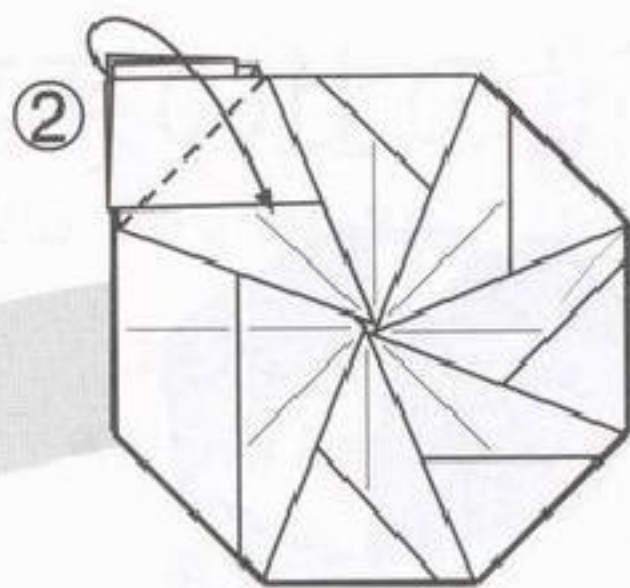
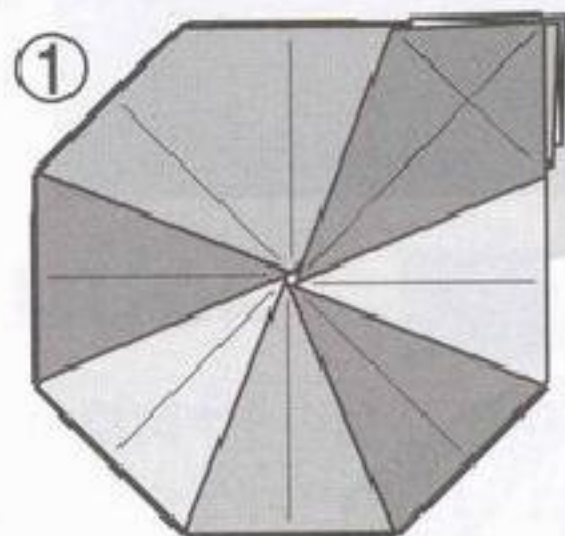
⑫



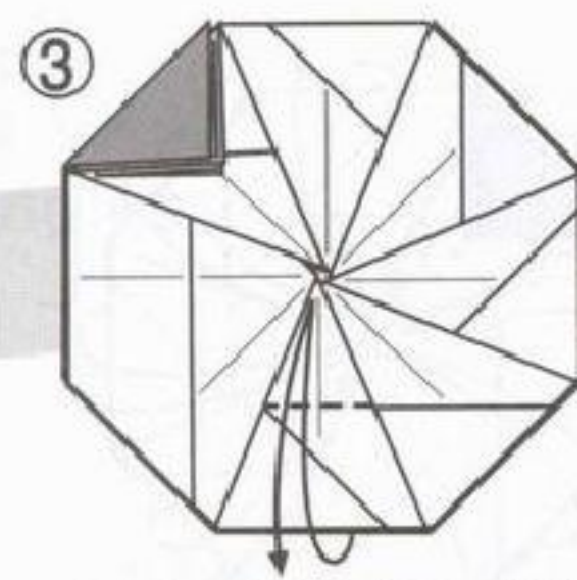
10で折ったカドを
すき間にさしこんで
組み合わせる

【フリスビー】

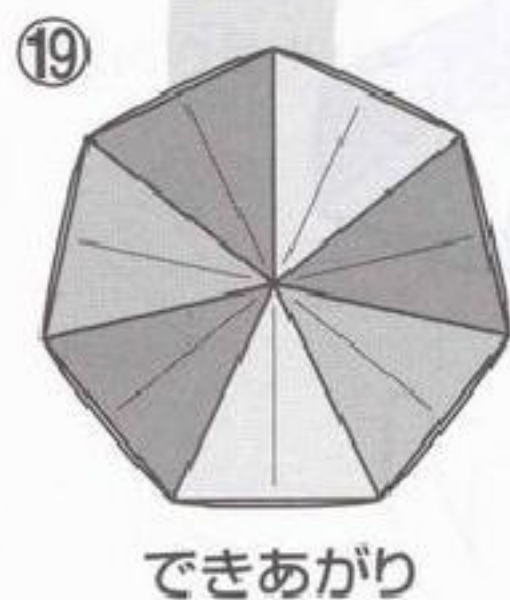
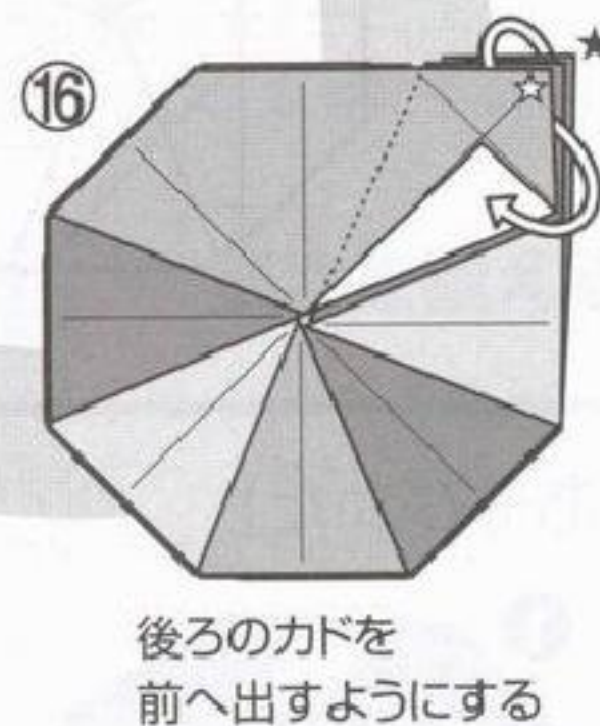
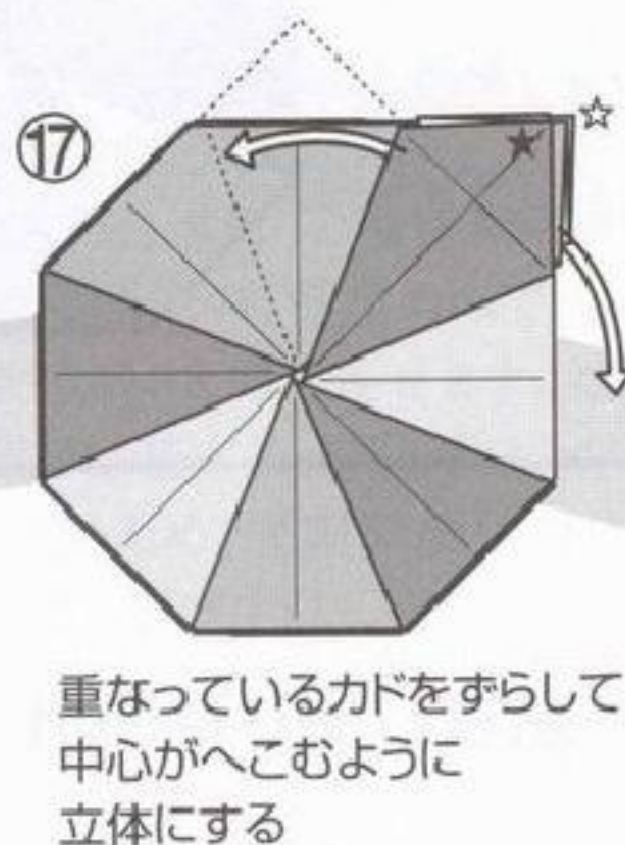
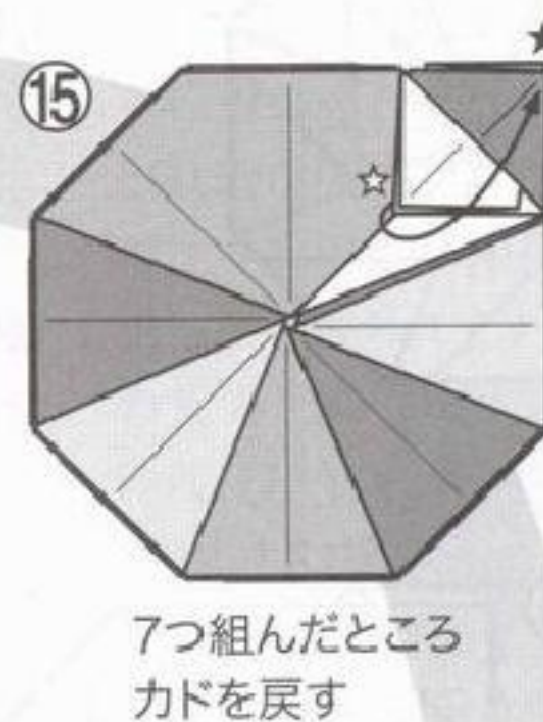
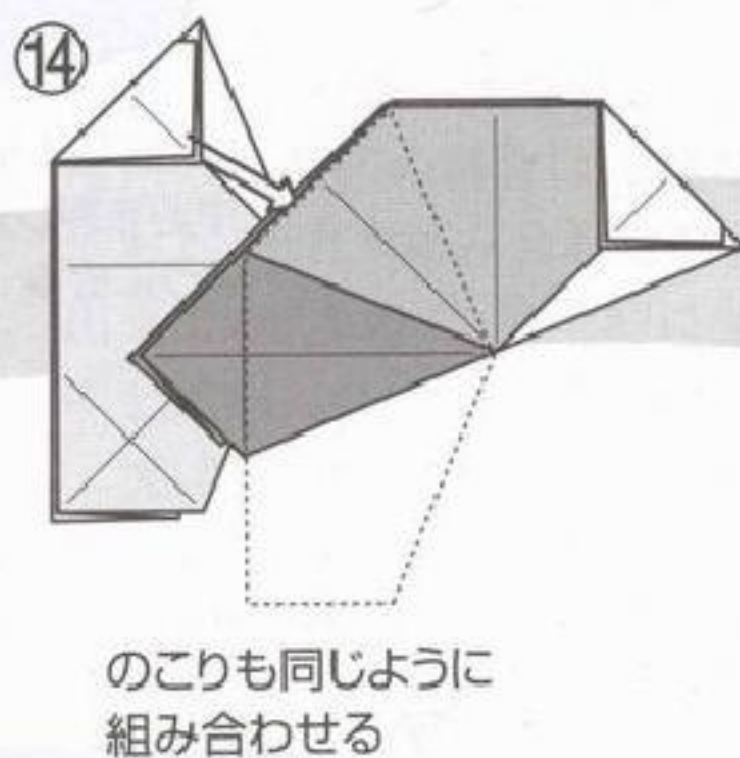
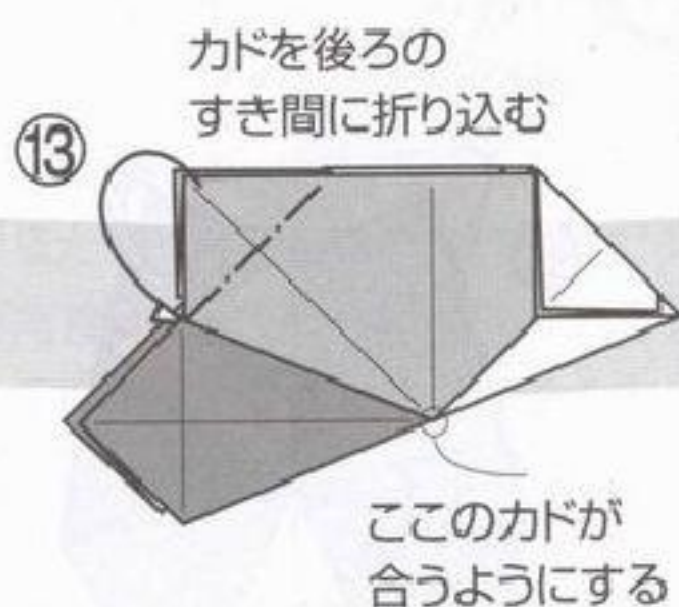
【ジャンボこま】の
17からはじめる



カドをまとめてついている
折り筋のところで折る

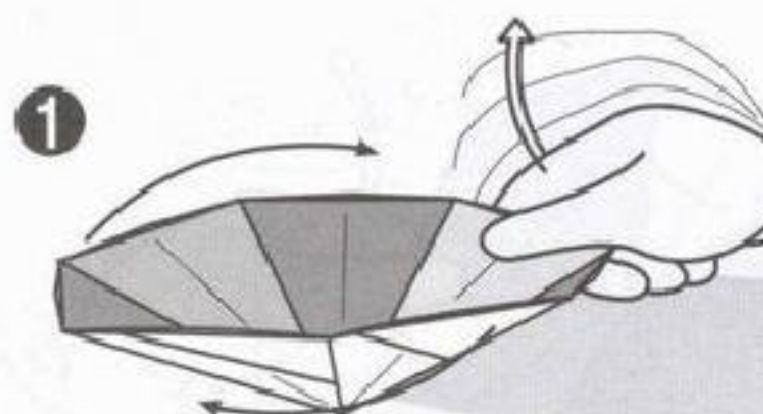


ずれないように気をつけながら
フチを中心に合わせて
折り筋をつける

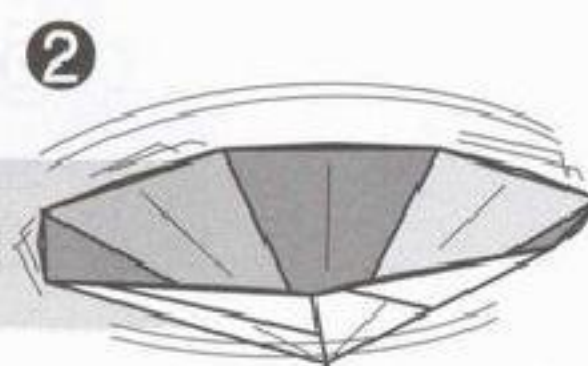


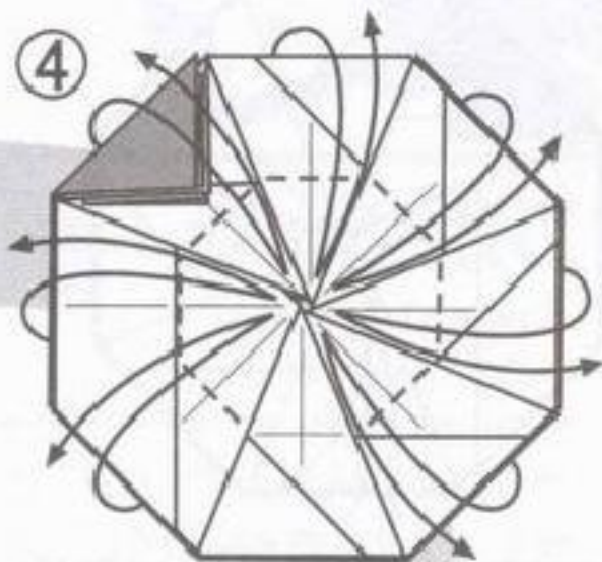
できあがり

【あそびかた】



フチを持って
手首を使って
投げるように回す



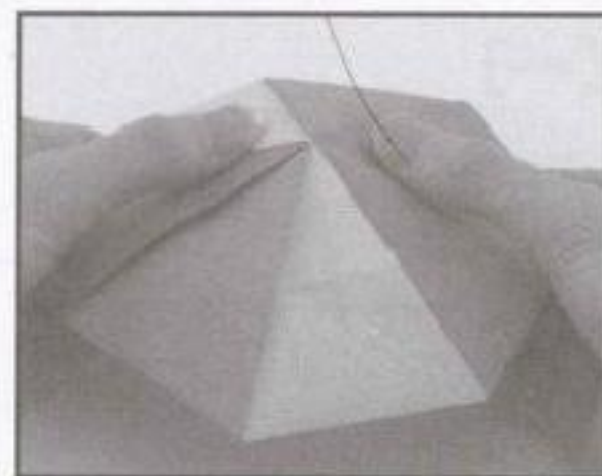


のこりも同じように
折り筋をつける

⑩



できあがり



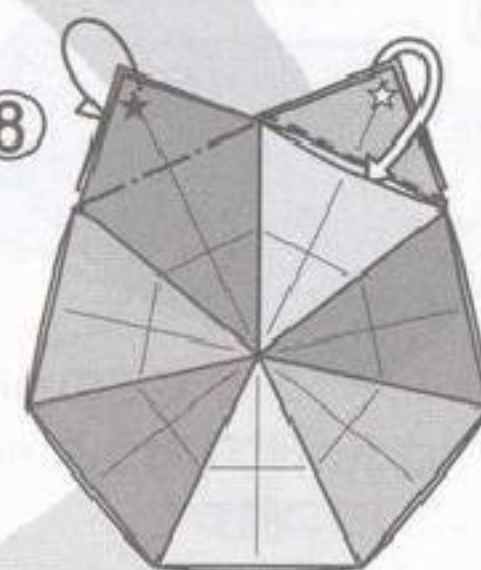
写真のように
両端を持って
中心を
押し込む
ようにする

⑨



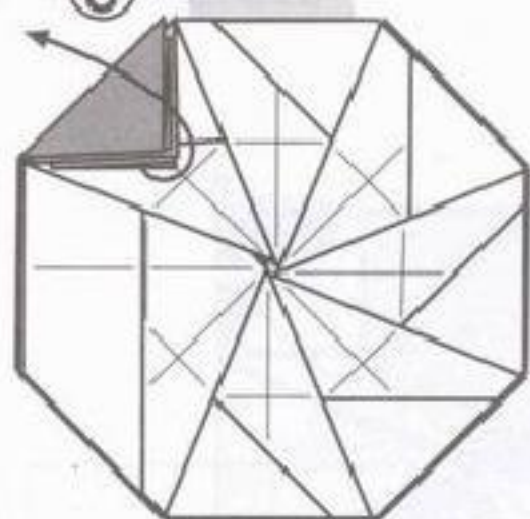
ついている折り筋で
中心を押し込む
ように折る

⑧



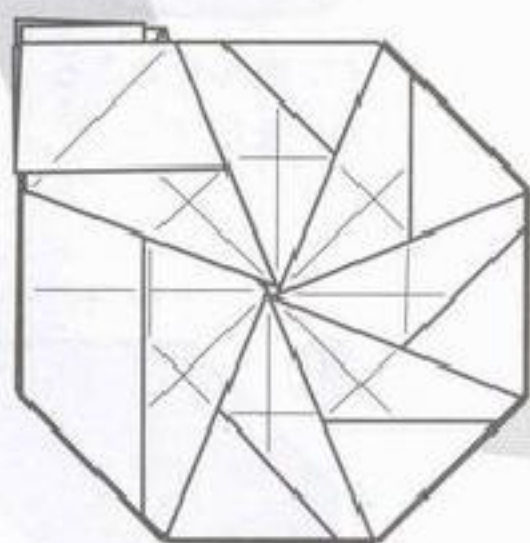
それぞれすき間に
折り込んでとめる

⑤

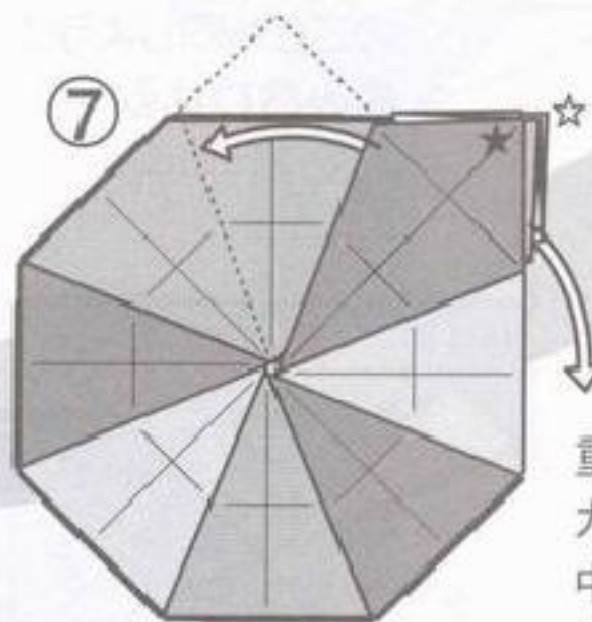


カドを戻す

⑥



⑦



重なっている
カドをずらして
中心が出るように
立体にする

[あそびかた]

①



フチをつまむ
ようにして持つ

②



手首を使って
早く回すようにして
水平にかるく飛ばす

③



22.5 度系の比の折り出し

Folding Out 22.5 Degree and Relevant Angles

神谷哲史
Kamiya Satoshi

はじめに

22.5度系の展開図やその説明で、 $3+\sqrt{2}$ とか $1:1:2+\sqrt{2}$ などといった形で比率を説明している場合があります。さて、この比率にはどういった意味があるのでしょうか？ また作者はどうやってこの数字を計算し折り出しているのでしょうか？

また、複雑な作品では序盤で突然変な角度の折り筋をつけて、それを基準にして折り進んでいく場合があります。この手順にはどういった意味があるのでしょうか？

等分角を基本とする設計では避けて通る事の出来ない $\sqrt{2}$ を含んだ比とその折り出しについて、筆者の使っている方法などを紹介したいと思います。ちなみに平方根の記号をみて身構えてしまう方もいるかもしれませんが、そんなに複雑な計算はしませんので安心して下さい。四則演算とほんの少しの幾何、あとは折り紙の知識とセンスがあれば大丈夫です。

$\sqrt{2}$ という数字

22.5度系の展開図では、長さの比率を表すのに $\sqrt{2}$ を含む比率が使われます。数値に直すと1.41421...(以下略)と小数点以下延々と数字が続く数になりますが、なぜ整数だけでなく $\sqrt{2}$ を含んだ数字が必要になるのでしょうか？ 実はこれは展開図の最小パーツとなる原子(=

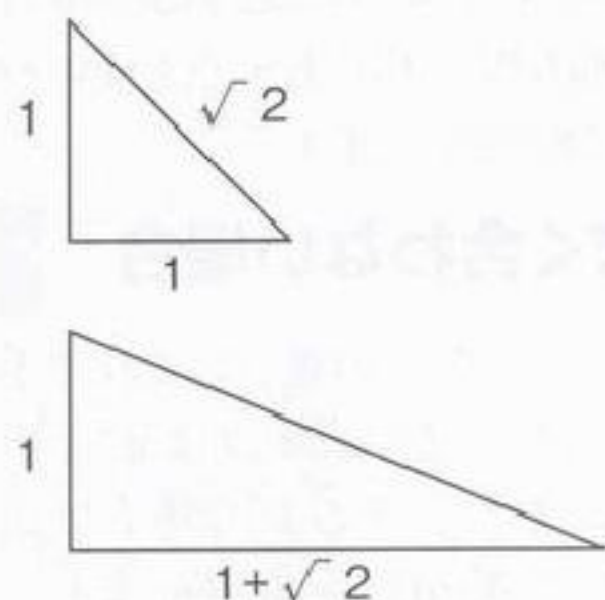


図1 22.5°系の2種類の原子

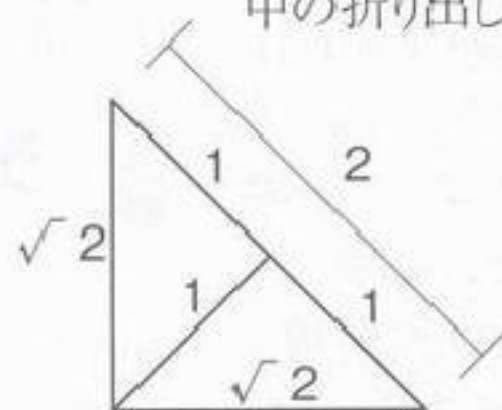


図2 $\sqrt{2}$ は直角二等辺三角形で考えると分かりやすい

ビバ！おりがみで提唱された展開図を構成する図形の最小単位)の形に理由があります。22.5度系の原子は、2種類の三角形になります(図1)。片方の直角二等辺三角形は整数で高さとお幅を表せますが、もう一つの直角三角形は $\sqrt{2}$ を使わないと表せない比率になります。22.5度系の展開図の場合は、2種類の三角形およびそれを組み合わせた形のみで出来ていますので、結果的に全体の比率を表すには $\sqrt{2}$ が必要となります。

実は今回紹介する折り出し方法の場合、数字で考える必然性はないのですが、実際の作業としては数字を使った方が効率等の点で優れています。

まああまり難しい事は考えず、とりあえず折り紙的には $1:\sqrt{2}$ は「正方形の辺と対角線の長さの比」、数字としては $1:\sqrt{2}$ と $\sqrt{2}:2$ は同じ比であると理解してもらえば十分です(図2)。

ちなみに蛇腹折りの場合原子は直角二等辺三角形の1種類のみで、この形は整数で高さとお幅を表せます。蛇腹の展開図では基本的に同じ大きさの原子のみを扱うため、展開図全体の比率も整数の比となります。

比の折り出し方法

複雑な比の折り出し方法はいくつか知られていますが、今回ご紹介する方法は簡単な部類に入ります。

平面状の任意の点は、2本の直線で決める事が出来ます。同様に正方形の中の折り出し点も、その点を通る2本の折

り筋をつけることで折り出す事が出来ます(図3-a)。

とはいっても、これではあまりにも自由度が高すぎてどこから考えれば良いのか分からないので、この2本の線の起点を正方形のカドA Bに固定してやります。これに折り出し点Cを通る縦横の線を2本加えて2つの長方形を作ります。2本の線はそれぞれ長方形の対角線ACとBCとなりますので、それぞれの長方形の比を折り出す事ができれば目的の折り出し点を得られます(図3-b)。ちなみにこの長方形は、AまたはBのカドさえ合っていればどういう大きさで折り出しても問題ありません(図3-c)。

実際の手順としてはまず全体の長さを数えたあと、折り出し点を決めて、2つの長方形が折り出し可能かを判定するという形になります。エンシェントドラゴンを例にして、順番に手順を追っていきましょう。

長さを数える

まずは、比率の基準となる1の長さを決めます。方法はいくつかありますが、私の場合は以下のような手順で行っています。

1. とりあえず展開図のなるべく多くの点を通るところで辺と平行な線を引いてみます。エンシェントドラゴンの場合、図4のような形になります。この辺と線の幅を仮に1として、一辺の長さを数えていきます。
2. 次に辺と線の間の部分をよく見ると、正方形や三角形の構造が並んでいる

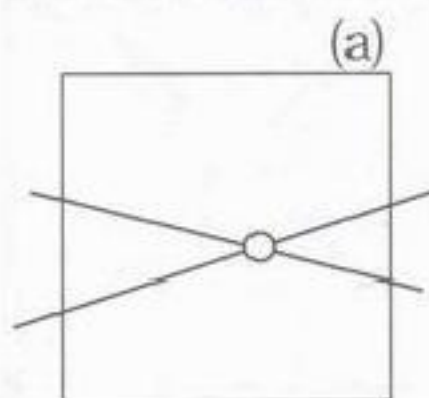
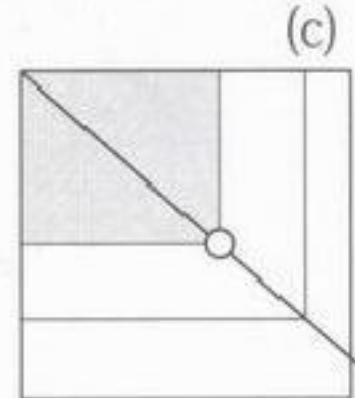
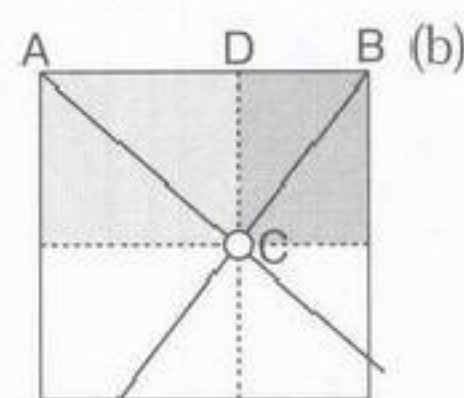


図3 折り出し点○を折り出すには2本の線が必要、線はどう折り出しても良い



のが分かるかと思えます。この構造の部分ごとに、正方形なら1、シルバー矩形であれば $\sqrt{2}$ といったように数字をあてはめていきます。よくある形とそれに対応する長さを図5に挙げておきます。

3. 最後に並んだ数字を全部足します。1と $\sqrt{2}$ をそれぞれ足していった結果の数字が一辺の長さとなります。エンシェントの場合は $1:1:1:1+\sqrt{2}=4+\sqrt{2}$ になります(図6)。

うまく数えやすい形にならない場合は、線の位置を上下させて上手く数えられる位置を探します。構造にもよりますが幅を少しずつ狭くしながら試してみるのが良いようです。

折り出し点の絞り込み

さて、それぞれの部分の長さが分かったら次は折り出し点を決める必要があります。

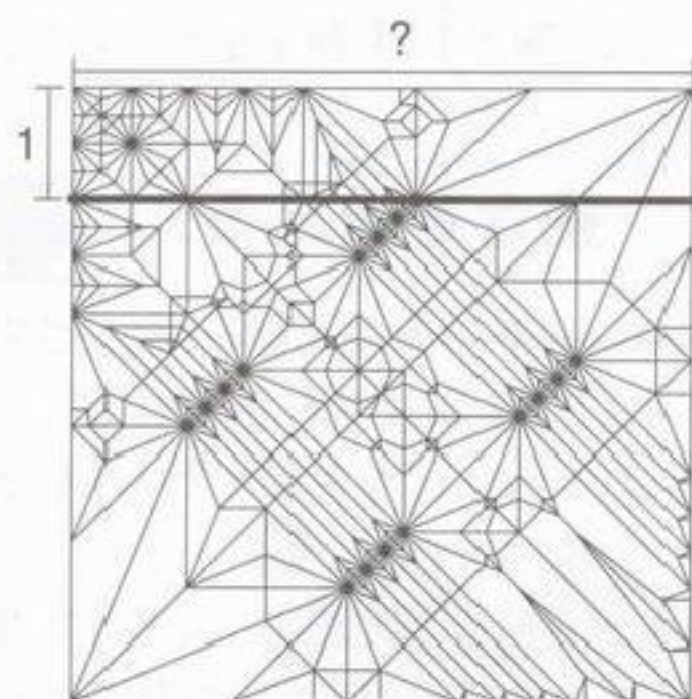


図4 適当な幅に区切って数える

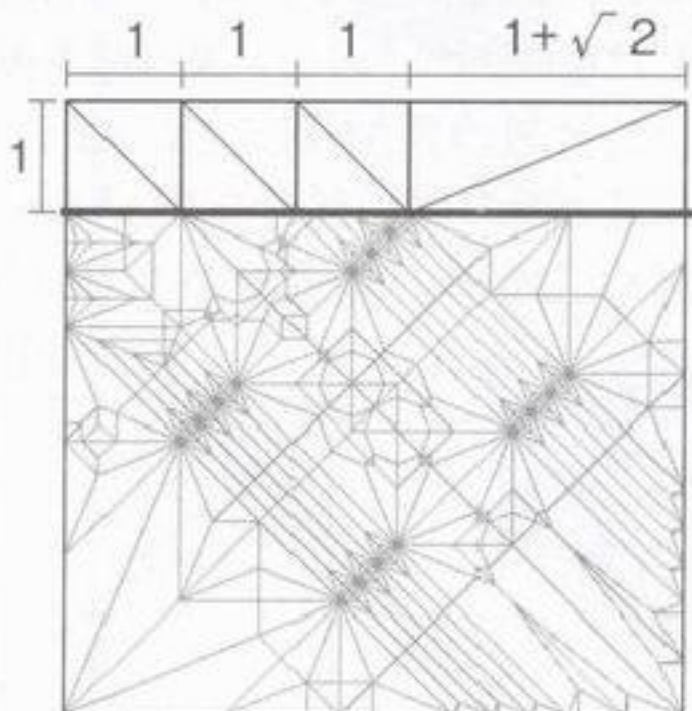


図6 エンシェントドラゴンを数えた結果、 $4+\sqrt{2}$ だということがわかります

ますが、その際に考えなければならない点が2つあります。

まずは折り出し点を構造上重要な点にする事で、その後の折りやすさや分かりやすさなど、これを優先しない理由は無いでしょう。具体的には全体の構造の中心となるような点や、構造を大きく分割した時の分かれ目などがこれにあたります。

もう1つはなるべく折り出しやすい点にする事です。複雑な比は折り出す手間もかかる上に何より手順が長いため精度が落ちやすいという欠点もあります。簡単に折り出せるのであればそれにこした事はありません。2つの長方形のそれぞれの辺の長さ(図3-bのADとBDそしてCD)がそれぞれ図8の表の中のどこかにあれば問題ないでしょう。また、もしこの両方を満たす点が見つからない場合はこの2つのバランスを見ながら折り出し点を調整する事になります。

$\sqrt{2}-1:1$	
$1:1$	
$\sqrt{2}:1$	
$1+\sqrt{2}:1$	
$2\sqrt{2}:1$	

図5 構造と比率の対比表

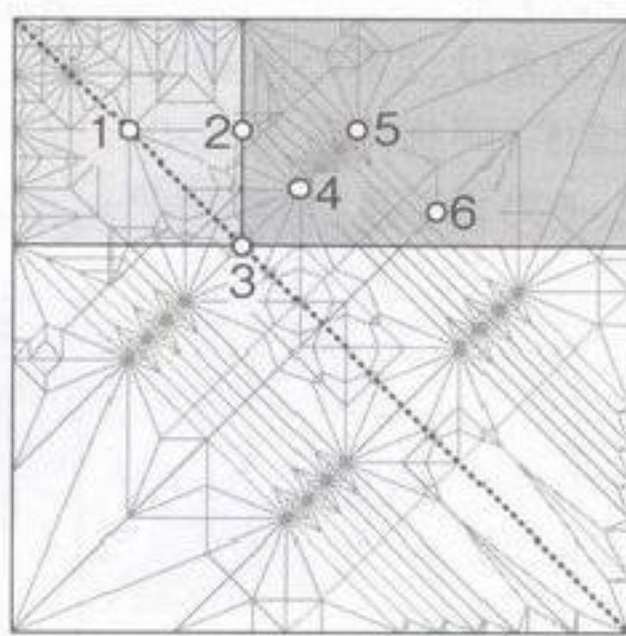


図7 折り出し点候補とその評価

いくと、まず点1の場合、ADとBDの数値は1と $3+\sqrt{2}$ となりますが、 $3+\sqrt{2}$ が表の中にないのでこれは不可です。次の点2および点3の場合は2と $2+\sqrt{2}$ で、これはどちらも折り出しやすい値です。点5の場合は3と $1+\sqrt{2}$ でどちらも表の中にある数字ですが、3は折り出しの選択肢が少なく扱い辛そうです。また、点4や点6は比が複雑になるので現実的ではありません。見比べてみると点2もしくは点3が良さそうです。

折り出し点の決定

ある程度折り出し点を絞り込めたら、次は2つの長方形がそれぞれ折り出しやすい形であるかを確認していきます。参考までに図8、9に1:4までの比較的折り出しやすい比を挙げます。

優先して試すべきなのは対角線上にある点で、片方の長方形の比率が1:1つまり正方形となるので折り出しやすい場合も多く、とくに対角線を対称軸に使っている作品の場合、ほとんどの場合にこれが最適解となります。

エンシェントドラゴンの場合、点3が対角線上にあるのでこれを見てみると、AD:CDが $2:2=1:1$ 、BD:CDが $2+\sqrt{2}:2$ となりどちらも非常に折り出しやすい比となります。これを手順化したのが図10で、実際に折り図でも使用しています。

また、一応点2の場合も見えていくと、AD:CDが $2:1$ 、BD:CDが $2+\sqrt{2}:1$ となり折り出しは可能です。しかし点3の場合の方が手順も短く、折り出す点も使いやすい位置にあるといえます。

うまく合わない場合

エンシェントドラゴンの場合はこれで手順が見つかりましたが、毎回このように上手くいくとは限りません。そのような場合は比や数を調整して折り出し手順を探します。

○神谷哲史(かみや・さとし)=
1981年名古屋生まれ。折り図に時
間をとられて作品数が少なくなっ
ているのが最近の悩み。



展開図の中に適当な折り出し点が見
つからない場合、まずはCDの長さを変え
て、2つの長方形が折り出しやすい比率
に出来ないか試してみます。これが上手
いけばAD:BDの比率を折り出す事が
できます。図8の数値などをCDに順に当
てはめてみて、上手く折り出せる位置が
ないか探してみましょう。

CDの長さを調整しても折り出しやす
い比率にならない場合はADとBDを調
整してみます。方法はいくつかありますが
、例えばADとBDの小さい方の値を
倍にすると折り出し可能になる場合があ
ります。例えば $2+\sqrt{2}$: $3+\sqrt{2}$ の場合、そ
のままの比率では折り出しが難しくなっ
てしましますが $4+2\sqrt{2}$: 1 とすれば比較的
簡単に折り出す事が出来るようになります
。また逆に大きい方の値を半分にする
と上手くいく場合もあります。

	折り出し方	比率
a		$1:2.414$ $=\sqrt{2}-1:1$ $=1:1+\sqrt{2}$
b		$1:1.707$ $=2-\sqrt{2}:1$ $=2:2+\sqrt{2}$
c		$1:1.414$ $=1:\sqrt{2}/2$ $=1:\sqrt{2}$
d		$1:3.414$ $=1+\sqrt{2}/2:1$ $=1:2+\sqrt{2}$
e		$1:1.207$ $=1:2\sqrt{2}-2$ $=2:1+\sqrt{2}$
f		$1:2$ $=1:2$
g		$1:1.333$ $=3:4$
h		$1:4$ $=1:4$

図9 よく使う1:4までの長方形の折り出し方

x/y	$2+2\sqrt{2}$	4	$2+\sqrt{2}$	3	$1+\sqrt{2}$	2	$\sqrt{2}$	1	$\sqrt{2}-1$
$\sqrt{2}-1$							3.414(d)	2.414(a)	1
1	3.414(d)	4(h)	3.414(d)		2.414(a)	2(f)	1.414(c)	1	
$\sqrt{2}$	2.414(a)		2.414(a)		1.707(b)	1.414(c)	1		
2	2(f)	2(f)	1.707(b)		1.207(e)	1			
$1+\sqrt{2}$			1.414(c)		1				
3		1.333(g)		1					
$2+\sqrt{2}$	1.414(c)		1						
4	1.207(e)	1							
$2+2\sqrt{2}$	1								

図8 よく使う1:4までの長方形の比率表。
小さい方の数字をx、大きい方をyとしています。ちなみ
にアミの項目はエンシェントドラゴンで使用した比率

折り出し点を無視して正方形の辺の
長さの数値だけで考えるというのも一つ
の手です。例えば上記の比率の場合、
一辺の長さは $5+2\sqrt{2}$ となります。これを
折り出しやすい比に分けた場合、 $4+2\sqrt{2}$
: $2:1$ 以外にも $3:2+2\sqrt{2}$ が考えられます。ま
た少し特殊ではありますが、 $2:3+2\sqrt{2}$ も
折り出し可能な比率です。また、よく使わ
れる比の種類は意外と少ないので、違う
物に見える手順から同じ比が折り出せ
たり(図11)、知られている折り出し手順を
使って折り出せる事が分かるかもしれま
せん。

比が複雑すぎる場合

複雑な比率の場合、数値が大きすぎ
て手が付けられなくなる場合もあります。
そういった場合、もし可能であれば数字
を小さくするために $1/2$ や $1/\sqrt{2}$ 、 $1/(1+\sqrt{2})$
などにしてみます。またそれも難し
い場合は比を $\sqrt{2}$ ではなく小数にして折
り出しを評価してみます。例えば $3+2\sqrt{2}$
: $7+5\sqrt{2}$ の長方形の場合、小数で表す
と $1:2.414$ になり、これは $1:1+\sqrt{2}$ と同じ比
率である事が分かります。

また、比が複雑すぎてどうしても1回で
は折り出せない場合もありますが、理論

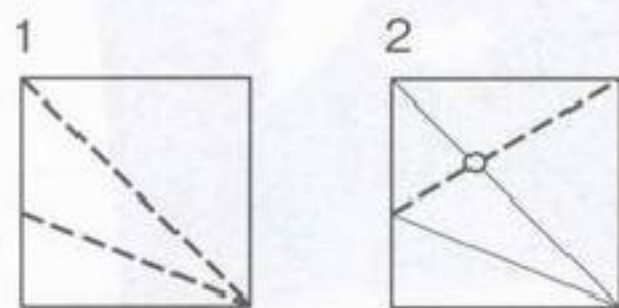


図10 エンシェントドラゴンで使
った $2:2+\sqrt{2}$ の折り出し手順

上は比の折り出しを複数回くりかえせば
どんな比でも折り出せます。ただし繰り返
すほど折りの誤差が出てきますので、現
实的には3回程度までが実用的な範囲
となるでしょう。

最後に

実際のところ、折り出しの必要な複雑
な比率は普通はあまり使いません。ただ
し展開図を使った創作をする場合は必
要となる機会が増えてきますので、何ら
かの方法を覚えておくると便利です(私の
場合は正方形に展開図の構造に合った
幅を追加したいというのが大きなきつ
かけとなりました)。

なお、今回紹介した方法は、よく知られ
ている3等分と季刊『をる』で紹介された
川畑文昭さんの相似形分割法を元にし
て、他の折り出し方法も参考にしながら
自分の使いやすい形にしていって結果
このような手順になりました。また、今回は
 22.5 度系の折り出しに限って説明しま
したが、整数は勿論、 $\sqrt{3}$ や $\sqrt{5}$ など他の
比率を含む場合にも同様の方法が使用
できます。必要とされる方は是非試し
てみてください。

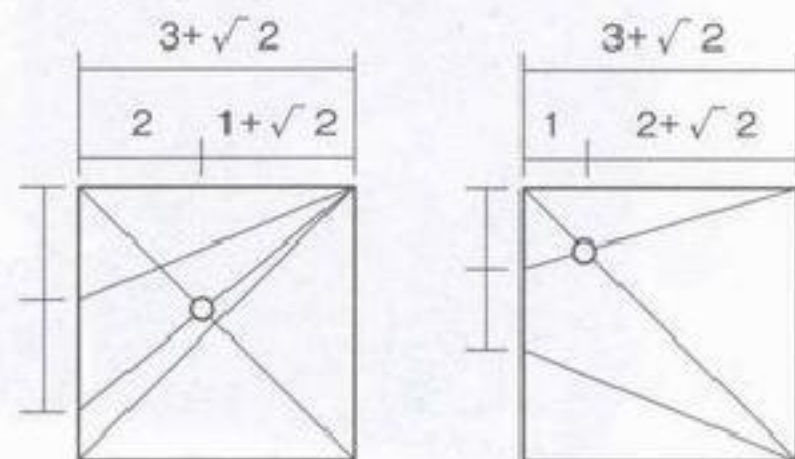


図11 どちらもよく使われる折り出しだが、実は
どちらも $3+\sqrt{2}$ という同じ数を折り出している

第1回 阿部恒さんとの出会い

(Re)Union with Mr. Abe Hisashi

私にとって折り紙は社会復帰の機会を与えてくれたものだと思っている。そして日本折紙協会(以下NOA)は私を育ててくれたところだと感謝している。その中で出会った、初期の頃のNOAを支えた先達の人を、今の人達に伝えることができたならと筆を執ることにした。ただし、登場人物や出来事の印象は、私の記憶の中のものであることをはじめにお断りしておく。

その日はまだ寒い季節で雨が降り、嫌な天気であった。それは私が初めてNOAの事務局(当時はノアサロンとっていて、故・長野耕平氏のぴぼ社内にあった)に行ったときだ。

当時の私はヨーロッパ放浪を締めくくって帰ってきたばかり。なにもすることがなく惚けていた(今で言うところのフリーターだ)。

その頃はカメラマンを志していて、写真家である阿部恒さんにときどきついては仕事を手伝わせてもらっていた。そのときに阿部さんに奢ってもらう昼食は、ひもじい生活の私にはとてもありがたかった。

阿部さんは、もともと友人と私がやっていた飲食店の常連客であった。人生の出会いとは不思議なものである。阿部さんは『家庭画報』などを主戦場に料理、宝石などの撮影を得意とする写真家で、特に仕事柄食べ物には興味があり、いろいろと教わることが多かった。また、人脈豊富な人で、初期

のNOAにとっても、とても貴重な人であったことは間違いない。

写真を志して阿部さんについていた私だったが、その阿部さんから折り紙を勧められた。ということは写真に才能が無いと引導を渡されたも同然だった。

はじめ「折り紙なんて、女、こどものやるものだ。」と思っていた私も、阿部さんと事務局を頻繁に訪れるようになって、いつの間にか自ら折り紙を手にして、自分なりに工夫をし、いくつか創作らしきものを創りだすようになっていた。「鶴のメモ立て」、「クリスマスツリー」は、この頃に創りだしたものだ。自分の前書きが長くなってしまった。話を戻そう。

阿部さんがどういうきっかけで折り紙の世界に入ったかは分からないが、NOAの前身である日本折紙作家協会が、一般愛好者参加の門戸を開く意味で(?)発展的解散をして、日本折紙協会になった頃から精力的に

活動を始めだしていた。

現在の雑誌『おりがみ』になる以前の会報『おりがみ』(写真1)(これは第3号まで出た)の撮影、編集を手がけたのも阿部さんだ。とても情熱的で面白い人で、理論家でもあった。付き合いも広くいろいろな人を知っていて、謎めいたところのある不思議な人だった。数学にも長けていて任意の角の三等分(図1)は誰しもが認めるところである。

会報『おりがみ』3号が出た後、NOAの事務局はぴぼ社の向かいにあるビルに移転した。当時の事情は私には分からなかったが、これでNOAとして独立した形になり、専従の事務局員も置かれた。だがこれは永くは続かなかった。どうやら金銭的な事情が大きかったようだ。

次に移転したのは、(株)サンリオの中だった。これは当時のNOAの会長であった、故・下中邦彦氏(当時平凡社社長)の縁によるものだった。事務局にはサンリオの社員が出向で常駐するなど、全面的とっていい程の援助の受け方だった。

阿部さんが開拓的精神で一番活躍したのはこの時期であったと思う。サンリオとのコミュニケーション力は抜



写真1: 雑誌『おりがみ』の前身、会報『おりがみ』。数年前に復刻版が出版されている

何か鳥類を感じさせる青年、永遠の若人。一見35歳、精神年齢20代、肉体年齢30代、戸籍年齢40代、そう、手塚治虫描く所の火の鳥、不死鳥、そんなカッコ良さは無い!! このアベ青年、残り少ない青春を突っ走ろうと凄じ折り紙熱。編集の要である写真を一手に引き受ける日本で唯一の折り紙プロカメラマン。
(体重順)

阿部 恒

『おりがみ』Vol.2(1974年)掲載「NOAサロン常連プロフィール」より。阿部さんのキャラクターが伺える文章

○やまぐち真(ヤマグチ・マコト)
=1944年東京生まれ。NOA事務局を
経て、おりがみはうすを設立。海外交
流を積極的に行うと共に若手育成に
努力。NOA理事、JOAS事務局長兼顧
問。趣味は競馬。



群で、常に本社内を動き回っていて、あまり事務局でじっとしていることが無かった。話し好きな阿部さんは、長電話でも有名であった。

笠原邦彦さんの著書が、サンリオから数多く出版されたのもこの頃で、阿部さんの紹介によるものである。この後に、阿部さん自身の著書もサンリオのギフトブックスシリーズなどで出版されている。

私も、事務局がサンリオ内に移ってから、前にも増して阿部さんと一緒に頻繁に出入りするようになり、そしてそのうち勧められるままにNOA事務局で働くことになったのである。働くといっても何もできることのない私は、時給300円のアルバイトにすぎなかった。当時29歳。余談だが、景気の良いサンリオはボーナスのお札が立つといわれた。私は宙に舞う札すら貰えない立場だった。この頃に、NOAが私の国民年金の手続きをしてくれていたなら、今頃支給されていたであろうことが未だに残念でならない。

雑誌『おりがみ』の創刊号は、この頃出版された。これに使う写

真を撮影していたのが阿部さんで、ほとんどボランティアでの撮影であったと記憶している。

阿部さんの撮影は計算された技で繊細であった。本誌114号で津田良夫さんが触れた雑誌『おりがみ』8号までは、ほとんどが阿部さんによる写真である。当時の事務局における阿部さんの貢献度は高く、阿部さんの立場も大きなものとなっていた。それと同時にNOA側とはうまくいかなかった。

私とも考え方の違いが少しずつ生じてきて、最後には二人とも事務局を辞めることになってしまった。

その後阿部さんはサンリオに残り、私はホビージャパンというプラモデル専門誌の編集長に転身したが、折り紙の魅力は忘れがたく、フリーランスとして右往左往していた。阿部さんは私の恩師と言える人であり、長い間常に心の隅にその姿がちらつき続けた。

現在、私が著書を多く出す機会を得られたのも、当時、阿部さんに折り図を描くプロになったと勧められて、折り図版下制作の勉強を始めたおかげである。以後、雑誌『おりがみ』



筆者と阿部さん。伏見先生の白寿のお祝いの席で

の折り図は、NOA事務局を辞めるまで私が担当した。

折り図を描き始めた頃の図は、今見ると、とても見るに耐えないようなもので恥ずかしい。現在のようにパソコンで描くのは違って、手作業で、徹夜も多く、つらい部分もあったが、思い返してみると楽しかった時期だった。

喧嘩別れしたような状態であった阿部さんとは、数年前にある展示会でお会いしてから、遠い昔の思い出としてお話しすることができた。本誌にも84号の「おりすじ」で原稿を書いてもらったので、長い間溜まっていたものを取り除くことができたと思っている。

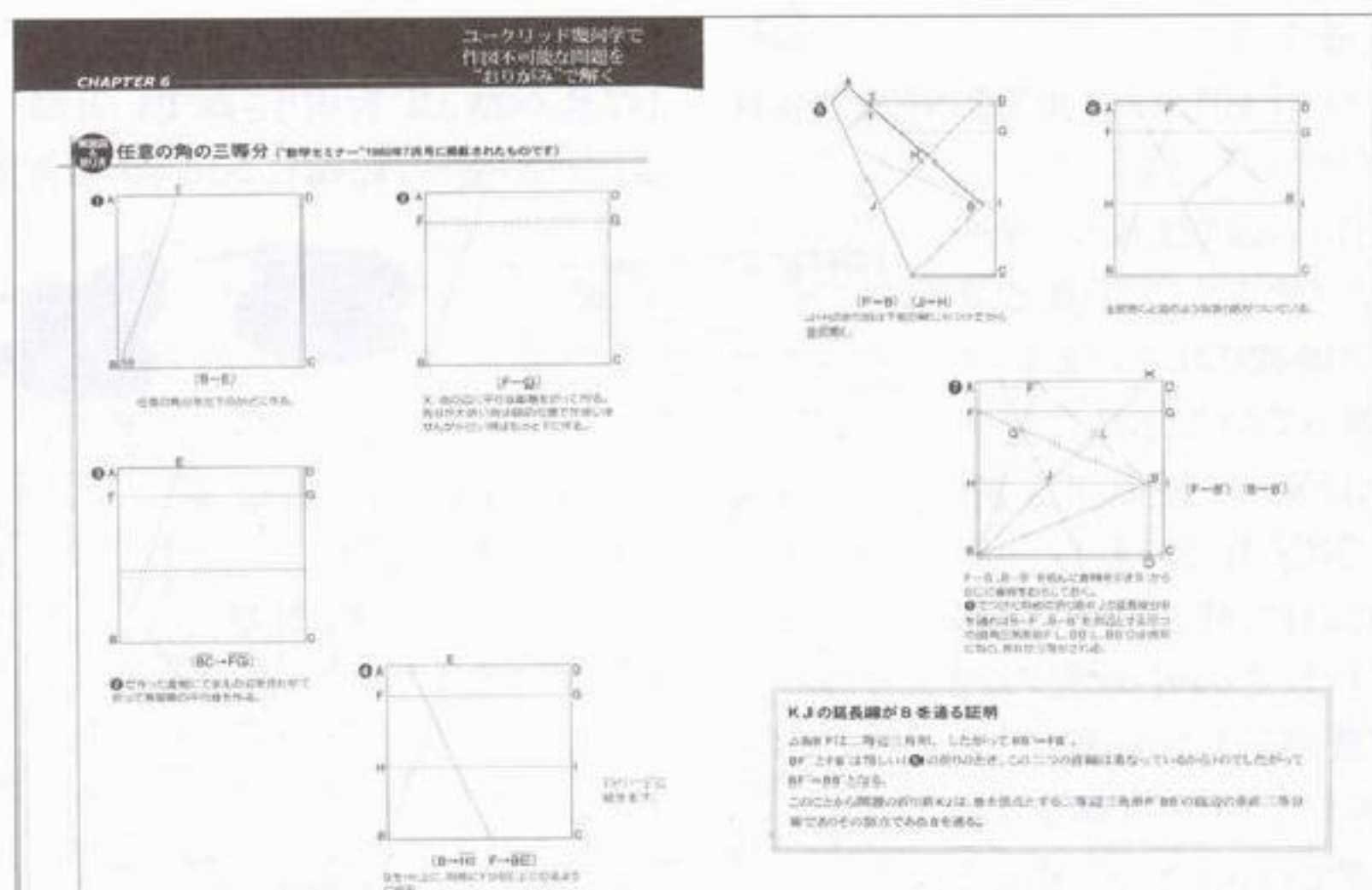
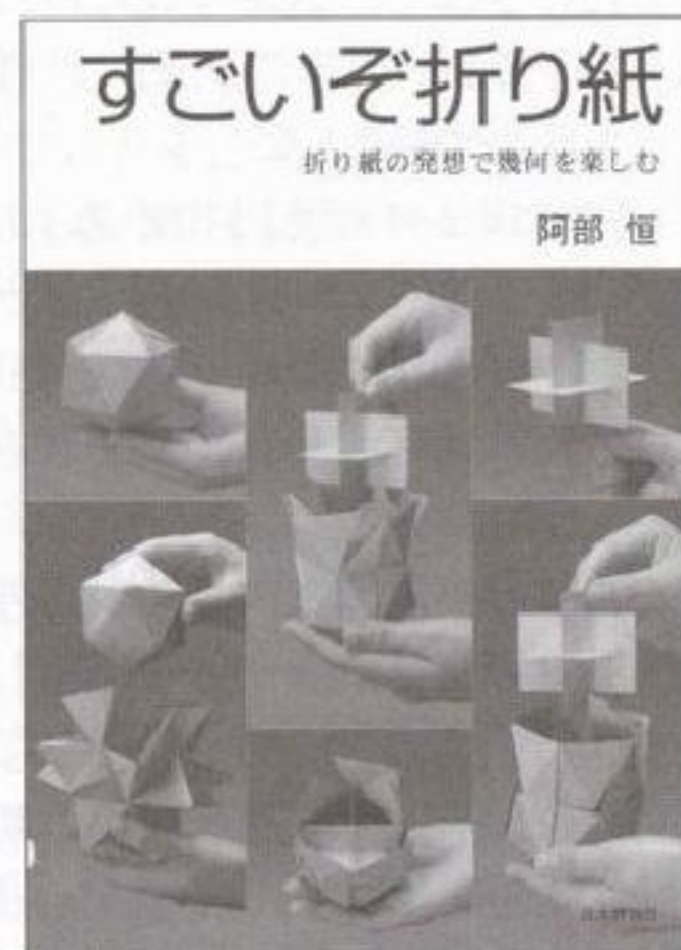


図1:任意角の三等分に関する解説(『すごいぞ折り紙』74ページより)



阿部 恒 著『すごいぞ折り紙』日本評論社
2003:阿部さんの折り紙幾何学研究の粋を集めた本

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

小松英夫 Komatsu Hideo

13冊目 上田憲治氏の「√2の基本型」

Ueda Kenji's $\sqrt{2}$ Base

今回取り上げるのは1冊の書籍ではなく、上田憲治氏という人物が1970年代の終わり頃に発表した「ライオン」と「とら」(写真1)、およびその基本形である「√2の基本型」という作品(群)です。筆者は、折紙図書館の資料を整理中にこの作品の存在を知ったのですが、大変に驚きました。ご年配の愛好家におかれてはご存知だった方もいることと思いますが、今まで話題に挙がることも無かったようですのでご紹介したいと思います。

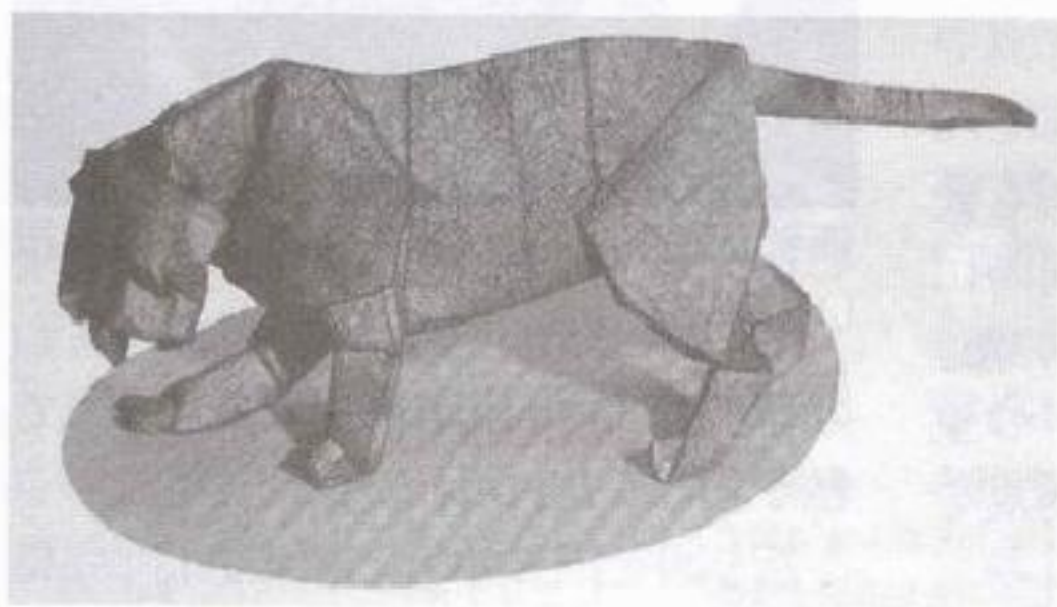


写真1 「おりがみニュース」29号より「とら」完成写真

当該作品を見ることができる資料として確認できているものは、次の4つです。

■資料1:『おりがみニュース』29号(1978年2月/日本折紙協会)

これが作品の初出のようです。『おりがみニュース』とは、1975~79年の間に日本折紙協会が発行していたモノクロの月刊情報誌です。ページ数は16ページ程度の薄いものです。並行して、前号で取り上げた雑誌『おりがみ』が(ほぼ)隔月で刊行されていました。隔月刊『おりがみ』は、1977~79年の期間には株式会社サンリオが編集と発行を行っていましたが、このサンリオ版『おりがみ』の刊行が終了した1979年以降、『おりがみニュース』は『おりがみ』と名称を変更、内容も一新し、協会機関誌として現在に至っています。

さて、『おりがみニュース』の29号の「N.O.A.会員創作コーナーNo.8」に、上田憲治作「とら」「ライオン」の写真が紹介され、その基本形(「√2の基本型」)までの折り図が掲載されています(写真2)。クレジットはされていませんが、折り図を制作したのは、当時『おりがみニュース』の編集を務めていた山口

真氏です。

■資料2:『British Origami』71号(1978年8月/ British Origami Society)

イギリス折紙協会(BOS)の機関誌で、「ライオン」が表紙を飾っています(写真3)。筆者が本作を知ったのはこの資料でした。「Tiger & Lion Base」の

題で、ミック・ガイ氏による折り図が載っていますが、これは、先述した山口氏の折り図のトレースです(しかし、もちろん説明文は英語で改めて書かれています)。記事冒頭に付されたガイ氏の解説によると、高濱利恵氏が作品の実物をBOSに送ったとあります。

■資料3:『おりがみニュース』36号(1978年9月/日本折紙協会)

情報コーナー「おりがみ広場」で、「上田さんのライオンB.O.S.ニュースの表紙に」と題して上記の資料2を簡単に紹介しています。

■資料4:『おりがみ』通巻21号(1979年2月/サンリオ)

創作作品の投稿コーナーに「ライオン」の写真がカラーで掲載されています。ここに載っている作品は資料1、2とは別の“個体”で、ホイル紙で折られています。

ちなみに、サンリオ版『おりがみ』は、この号の次の22号が最終号となり、再び『おりがみ』という名の雑誌は日本折紙協会の下から発行されることになります。

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/>にアクセスしてください。

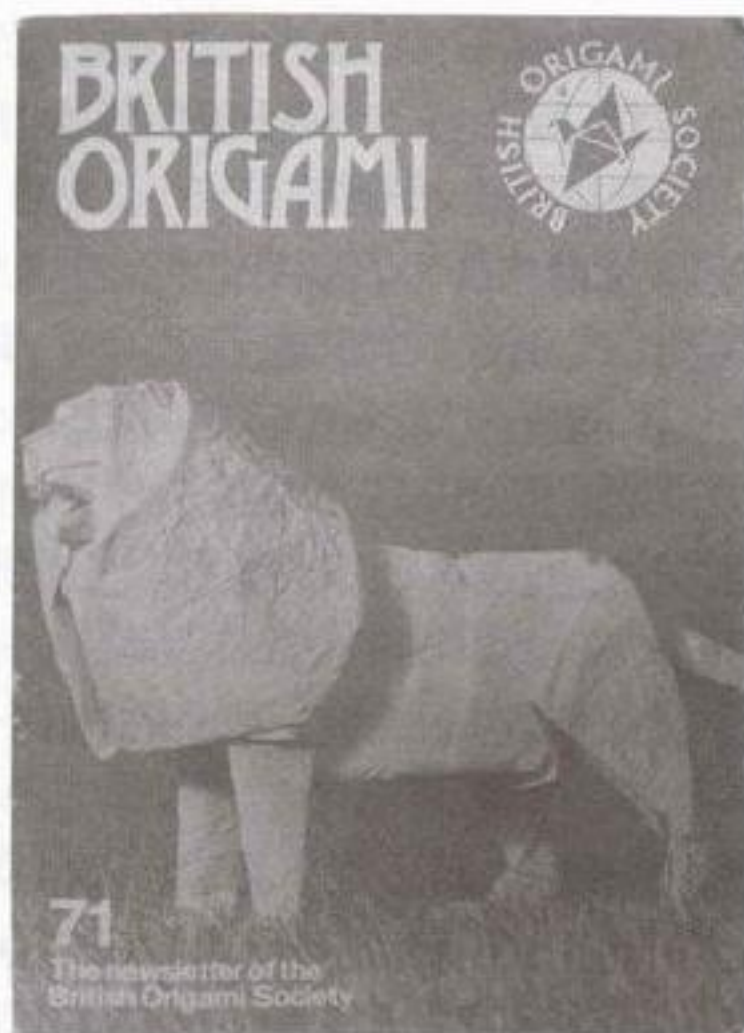


写真3 『British Origami』71号の表紙

図1が「√2の基本型」の展開図ですが、これを見て、前川淳氏の初期作品との類似を思った読者も多いと思います。実際に『ビバ!おりがみ』(1983年)から「きつね」(図2)と比較すると、足、尻尾を構成する折り線構造は全く同一であることが分かります。「√2」というのはこの部分の構造を指しての命名なのでしょう。

異なっている頭部を見ると、「きつね」では全て22.5度の折り線で各パーツが折り出されているのに対して、「√2の基本型」で折り出されているパーツは「仕上げ」の範疇に入るものと言えま

√2の基本型によせて N.O.A. 会員創作コーナーNo.8

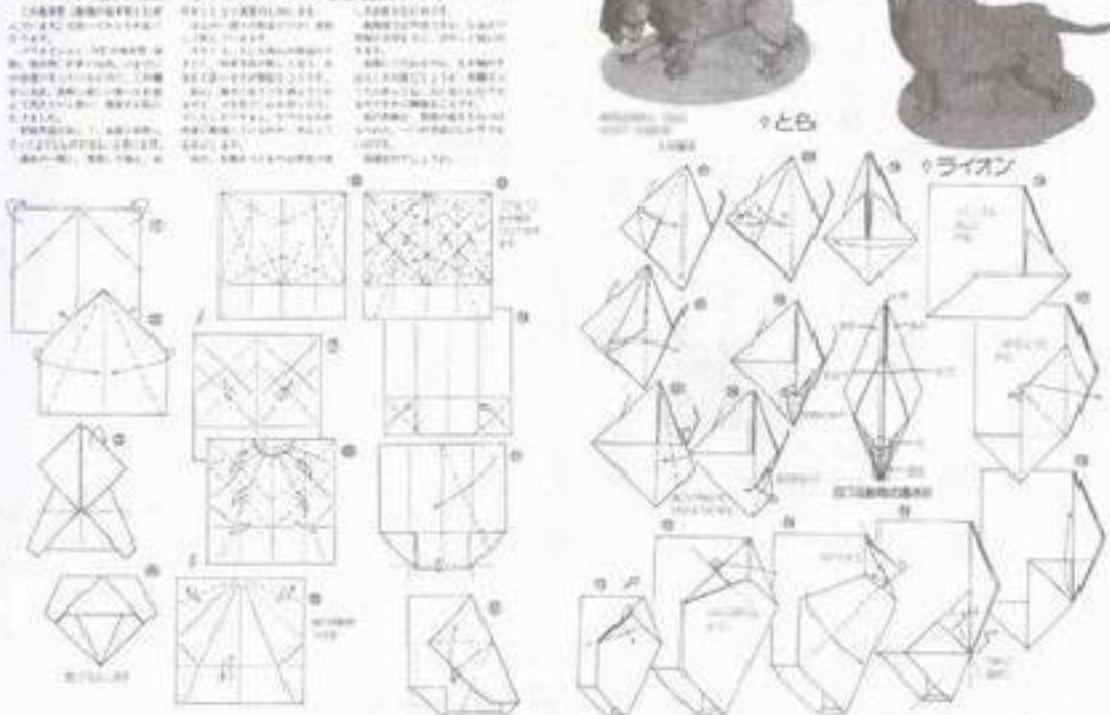


写真2 「おりがみニュース」29号の記事全体

○小松英夫(こまつ・ひでお)=
1977年生まれ。図書館担当。
昔描いた折り図を修正する日々
が続いています。



す。この意味では『ピバ!おりがみ』のよう
な理論的に徹底された構造ではありません。
しかしながら、作者が資料1の記事に寄せた
文章によると「バリエーション($\sqrt{3}$ の基本型、
連続、複合等)」があると書かれていて、この
ことから、上田氏が展開図的構造を強く意識
して作品を作っていたことは明らかです。

さらに驚くことには、上田氏は「この基本
型(動物の基本型とも呼んでいます。)を作っ
てから7年近くなります」と書いており、1970
年代初頭にこのような試みがあったことにな
ります。きわめて先進的な仕事だったと言え
るでしょう。逆に、前川氏が『ピバ!おりが
み』以前に本作を知っていたかどうかは気にな
るところですが、その存在を知ったのは今から
数年前のことです。

上田氏の折り紙観をうかがうことがで
きる興味深い資料が、先ほども触
れた資料1の冒頭に寄せられている「 $\sqrt{2}$ の
基本型によせて」と題した500字ほどの文章
です。少々長くなりますが、すでに内容に触
れた冒頭部分を除いた残りの文をここに掲載
します。

「折紙作品は決して、永遠に成熟してい
くようなものではないと思います。誕生の一
瞬に、爆発して後は、ぬけがらとなり異質の
ものになる。ほんの一握りの作品だけが、成
長して死んでいきます。そのうち、もしも快
心の作品ができれば、保存

方法が欲しくなり、あせると思いますが無
駄なことです。

紙が、勝手に折り方を教えてくれるので、
小手先でしわを作ったり、プレスしたりする
と、できたものが作者に報復しているのが、
判るような気がします。

私が、生物をつくるのは野生の美しさが
好きなためです。動物園では不足ですが、な
るだけ実物を自分なりに、ぼや々と見に行き
ます。具象にこだわるのは、生き物のすばら
しさの故でしょうが、本物そっくりに折って
も、犬に見られたりするので無駄なことです。
私の折紙は、野生の動きを見つけるための、
一つの手段にしかすぎないのです。邪道なの
でしょうか。」(原文では1文ごとに段落替
えされていますが、適宜まとめました)

異なる話題で2回登場する「無駄なこと」
という言葉、そして最後の「邪道」という
問い。折り紙に対して無常とも悲観ともと
れる表現が印象的です。この悩みとともに、
この先進的な仕事成されたことを思うと、
作者がどれほど真剣に折り紙に向き合っ
ていたかが伝わってくるかのようです。

さて、このような仕事を残した上田憲
治氏ですが、実は本誌の読者であることが
本稿を仕上げている途中で判明し、締め切
り間際にご本人に電話でコンタクトを取る
ことができました。

氏は1951年生まれ。つまり20歳のころ

に「 $\sqrt{2}$ の基本型」を作ったということにな
ります。どういう発想から「 $\sqrt{2}$ の基本型」
にたどりついたのかをお尋ねしたところ、チ
ラシ(つまり白銀長方形)を折っていて気づ
いたのだそうです。用紙形を変えることで
新しい着想を得

るという過程は、デビッド・ブリル氏が正
三角形の紙から「馬」などを試みたエピソード
を想起させ、興味深いです。

なお、1980年代半ば以降はそれまでの
ような熱中からは遠ざかっているようですが、
紙幣折りでいくつかの創作があるとのこと
です。また、折り図紹介された作品がもう
1つだけあり、その作品は「エリマキトカ
ゲ」で、故・高濱利恵氏の『新・暮らしをか
ざるおりがみ』(1985年/マコー社)に掲載
されています(写真4)。

構造は“座布団魚の基本形”からの折り
込みで、「 $\sqrt{2}$ の基本型」に比べれば常套的
と言えますが、細部の工夫に凝ったもの
があります。

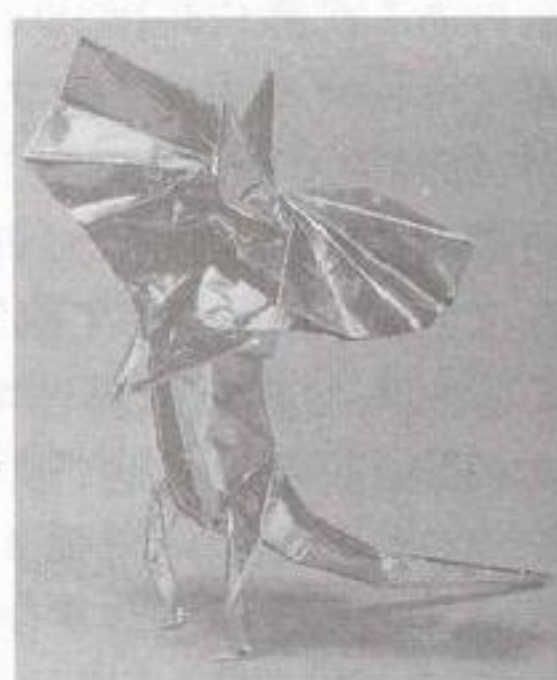


写真4 『新・暮らしをかざるおりがみ』p.62より「エリマキトカゲ」完成写真

最後に、筆者は112号の当連載で「日本の
折り紙界の1970年代は“技術的に停滞して
いた時代”だったと言ってしまうのかもしれ
ません」と書きましたが、これは書籍という
かたちで発表された資料を対象にしたもので
あって、実際には次代の折り紙の姿をかい
ま見せるかのような上田氏の「 $\sqrt{2}$ の基本
型」がありました。

筆者が担当した当連載の記事では、技術
史を多分に意識した記述が多くありますが、
書籍を追った場合には取りこぼしが生じう
るということを述べておかねばなりません。
これは歴史を扱う上で難しい点です。折紙
図書館では書籍以外の資料も収集しています
ので、今後はそのような資料も絡めて紹介
していければと思います。

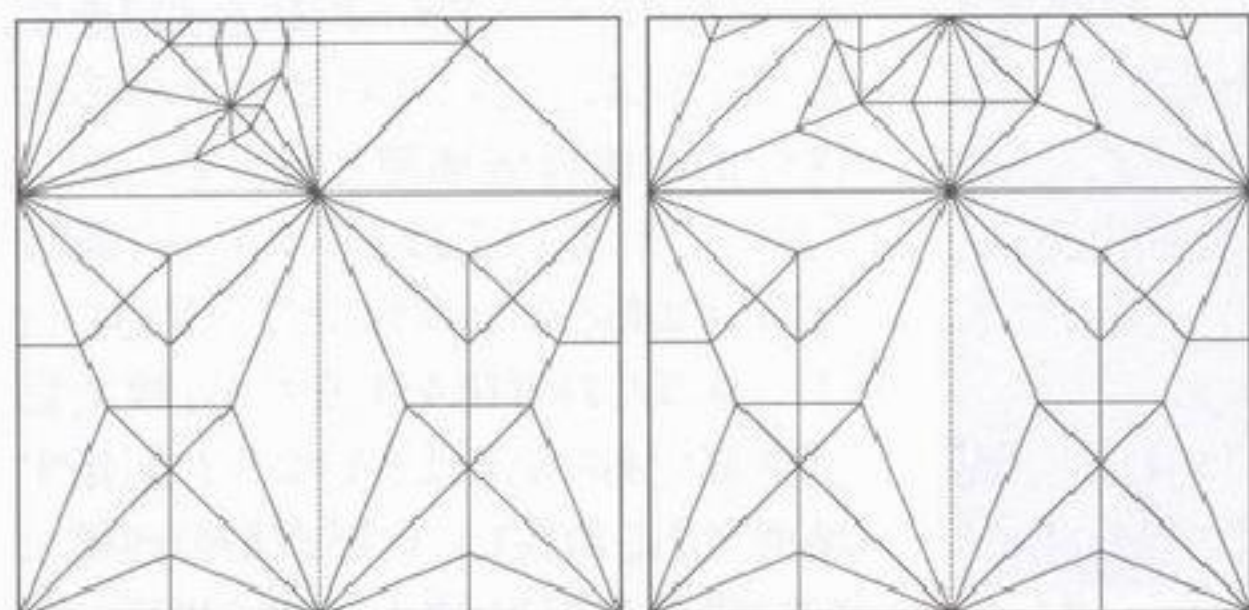


図1 「 $\sqrt{2}$ の基本型」展開図(筆者作成)。右半分は折り込む前の状態

図2 「ピバ!おりがみ」より前川淳作「きつね」展開図(筆者作成)

スキップで Origami Sampo Skipping Every Other Step 折紙散歩

前川 淳 Maekawa Jun

第4回 店の名は

Pubs Named "Orizuru"

モノカキたるもの、新宿ゴールデン街に馴染みの店がなければいけない、という話がある。わたしはモノカキではないので、新宿起点の私鉄沿線に住むようになって四半世紀になるが、ついこの間まで、ゴールデン街と思い出横町の区別もついていなかった。ゴールデン街のある歌舞伎町は、フィクションの世界では、タイや中国のマフィアとマル暴が、毎晩のように銃撃戦をしているし、強面のおにいさんが怪しい取引をしている。まさかそれがすべて事実だとは思ってないが、たまに、歌舞伎町内にある旧コマ劇場前の映画館で映画を観るさいなどには、なんとなく緊張する。言ってみれば、わたしは、「東京在住のおのぼりさん」である。

などと言っているうちに思ったのだが、そもそもわたしは、馴染みの居酒屋・バーというものが無い。だいたい、酒はたまにしか飲まない。体質でまったく一滴も飲

めない父の影響——遺伝的というより文化的影響——かもしれない。父は、素面でも酔っているんじゃないかというひとだが、ほんとうに一滴も飲めないのだ。

親しいひとと酒を酌み交わすのは楽しいが、「酒も飲まずに男か」などと言われると、「はいはい。そうですか」と思う。など書くと、味気ないというか、四角四面、品行方正な人間のように思われるかもしれないが、じっさい、わたしの品行は方正である。方正というより、折り紙者であるからして、正方である。いうまでもなく、四角四面への愛着も深い。

で、なにゆえに、新宿ゴールデン街の話をしているかというと、そこに、「折鶴」という店があるからである。以前に名前だけ発見し、いつか確認しようと思っていたのだ。今回、それを探索することにしたわけである。しかし、この話を聞いた妻は、「やめなさい」と言うのであった。以前、道なき道の青森の折紙山（標高921m）に「登ってくるぞ」と家を出たさいにも、のんびりした声で「熊に気をつけてね」と言っただけなのである。いったい、ひとは（ってわたしを含めてだが）歌舞伎町なる場所をなんだと思っているのか。魔窟か？ まあ、品行方正・謹厳実直な家庭人の鑑たるわたしが、家族に心配をかけるのもなんだし、とりあえず、歌舞伎町に最も相応しくない日曜の真っ昼間に下見に行くことにした。

ある晴れた日曜日、一軒として店の開いていない時間帯のゴールデン街に赴くと、カメラを下げたカップルが、「ここがあの有名なゴール

デン街なのね」とばかりに、写真を撮っていたりして、「おお、同類よ」などと思いつつ、細い路地を歩く。「折鶴」という店はすぐに見つかった。立派な看板のほかに、裏には、「折鶴」という表札。折鶴さんが住んでいるのか？

店の雰囲気は、ちょっと立ち飲みというものではなかった。厚い扉が、一見（いちげん）さんを寄せ付けないオーラを漂わせているのである。おねーちゃんがいる店の感じもあるし、新宿二丁目も近いので、おねーちゃん(?)がでてくる可能性もある。しかし、それ以前の問題にぶち当たった。よく見ると、扉に「会員制」と書いてあるのだ。日本折紙学会の会員では、どうやらだめそうである。ご丁寧に、扉には「帰りなさい」を意味するのか、帚まで下げられていた。秘密クラブなのである。中でみんなで折鶴を折っていたら面白いのだが、そんな話はあるそうもない。ゴールデン街はやはり、わたしの知らない世界なのであった。この店は謎のままである。

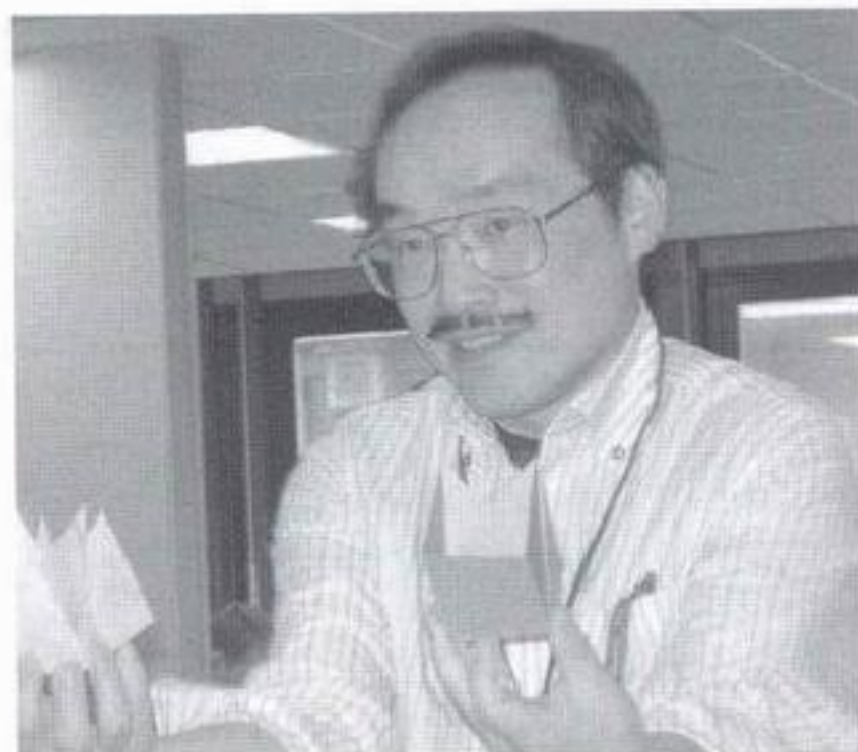
わたしのような者には、ゴールデン街は難しすぎた。というわけで、関西コンベンションにあわせて、知るひとぞ知る、京都の、その名も「折鶴会館」を探索することにした。こちらは、いわゆる赤提灯的な集合居酒屋と聞いているし、「おいでやす」と「おこしやす」の微妙な違いはあるらしいけれど、一見さんには一見さんの対応をするのが、観光都市京都であろう。とはいいつつも、目指す場所である西院は、京都市街の西端になり、観光京都とはちょっと違う場所である。大阪で言えばミナミの新世界、東京



新宿ゴールデン街にある「折鶴」という店（一見さんお断り）
(A sign says "We keep out an unfamiliar customer!")

There are many shops named "Orizuru", the pub "Orizuru" on the Shinjuku Golden Street, the most dangerous area in Tokyo, shuts the new comer out completely. How they can acquire their gains, I wonder. The building called "Orizuru Kaikan (Orizuru Hall)" in Kyoto is a complex of 10 very small pubs and bars each of which can accept only 10 or so customers. Does the name "Orizuru" symbolize something small, closed and comforting, so that those who want such an atmosphere would only come?

○まえかわ・じゅん 折紙創作・研究家。折鶴モノのコレクター。東京生まれで東京在住だが、1年の約1/3は、天文台の仕事のため長野・山梨で過ごす。好きなもの：阪神タイガース、星空、書店、喫茶店、幾何学的調和。



「折鶴会館」は駅から徒歩0分。どんなに酔ってもたどりつける。

で言えば蒲田みたいなところと言えるだろうか。などと、イメージで言い換えをしているだけで、知らないひとにはさっぱりわからない。わたし自身わかっていない。いっそのこと、パリ・モンマルトルの裏町の雰囲気である、と言ってみてもよい。ぜんぜん知らないけれど。

さて。阪急・西院駅を降りると、「折鶴会館」は徒歩0分の場所にあった。立ち飲みや、カウンター席が七つ八つというごくごく小さな店が10軒ほど集まった会館である。昭和レトロな佇まいは、まるで『三丁目の夕日』のオープンセットのようであった。それもそのはず、この会館には50年の歴史があるのだ。会館内の一軒『崑多野』という店の女将の話によると、50年前、新婚の皇太子夫妻が四条通りを御所に向かう(?)さい、ごちゃごちゃした屋台は見栄えが悪いとのことで一気に区画整理が進み、屋台が一箇所にとめられたものだそうだ。その女将も、そこで35年店を開き、数えきれないヨッパライの相手をしてきたひとであった。

いわゆる「屋台村」の「はしり」なのである。とか言いつつも、「戦後日本の酒飲みの歴史」などは知らない。とにかく、「酒飲みの聖地」とまで言っているひともしららしい場所なのであった。

そして、なぜ「折鶴」なのかということについてである。

これは、さっぱりわからないのであった。まあいいや。ヨッパライには、そういう細かいことはいいじゃないか。

甲子園球場のタイガース・ジャイアンツ戦がTVで流れる店内で、だし巻き卵をつまみにビールを飲む。丹波出身の女将

は、なぜか、かなりの通のジャイアンツファンだったが、じつになんとも、「これぞ居酒屋」という雰囲気であった。TVに映っているゲームの内容が、村山実投手が長島茂雄選手から「ホームラン性の特大ファール」(注:いわゆる「天覧試合」のサヨナラホームランについて:「あれはファールだ」村山実談)を打たれる場面であつても不思議がないくらいであった。

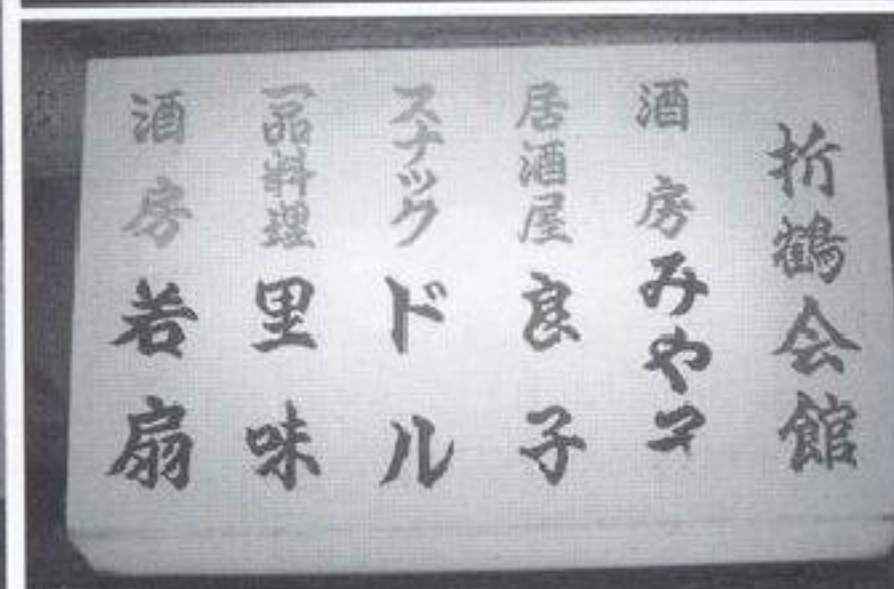
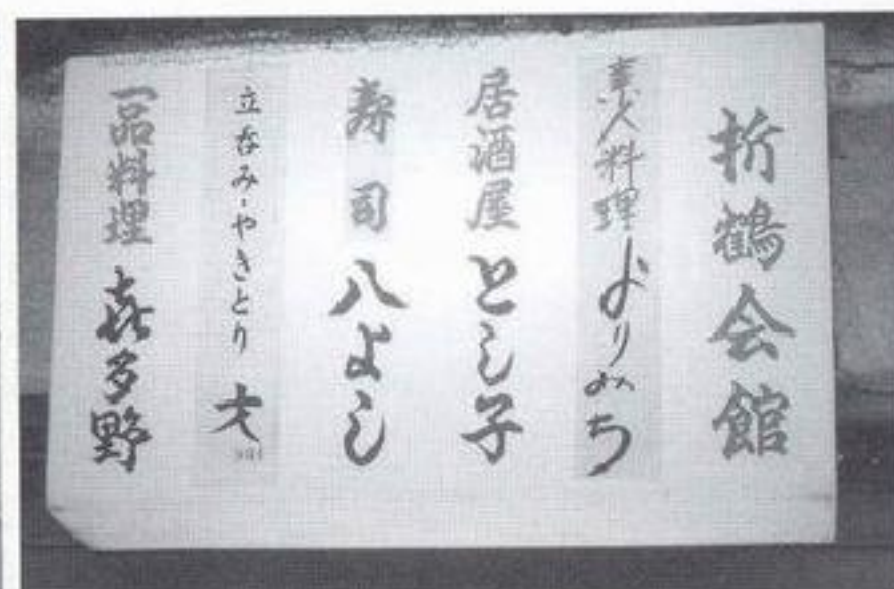
というわけで、今回は、折鶴という店名以外には、折り紙とは関係のないお話だったが、以下のような感慨もある。

折鶴の持つイメージには、「庶民のささやかな願い」というものもある、ということだ。折鶴は、ある場合には、洗練優雅を意味し、ある場合には、調和を意味し、はたまた、和風を意味する。紙そのもの

の象徴でもあり、長寿健康を意味し、世界平和への祈りをも意味する。そして、京都西院の路地では、日暮れ時から町が寝静まるまでの、小さな喜びを意味してきたのだ。これは、これからもそうなのだろう。

なお、折鶴会館には、(飲み屋に子供を連れてくること自体にも賛否はあるだろうが)子供連れもいて、(すくなくともイメージの中の)ゴールデン街とはずいぶん違っていた。言ってみれば、『じゃりん子チエ』のような世界である。

本誌読者の中の、推定・ん百人の飲んべえのみなさん、京都に行ったら、西院駅前の「折鶴会館」はおすすめです。折り紙には関係ないけれど。ヨッパライには、そういう細かいことはいいじゃないか。えっ? さっきも同じこと書いた? 酔っぱらったか?



京都西院の「折鶴会館」

An apartment pub "Orizuru Kaikan" at Saiin in Kyoto.

急速に鮮やかな色彩に変わる風景とは裏腹に、なにかと不安なニュースも多いこの頃。いつもの生活に加えて折り紙の集まりなど複数の居場所を持つことが、さまざまな局面での活力に繋がってゆくような気がします。

「ベルト正20面体・12枚組」

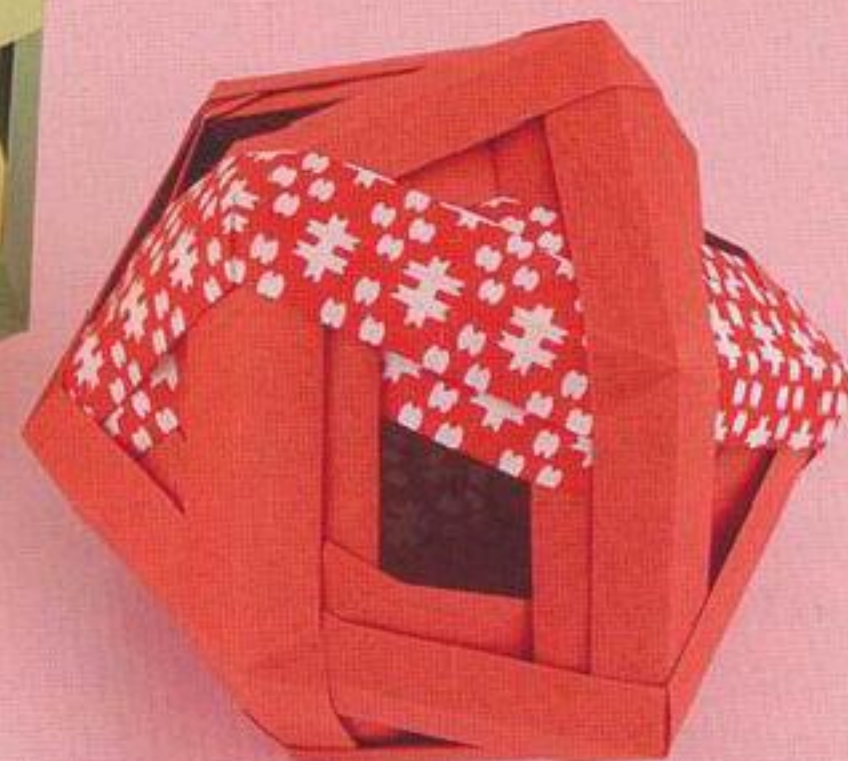
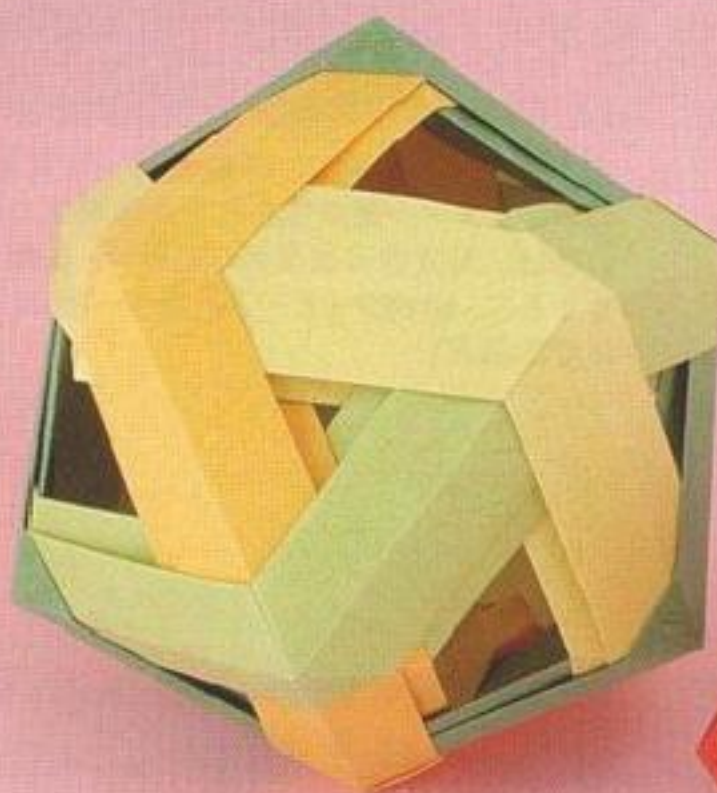
作：布施知子(P.4)

Band-Shaped Modules

(Regular Icosahedron (12 modules)) :

Fuse Tomoko (P.4)

■本誌113号に掲載された8面体構造のユニットパーツが、拡張加工で20面体に変身しました。部品の噛み合わせの様式により、ところどころの辺が抜けてダイヤ型の穴があいたデザインになっている部分がありますが、ここには不思議な違和感と、まとまりのよい安定したイメージとが交錯しています。



「ジャンボこま・フリスビー」作：やまぐち真 (P.8)

Spinning Top with 7 Modules · Frisbee:
Yamaguchi Makoto (P.8)

■回転対称の皿形にユニットを組んだら、なんだか回してみたいくなる。そして、やっぱり飛ばしてみたいくなる。そんなナチュラルな欲求に対して、想像以上に素直に反応してくれるこの作品。一見簡単な構造の中に、きちんと理にかなった工夫が盛り込んであります。

「ブロントテリウム」作：堀口直人(P.34)

Brontotherium: Horiguchi Naoto(P.34)

■現存のサイを超える巨体を誇った絶滅哺乳類、そのボリュームと迫力が暴力的な激しさで伝わってきます。全身の輪郭線や表面の構成線にはそれぞれに鋭い緩急が付いていて、見る者を飽きさせないほどに高密度な情報を身にまとった作品となっています。



第10回折紙探偵団関西コンベンション展示作品より

From the 10th Origami Tanteidan Kansai Convention Exhibition

微細加工のテクニックを、作品のどの位置にどのようなバランスで配するのか。多用されて見慣れた構造も、はっとさせられるような曲面パーツも、より的確な構成や意表を突くまとめかたがあるのではないかと。どこまで行っても、いつまで経ってもやりつくされることがない、それどころか、さらなる新しい息吹がそこかしこに発生してきているのを強く感じる機会となりました。



Kakami Hitoshi



Miyamoto Chuya



Igarashi Tomosuke



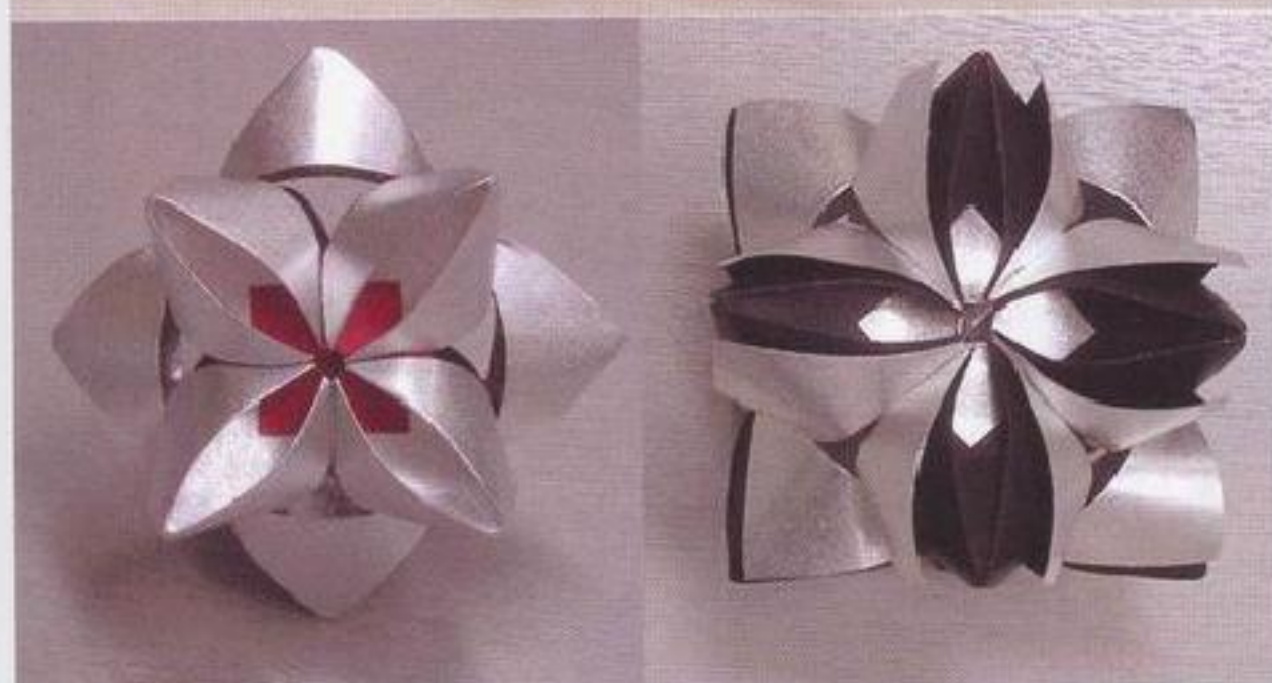
Kurokawa Toshio



Kawamura Miyuki



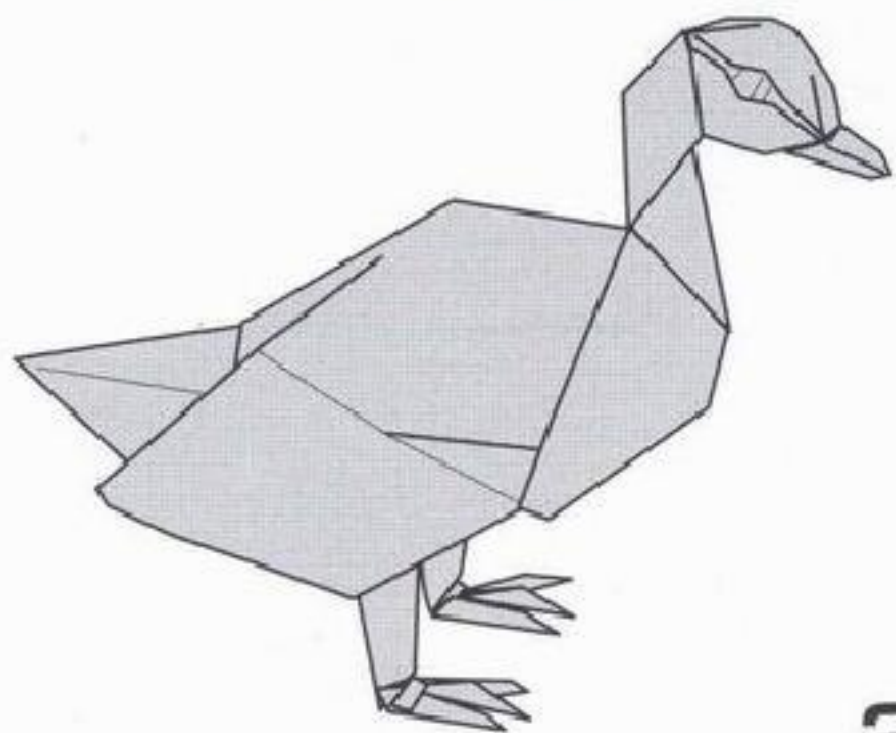
Katsuta Kyohei



Tsubo Tadashi



Katsuta Kyohei

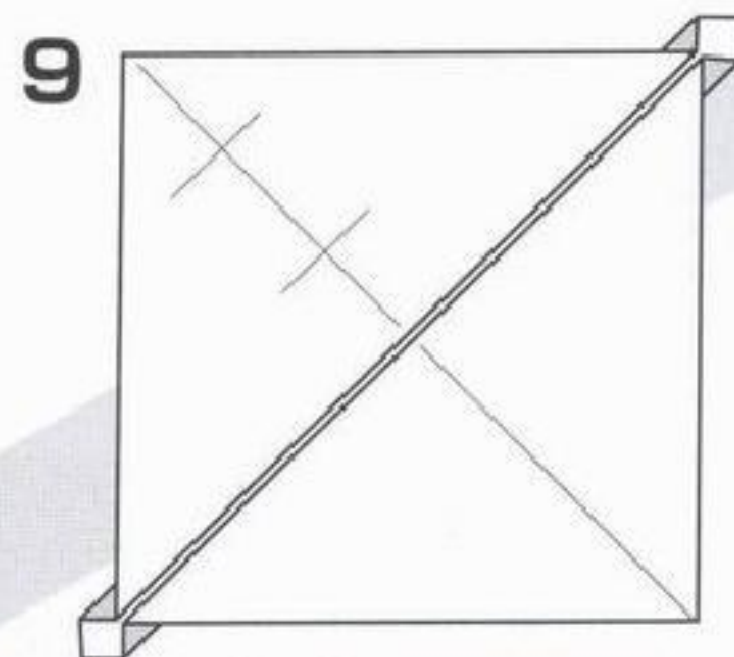
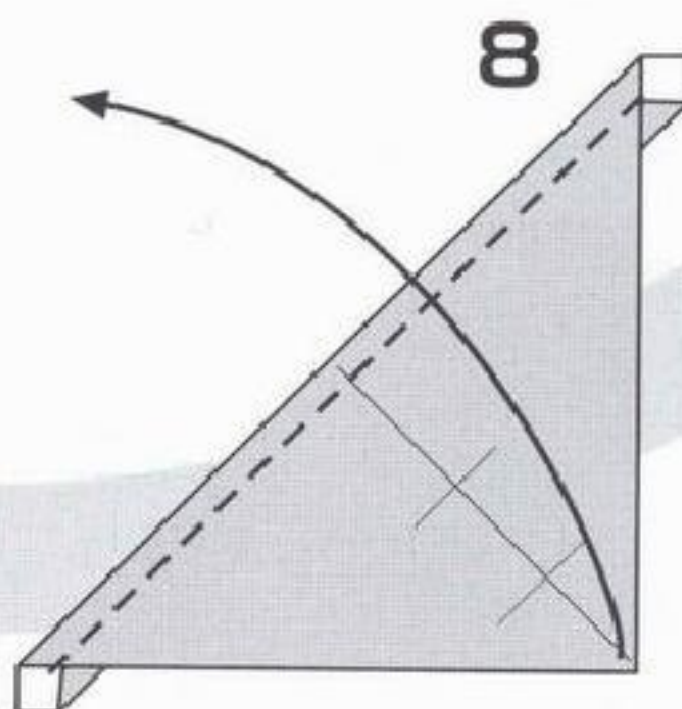
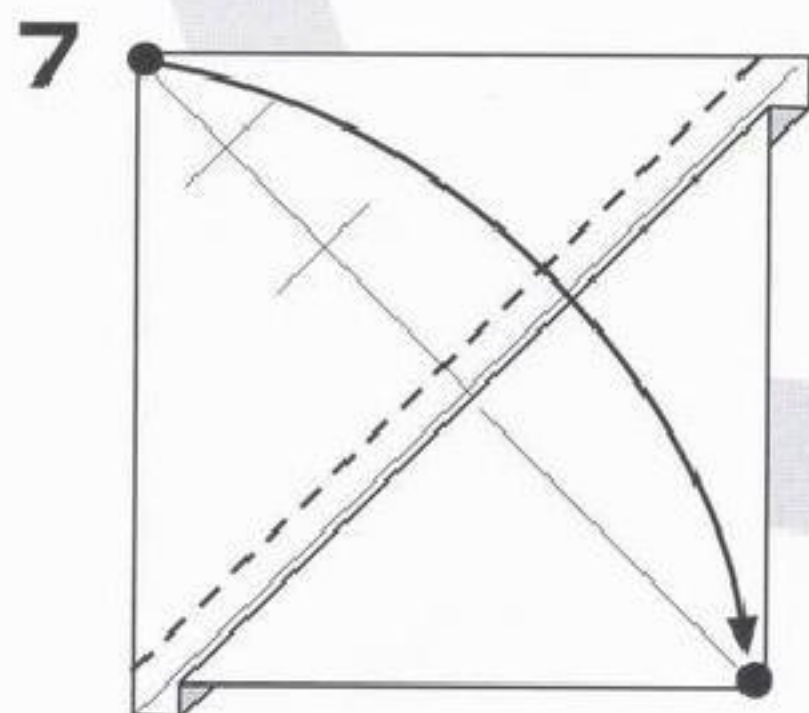
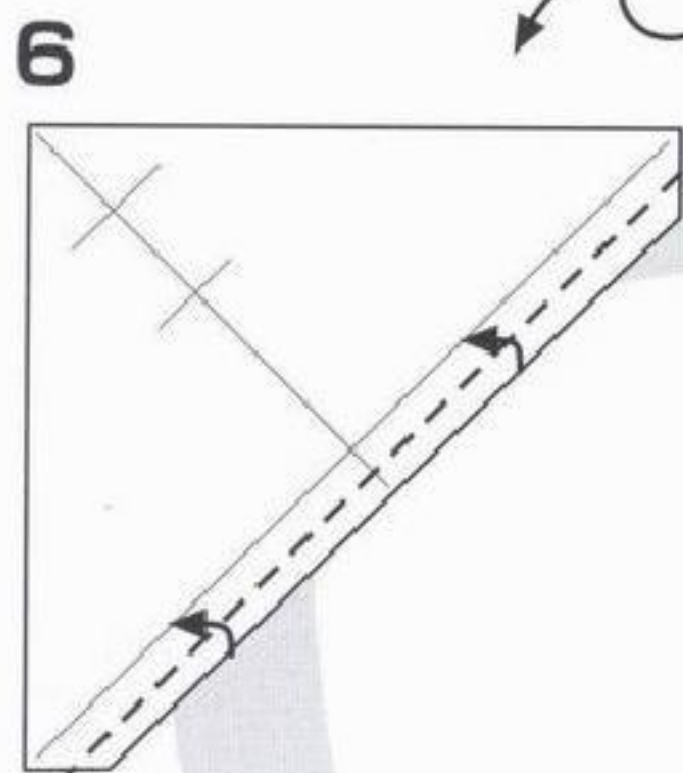
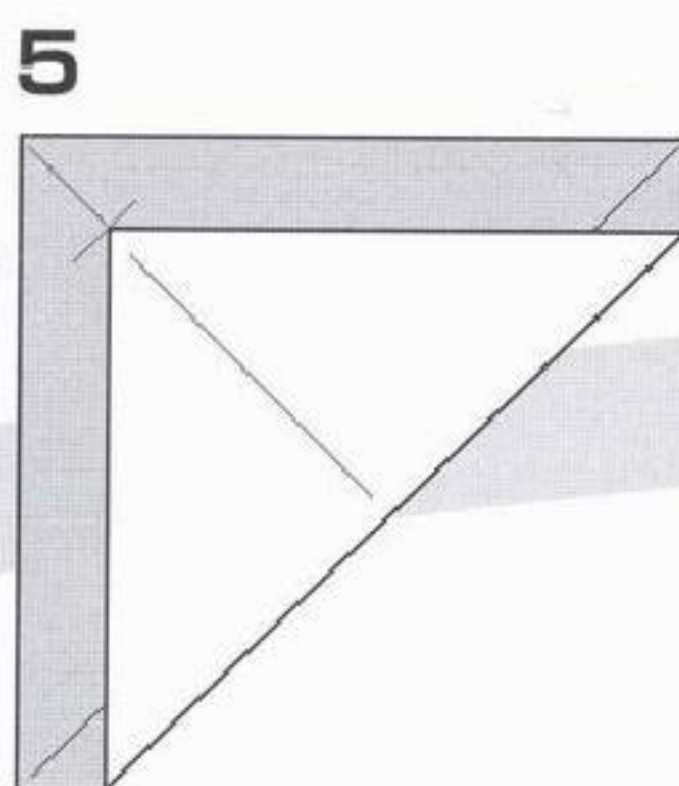
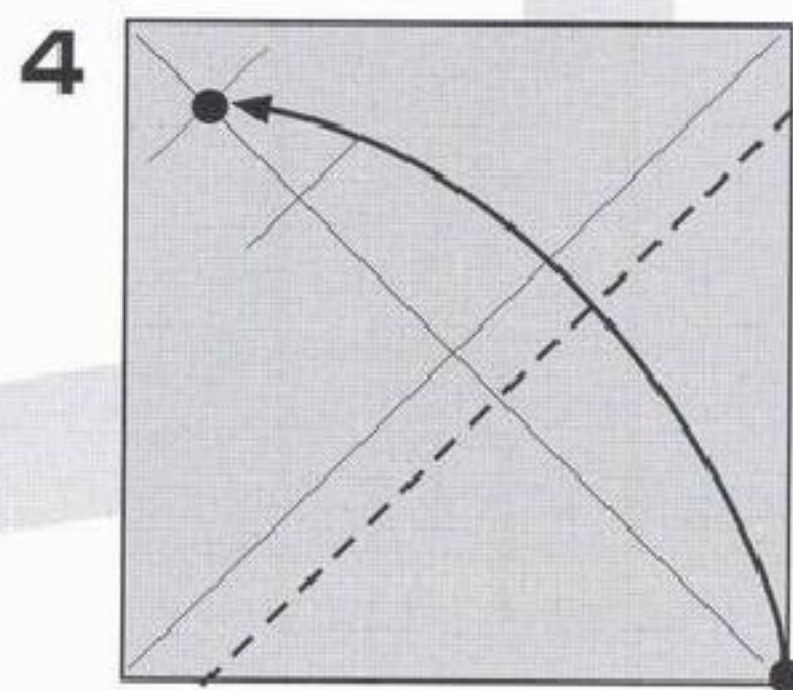
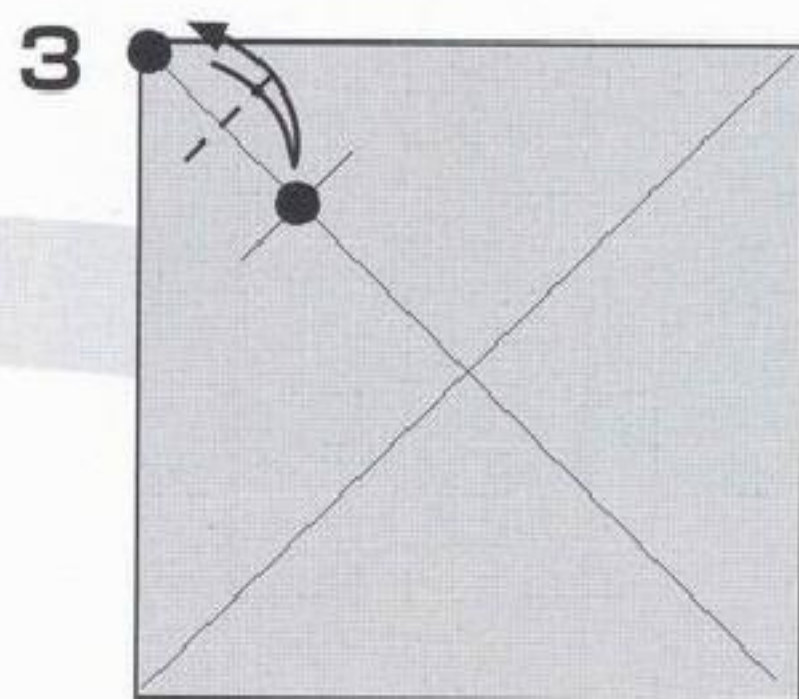
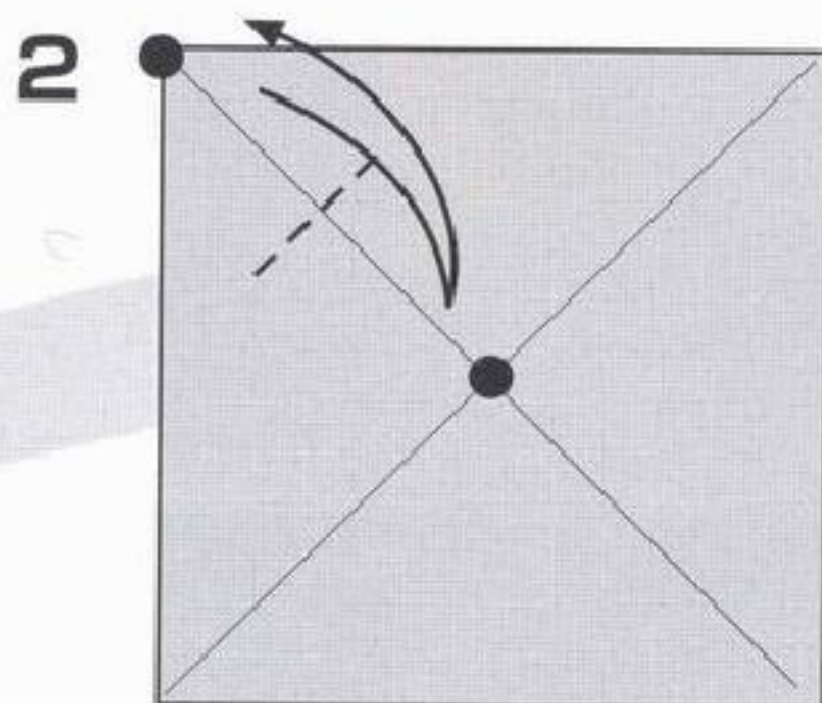
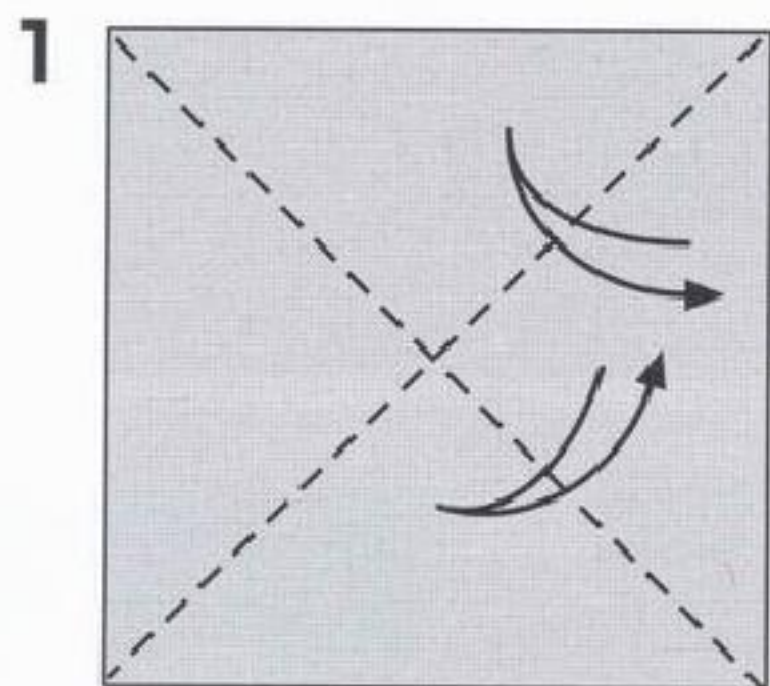


Snow Goose

白雁

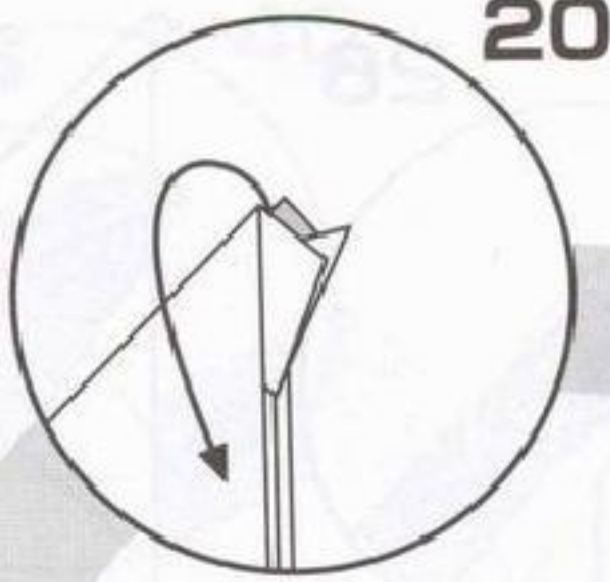
Created by Tsuda Yoshio
on 13, Dec 2008

津田良夫 作

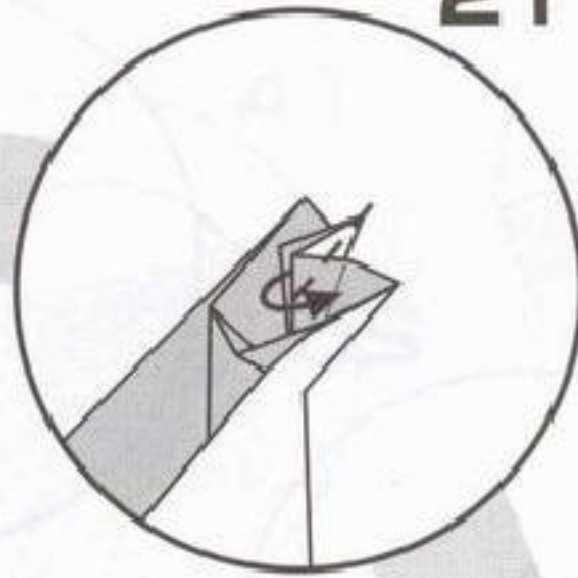


開く

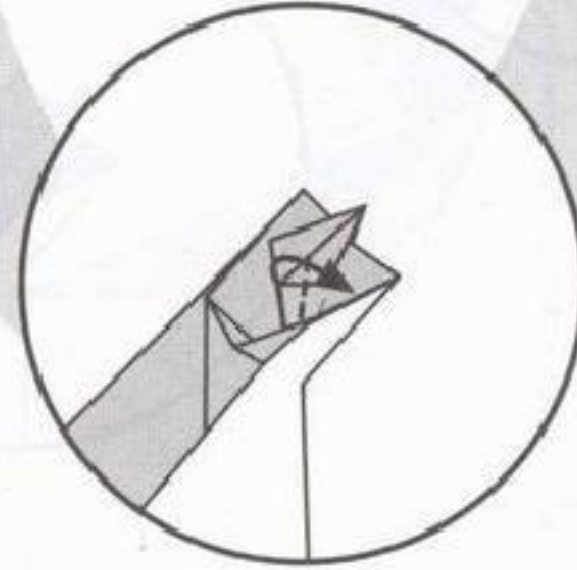
折りたたんだ
部分を
軽く上に開く。



21

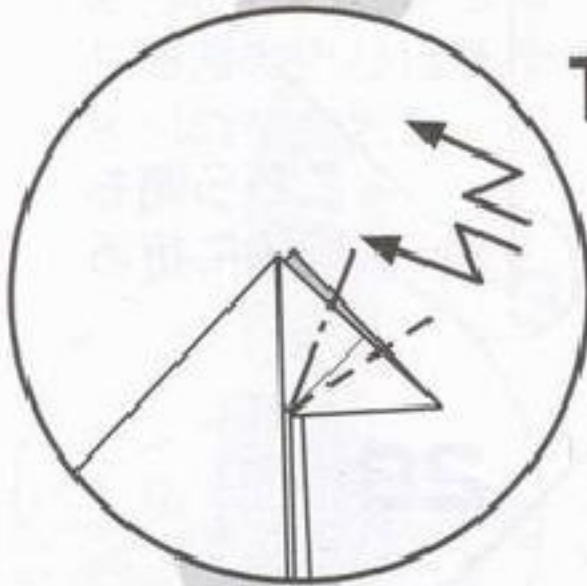


22

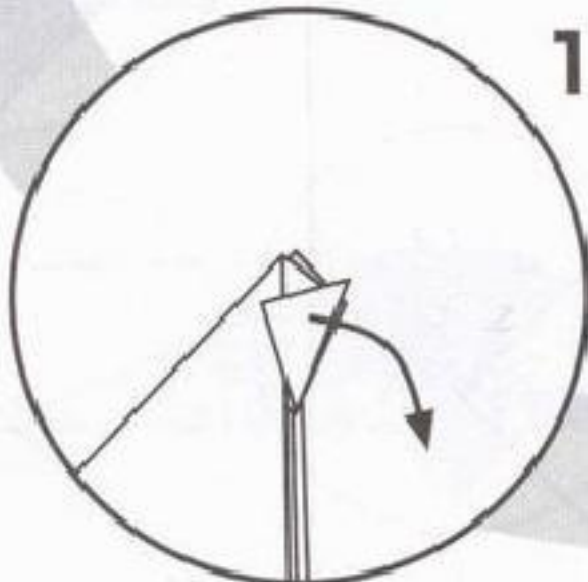


19

段折り
しながら
中わり折り。

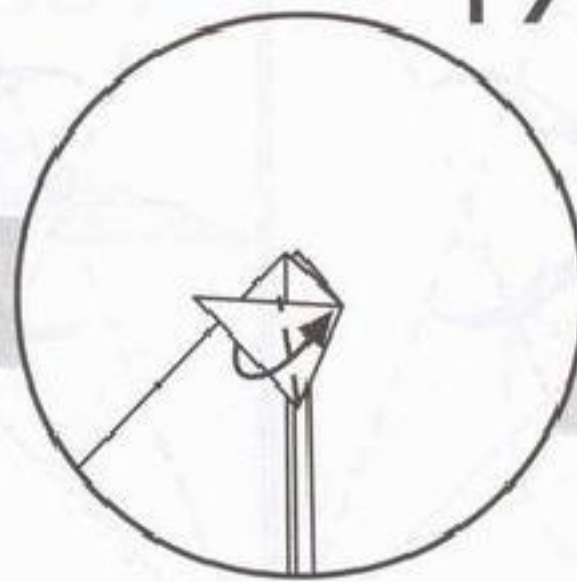


18

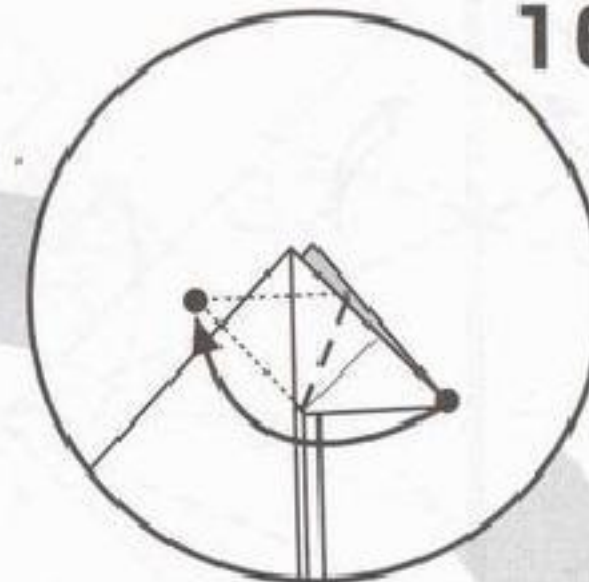


16に戻す。

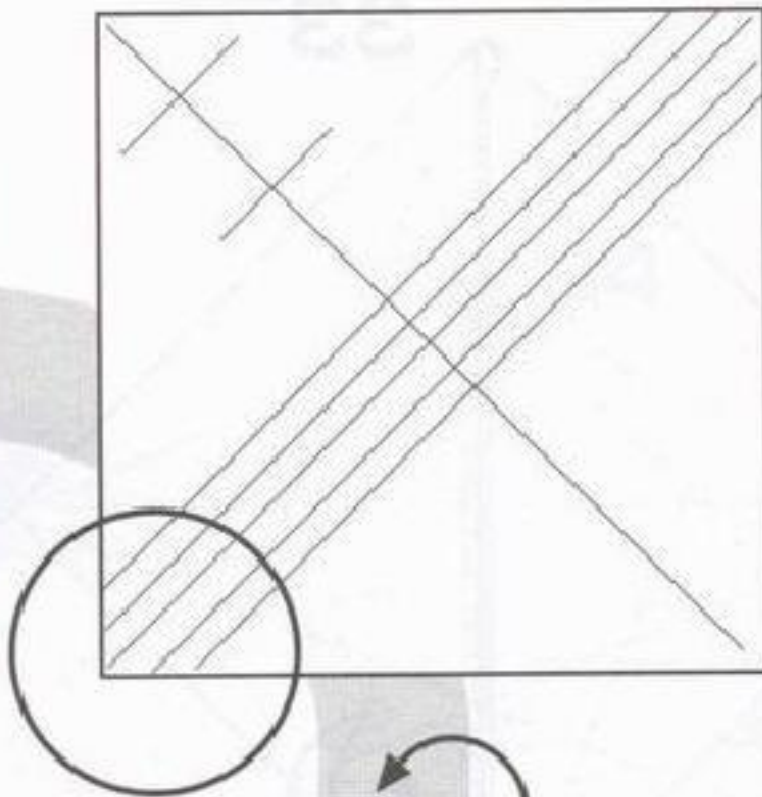
17



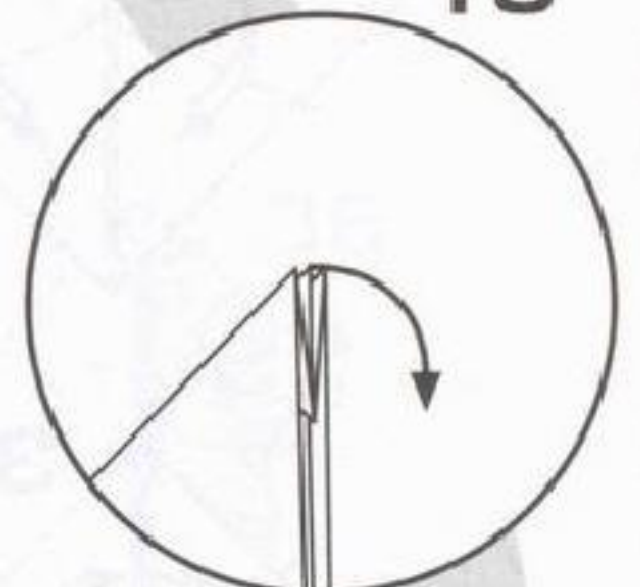
16



10

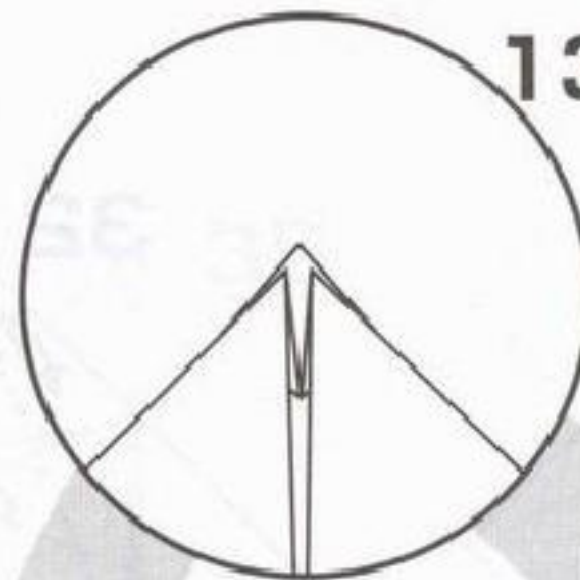


15

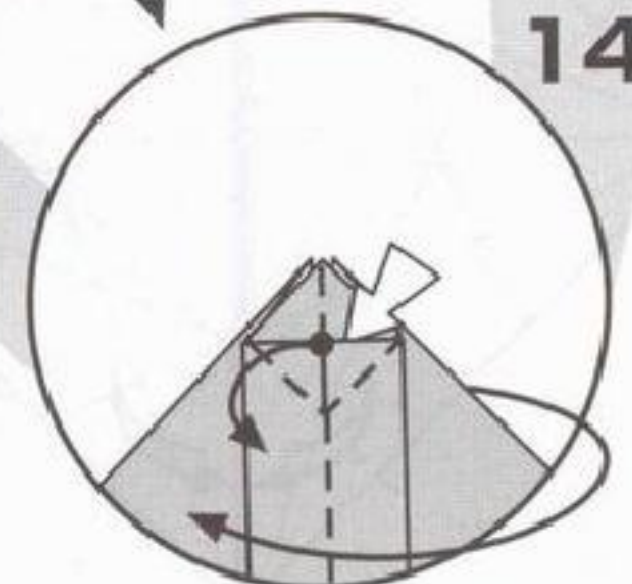


引き出す。

13

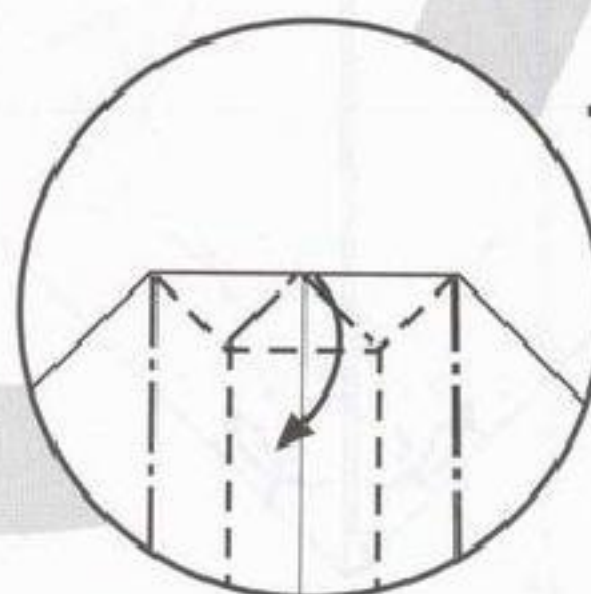


14



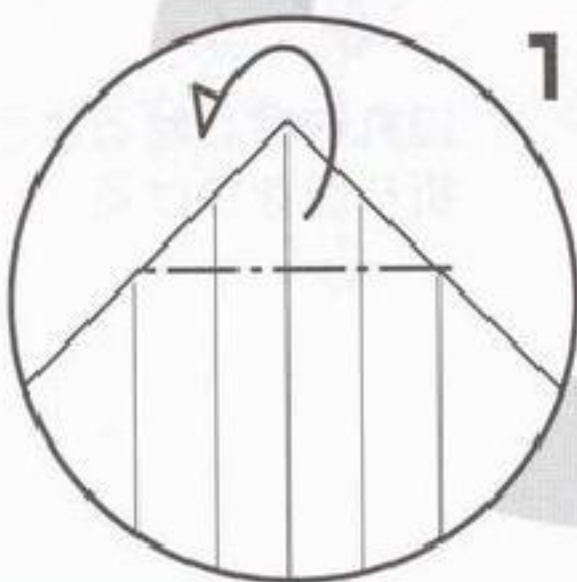
黒丸を立てながら
全体を半分に折る。

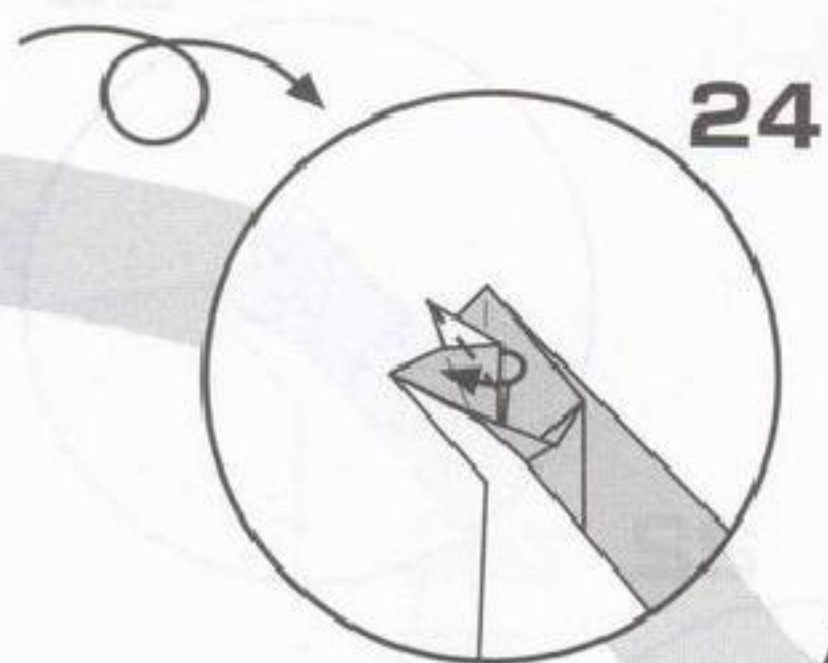
12



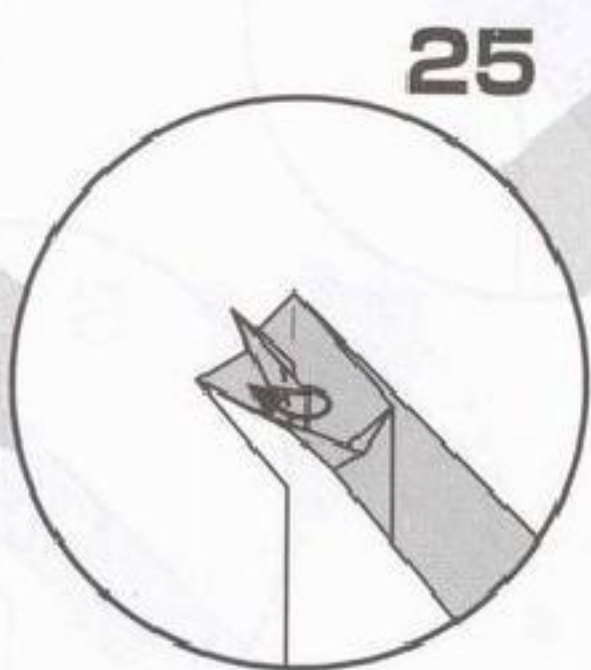
折線のように
折りたたむ。

11

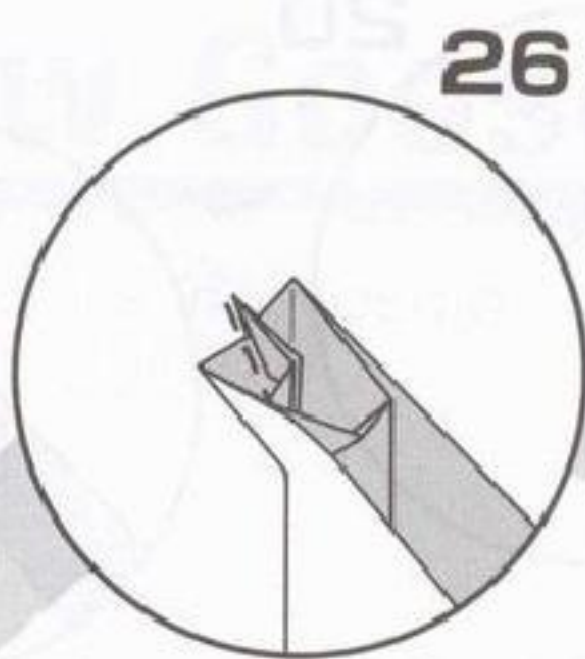




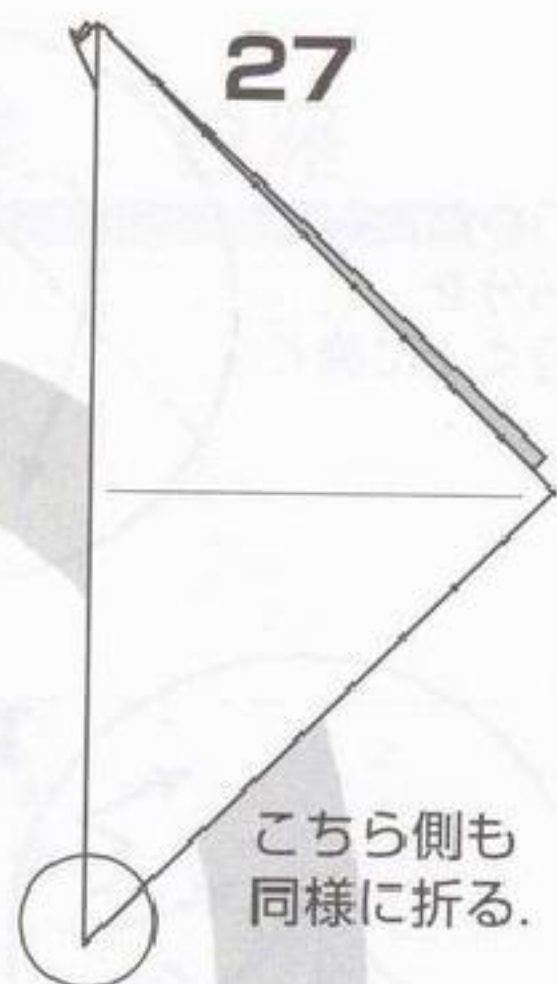
24



25

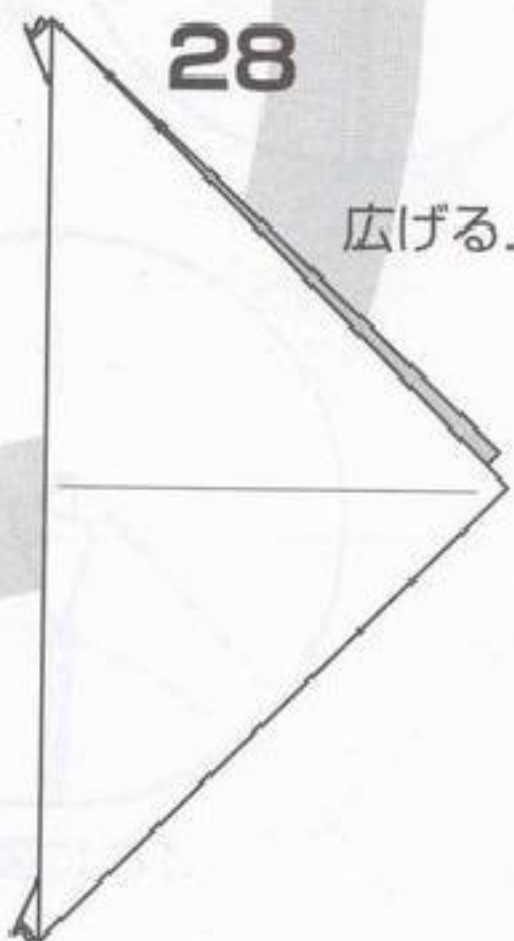


26



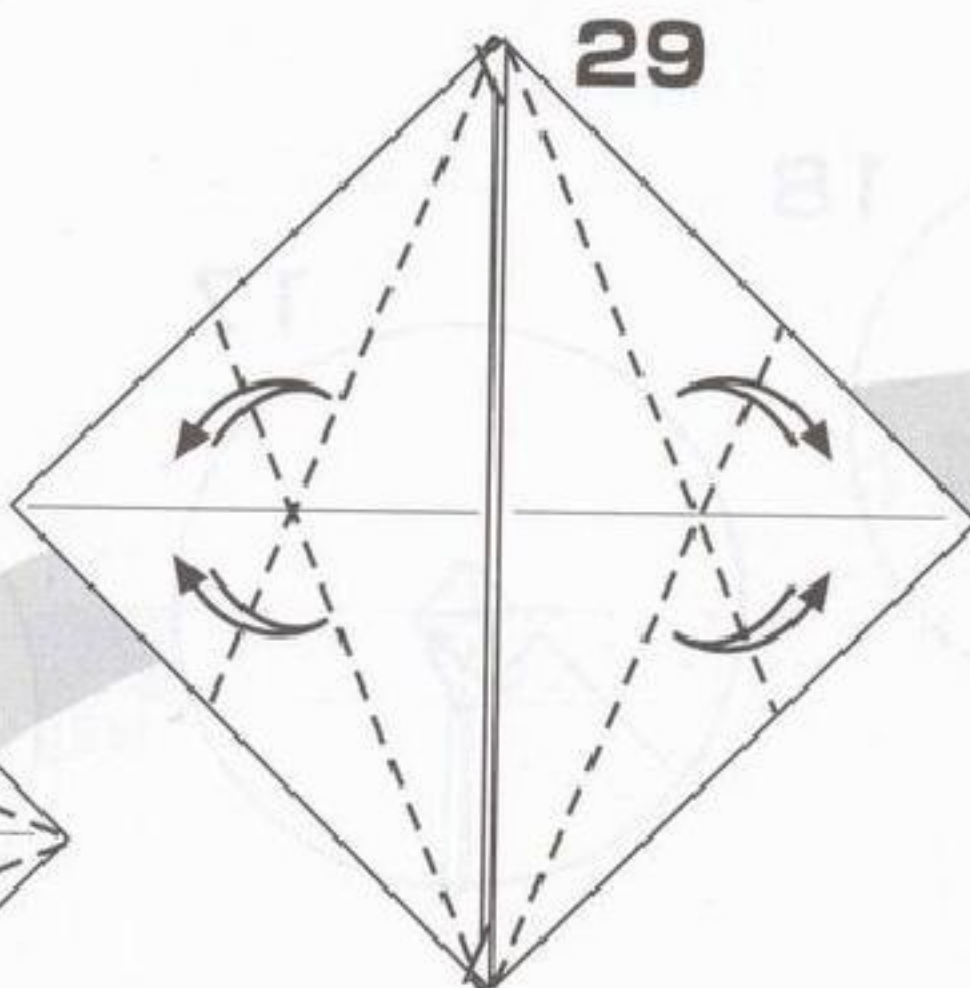
27

こちら側も
同様に折る。

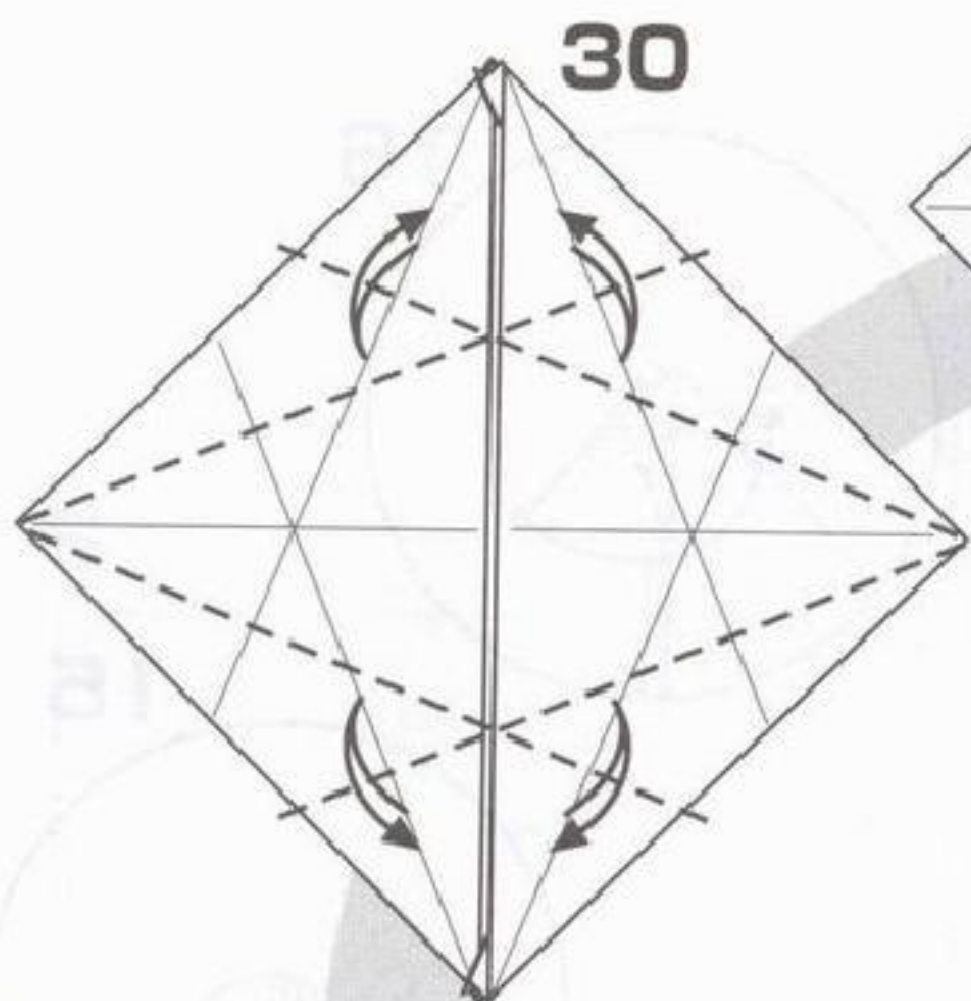


28

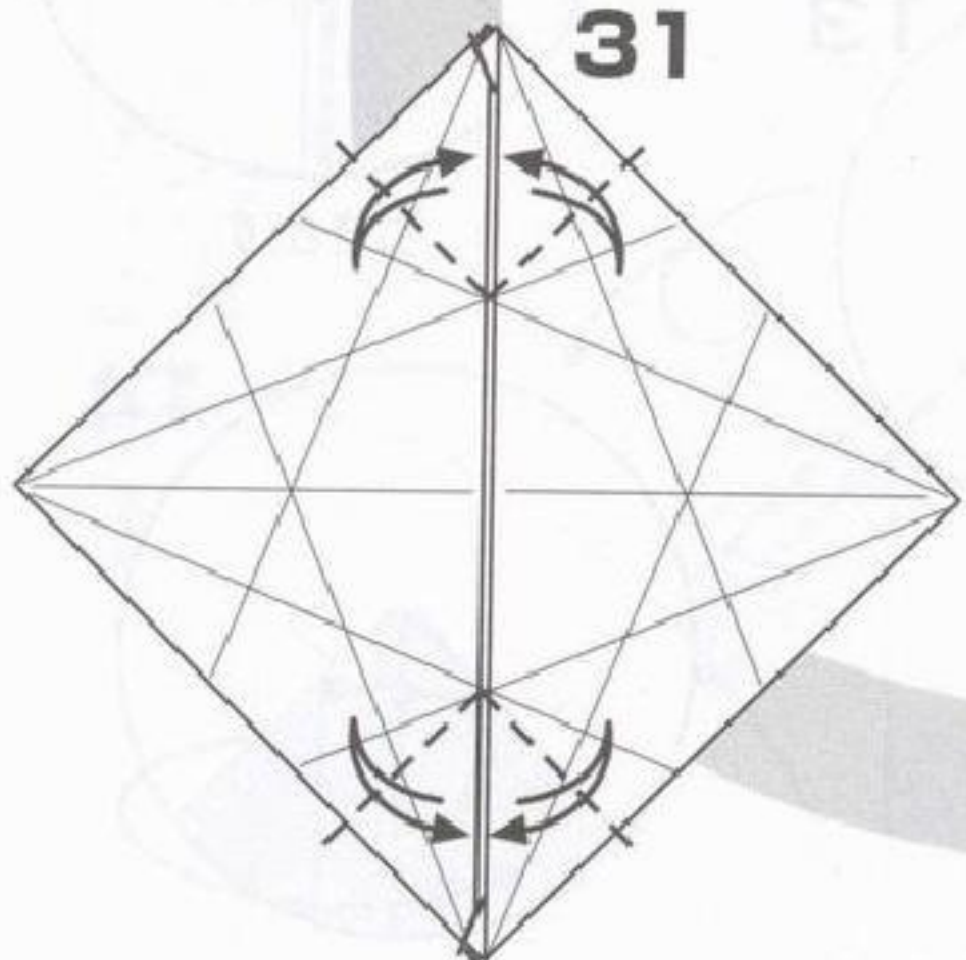
広げる。



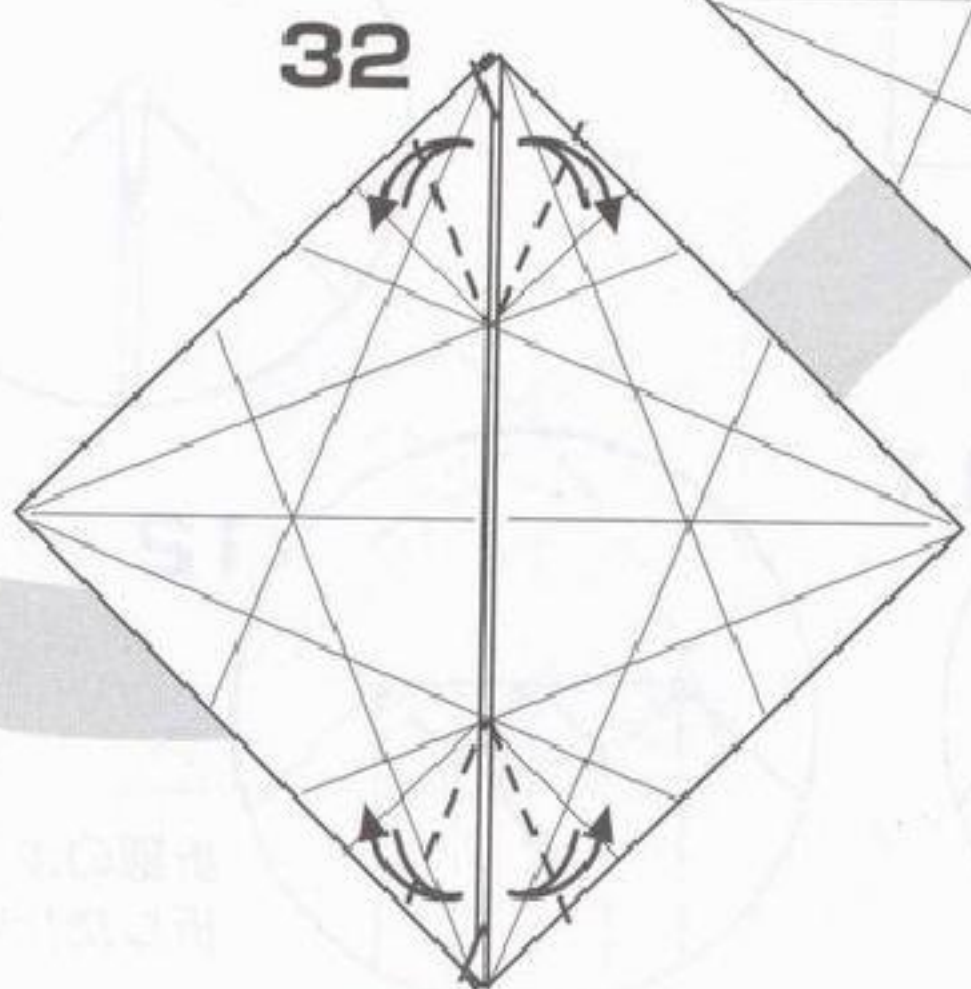
29



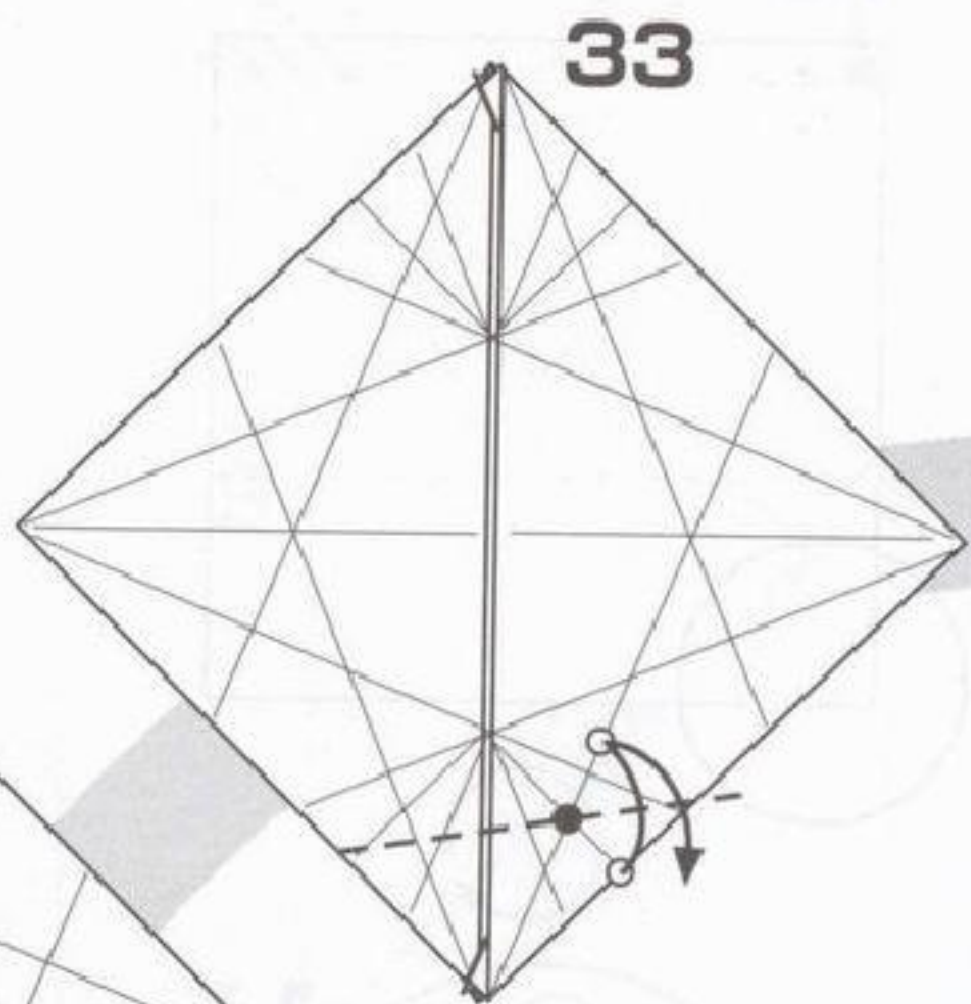
30



31



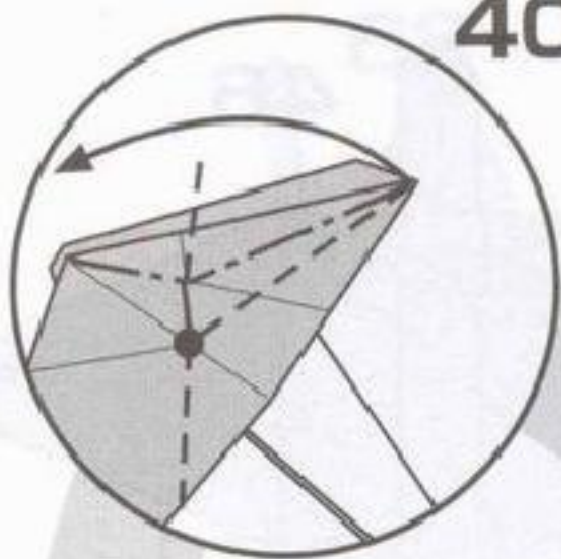
32



33

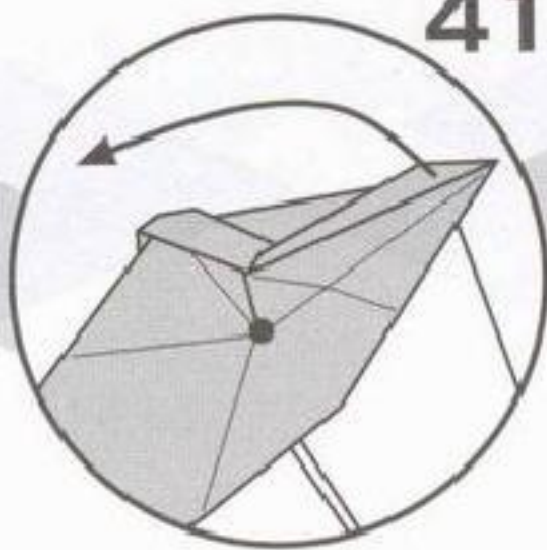
白丸を合わせるように
折り目をつける。

40

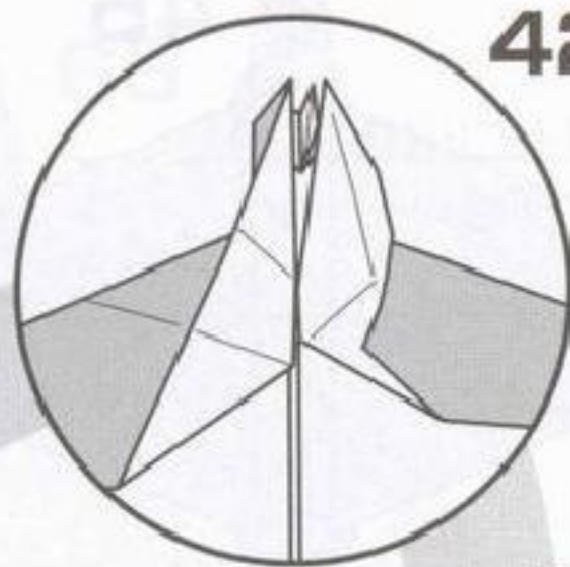


黒丸がへこむように
左側面の折り目を使って
変則の花弁折り.

41

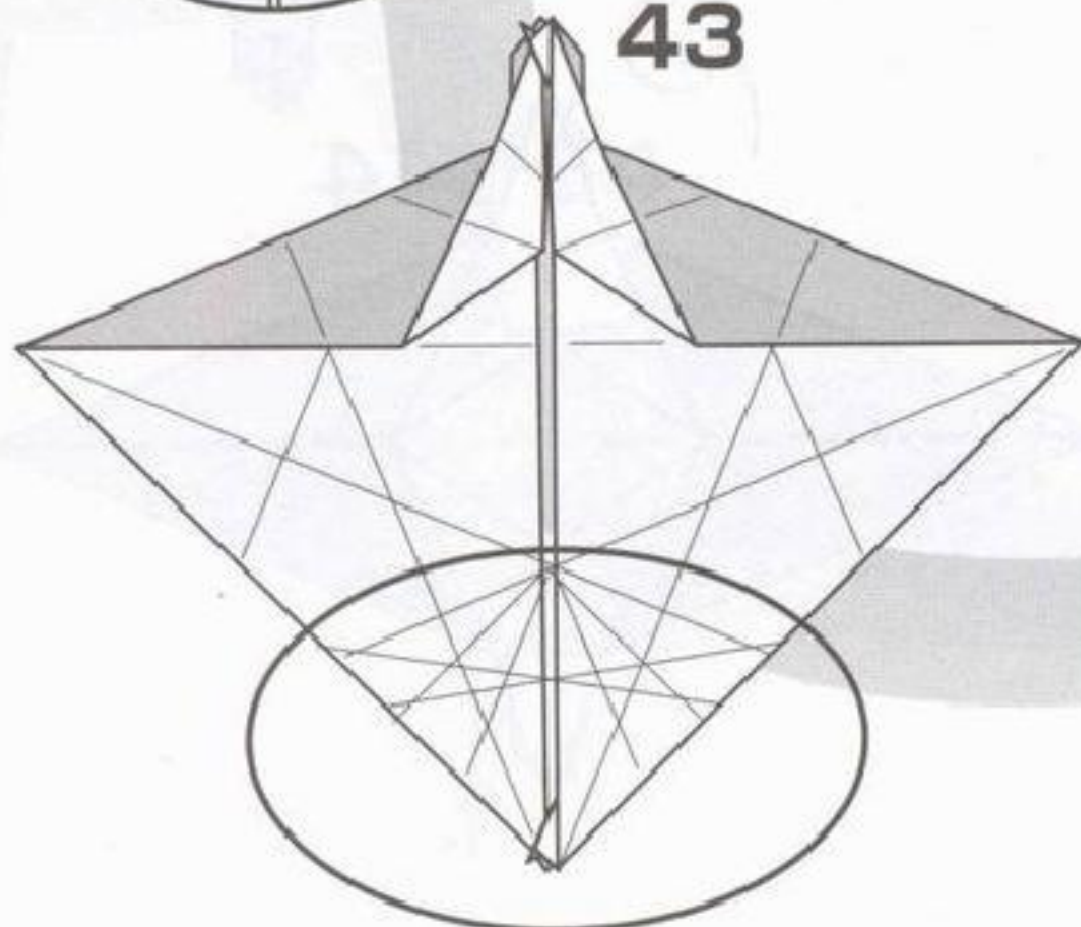


42



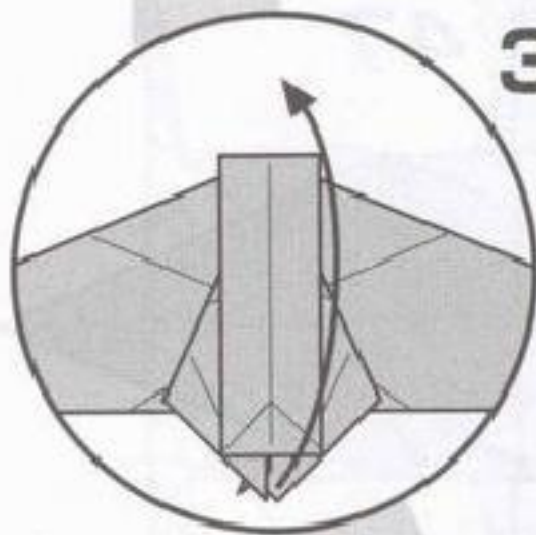
右側も
同様に折る.

43



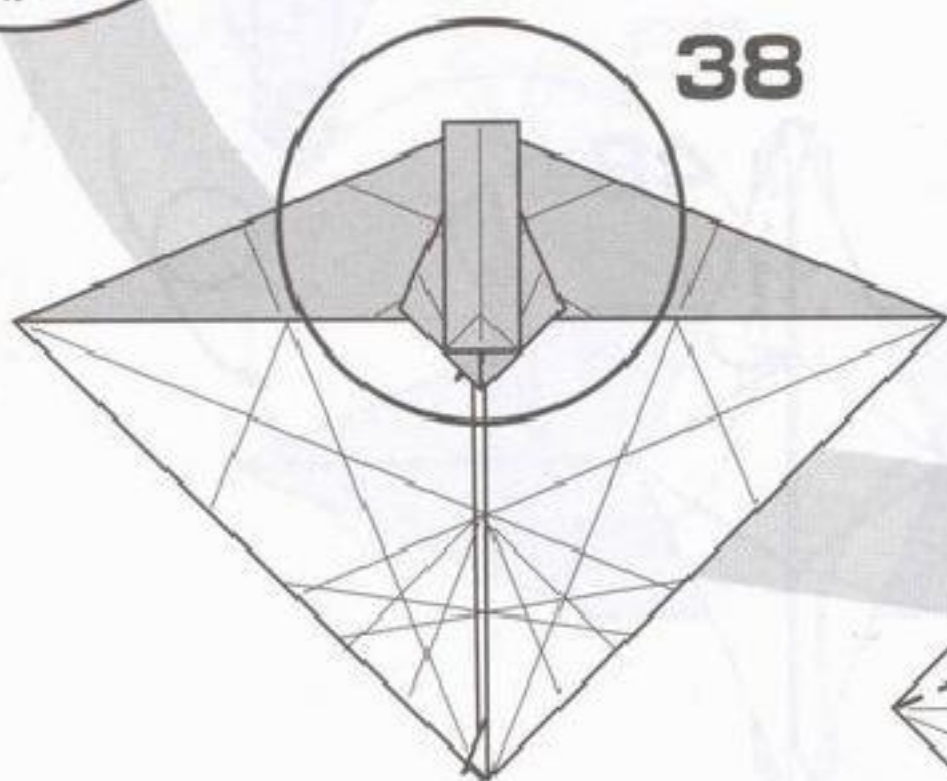
こちら側も 37~42
と同様に折る.

39

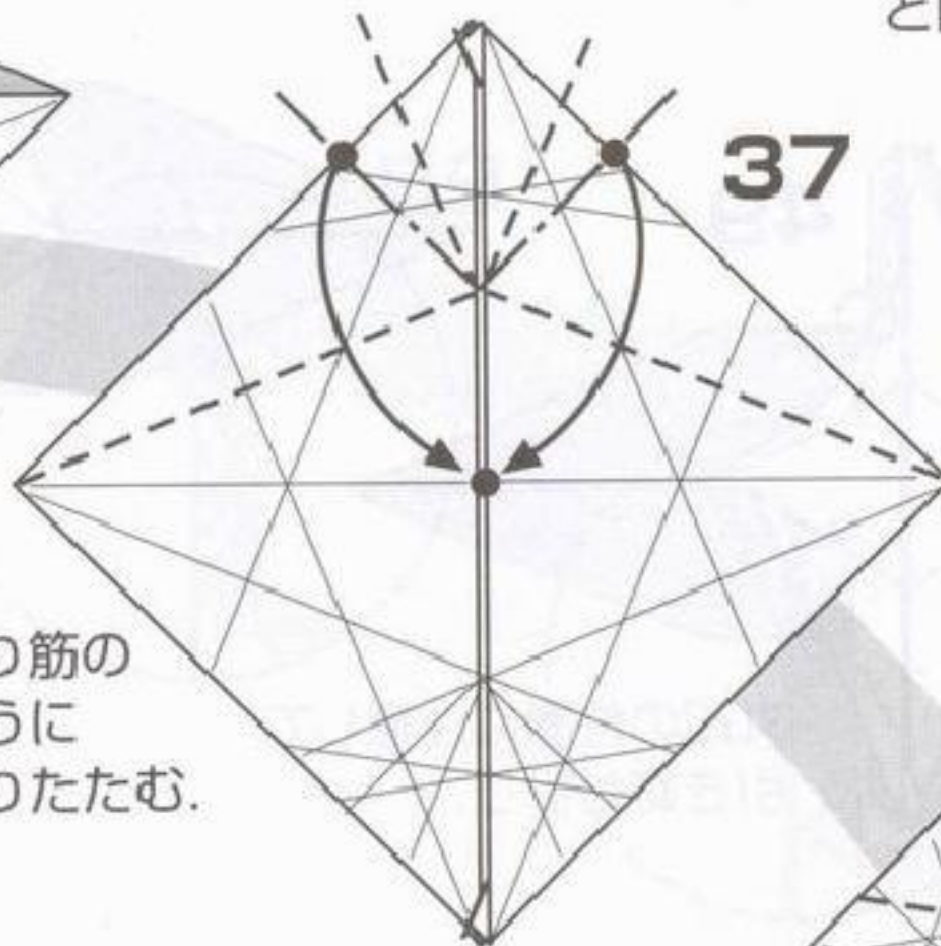


上に
持ち上げる.

38

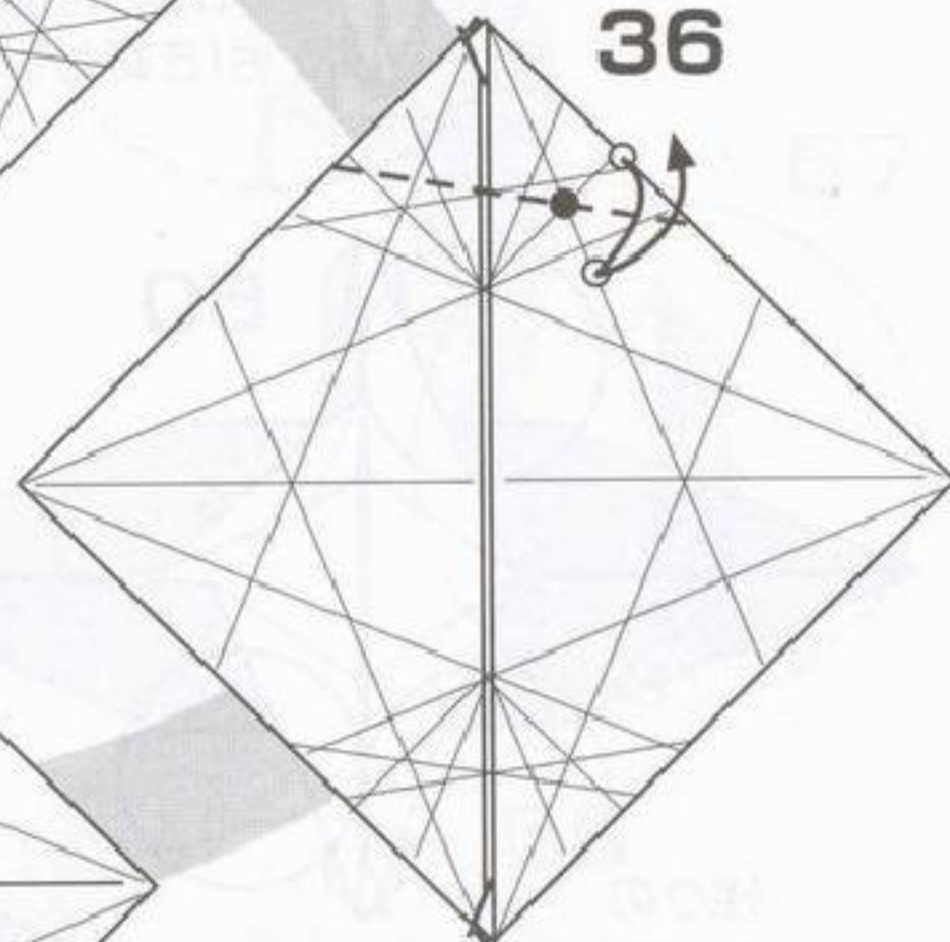


37

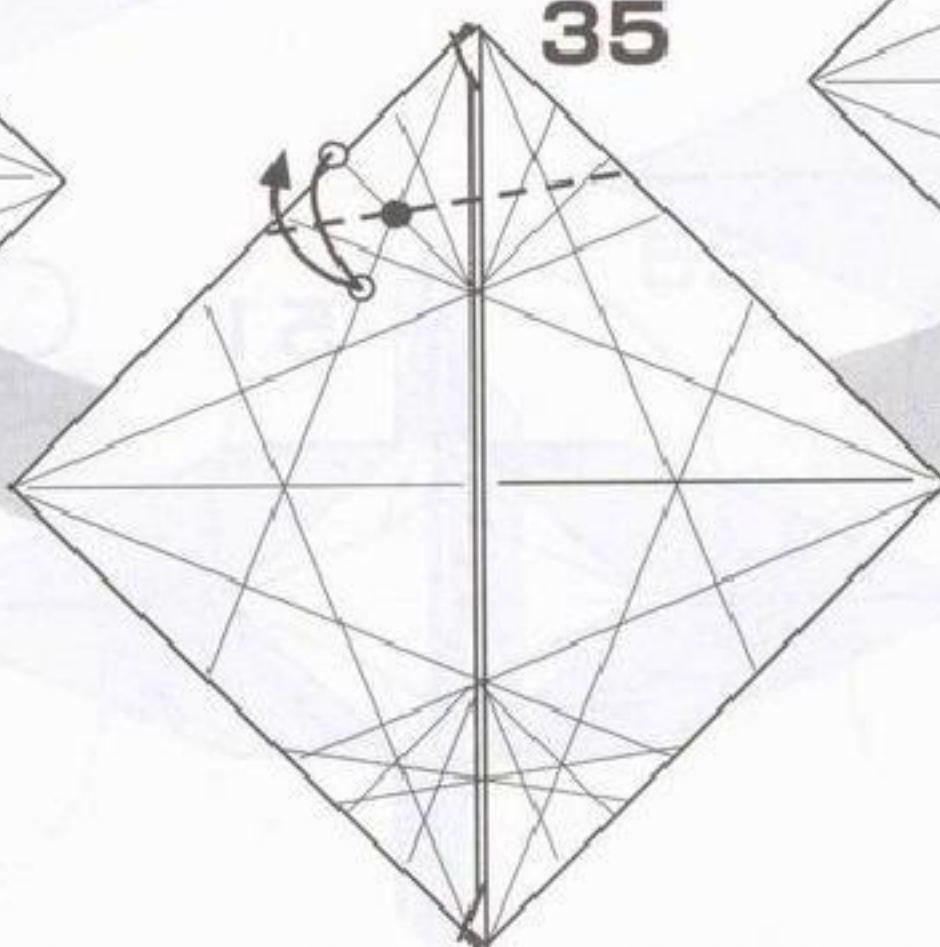


折り筋の
ように
折りたたむ.

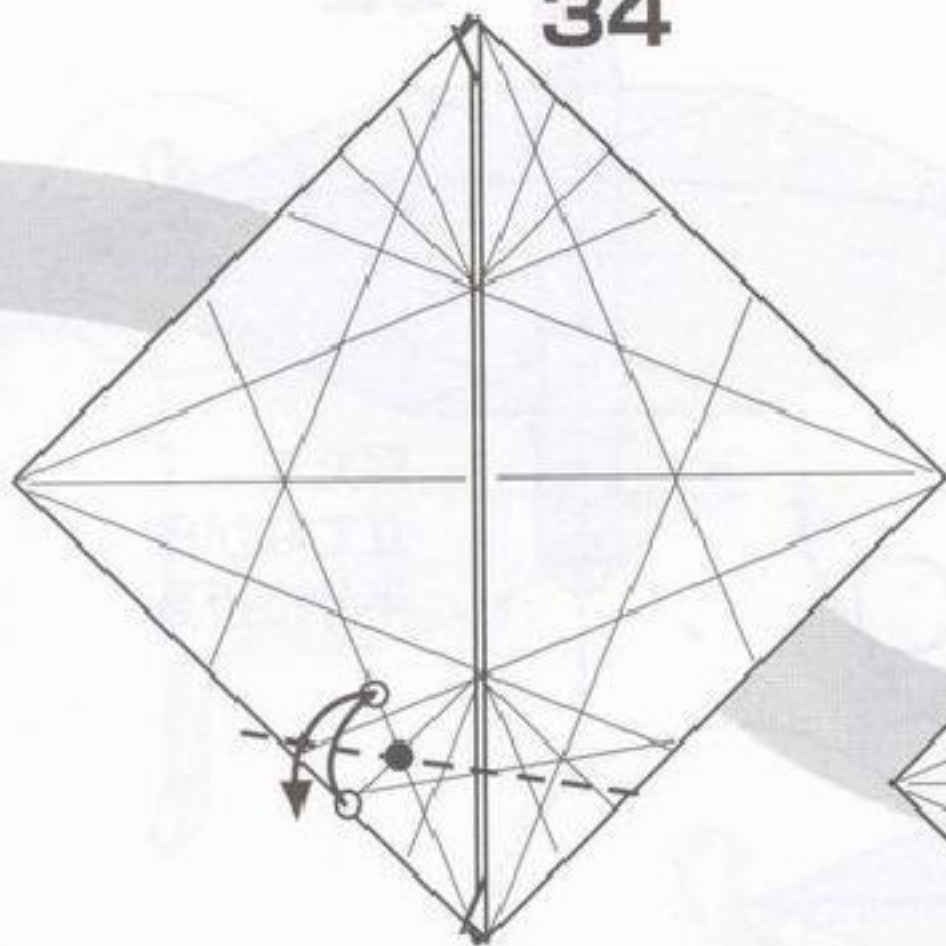
36

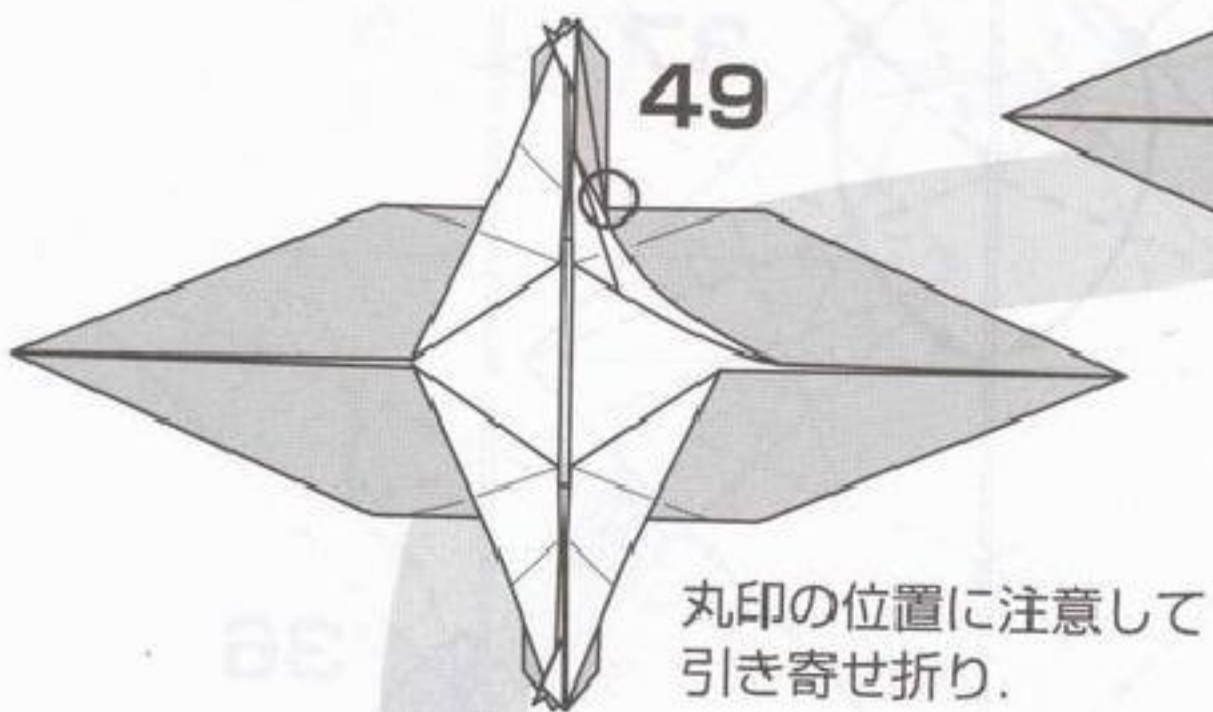
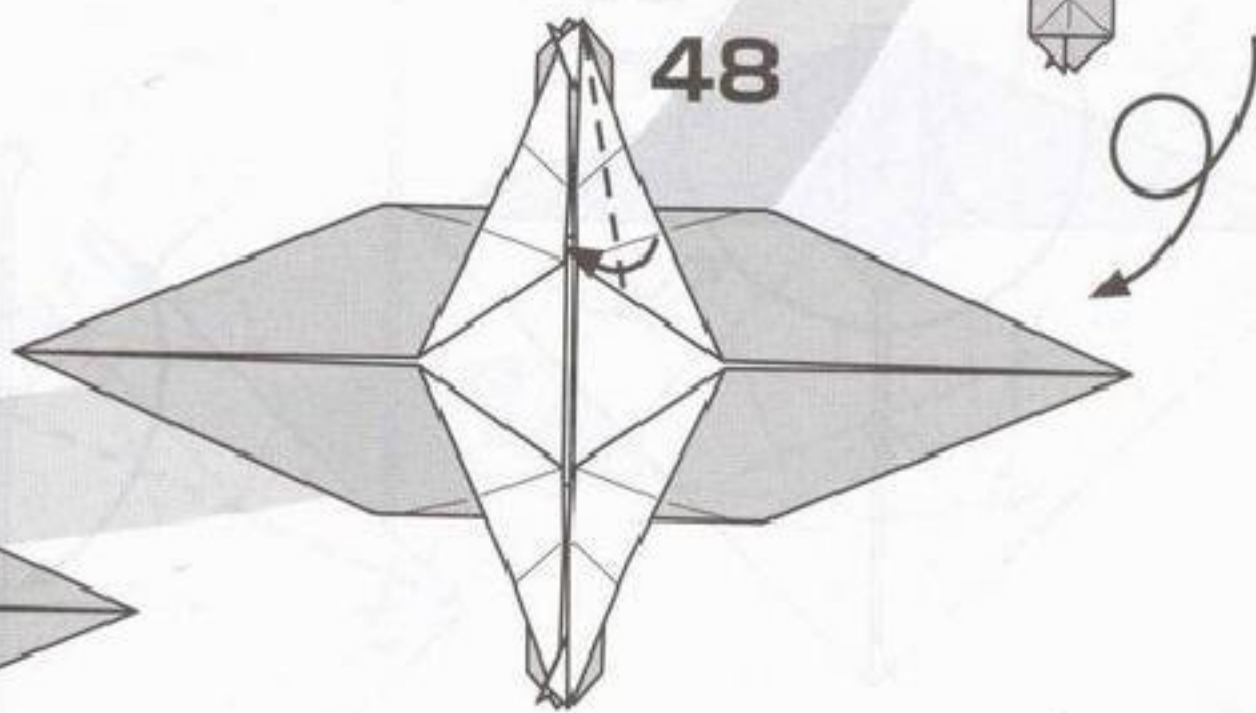
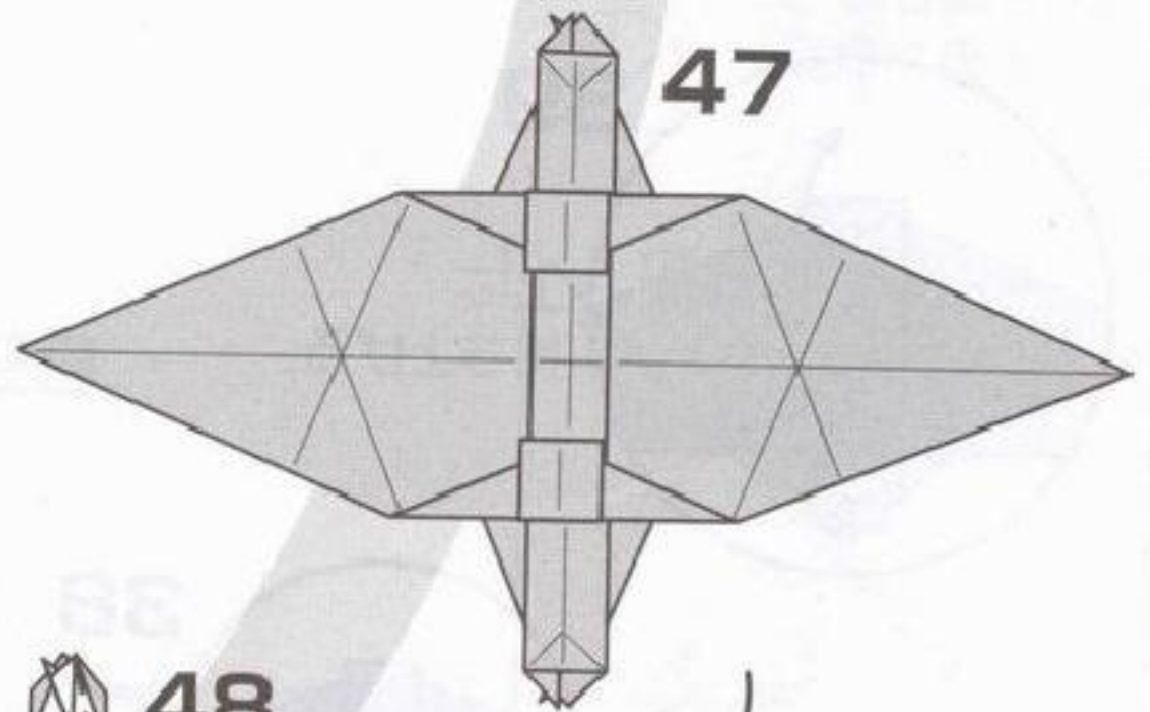
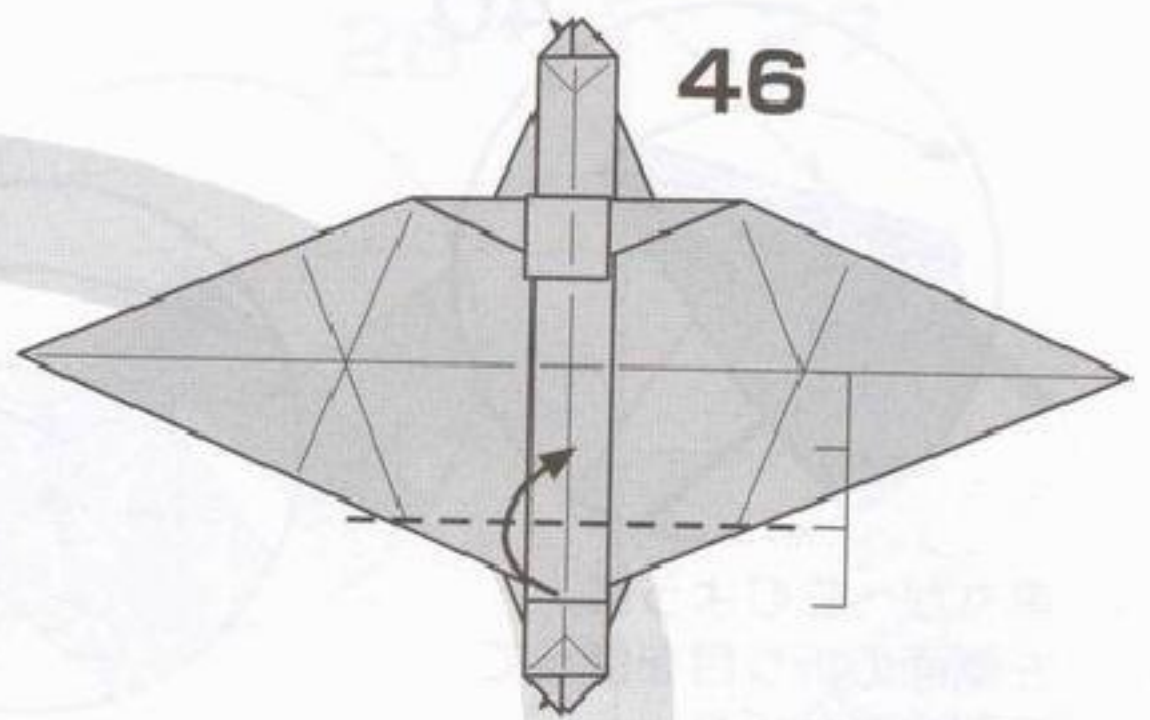
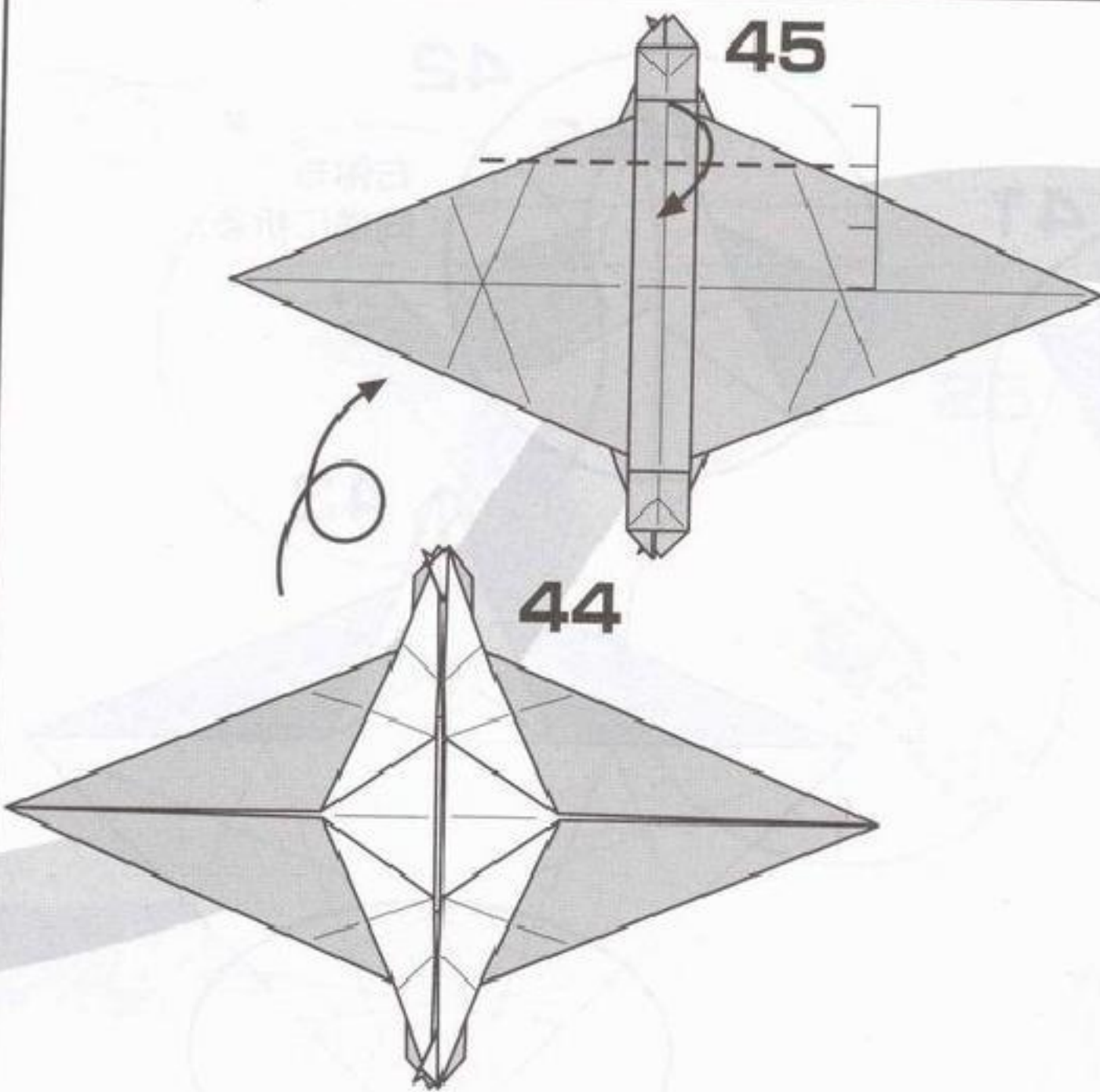


35

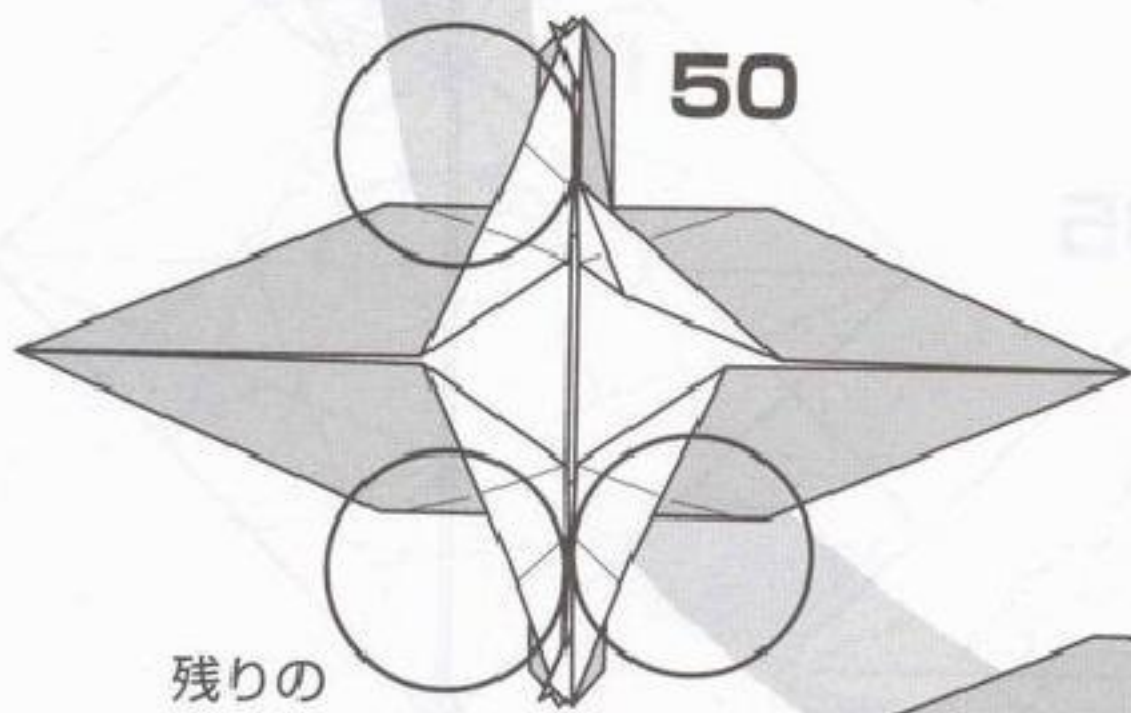


34

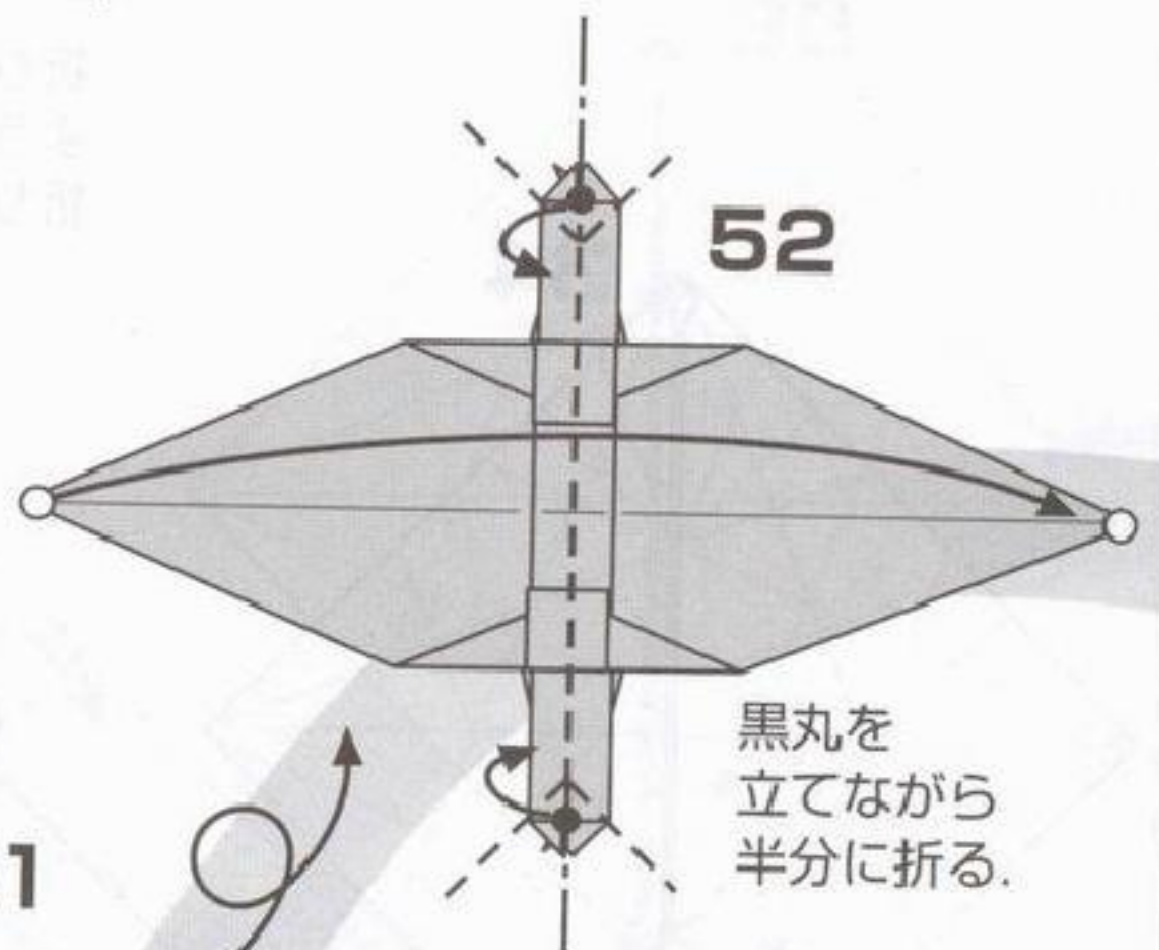
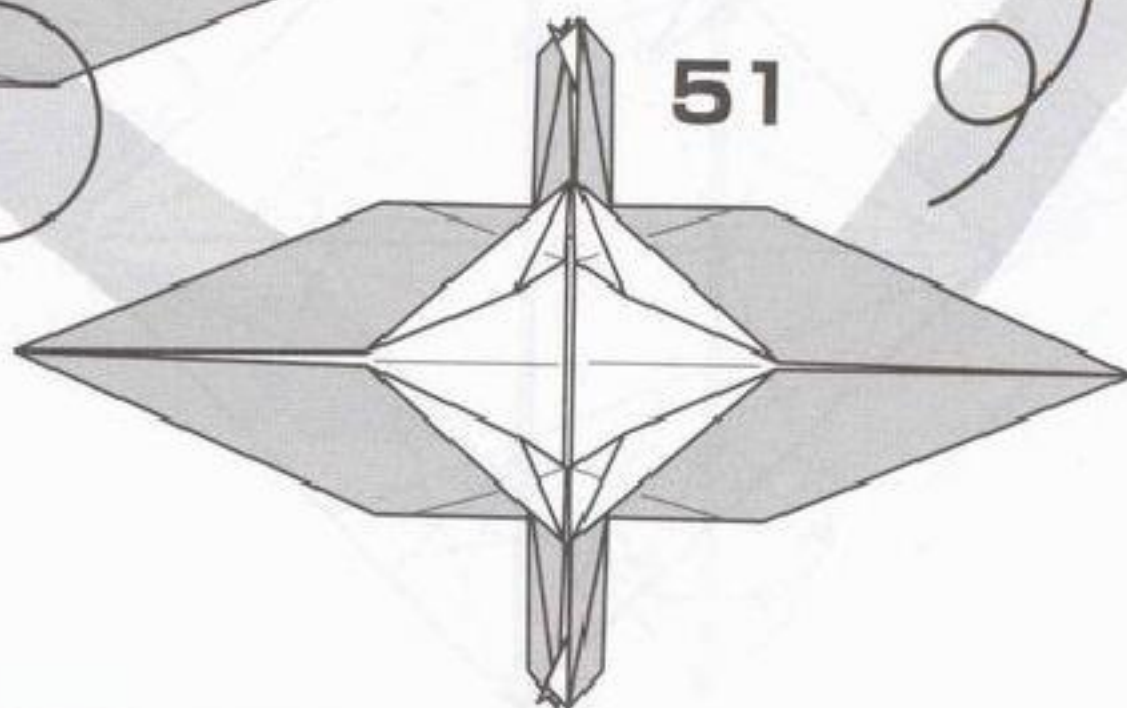




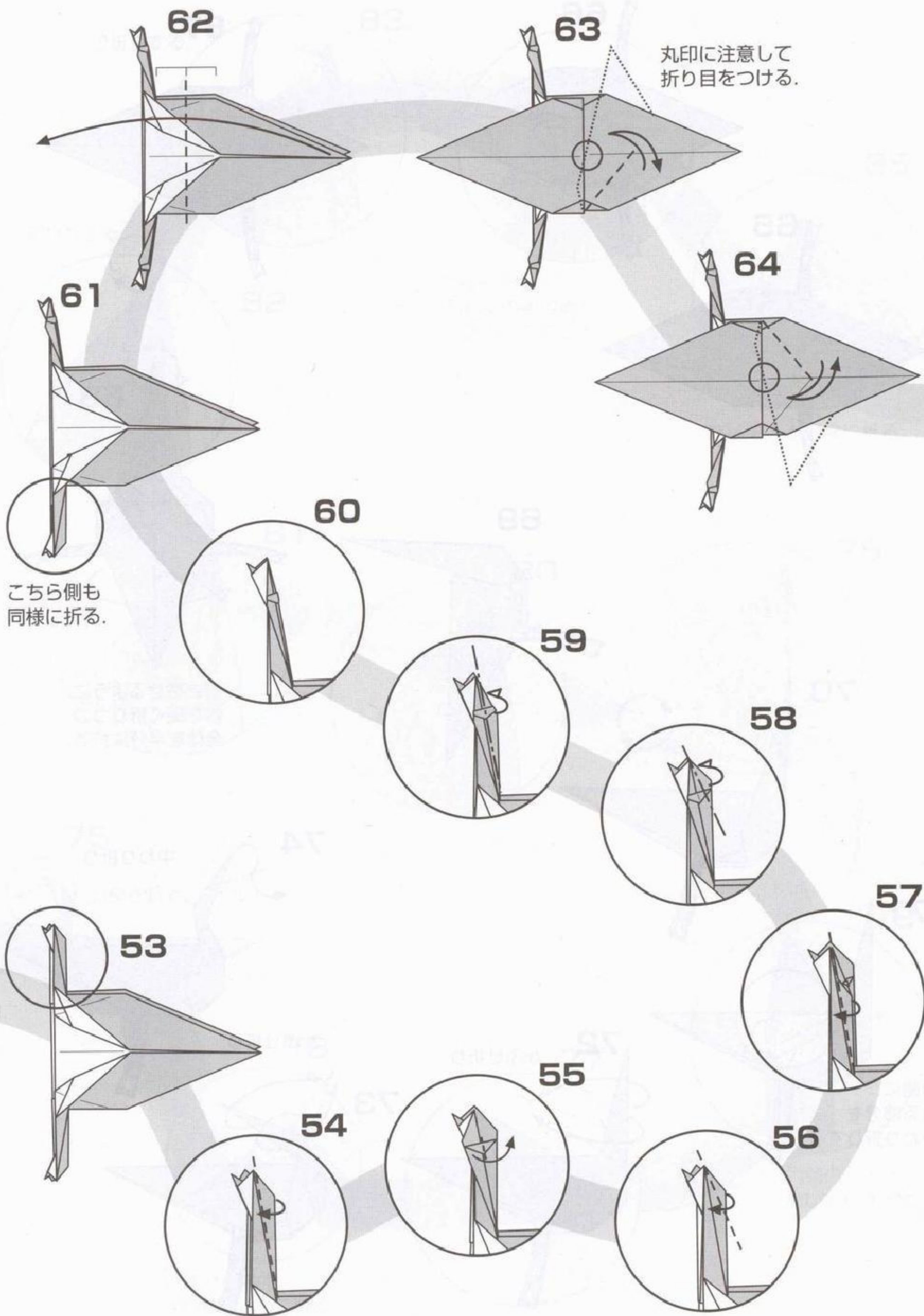
丸印の位置に注意して
引き寄せ折り.

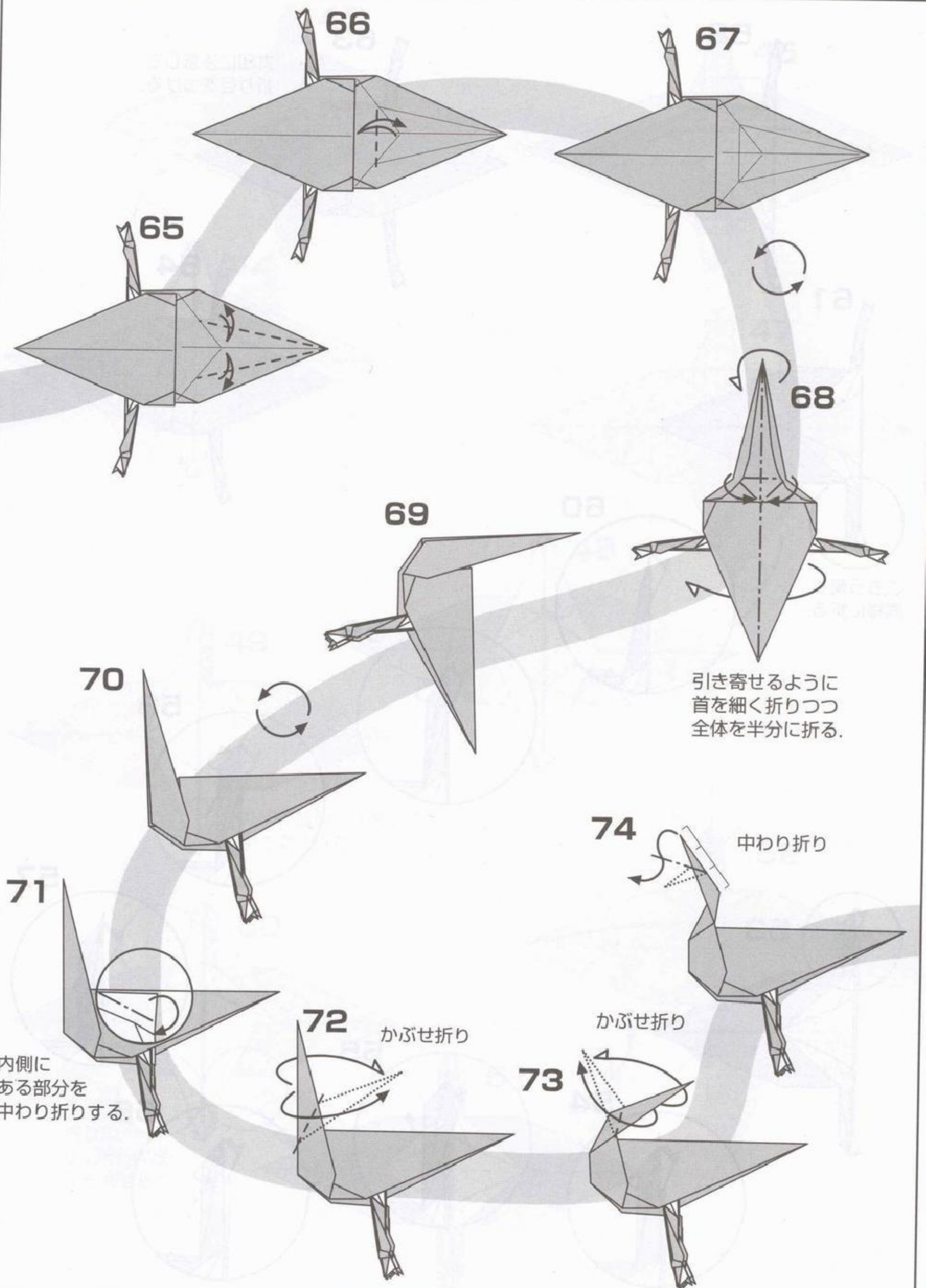


残りの
3ヶ所も同様に
引き寄せ折り.



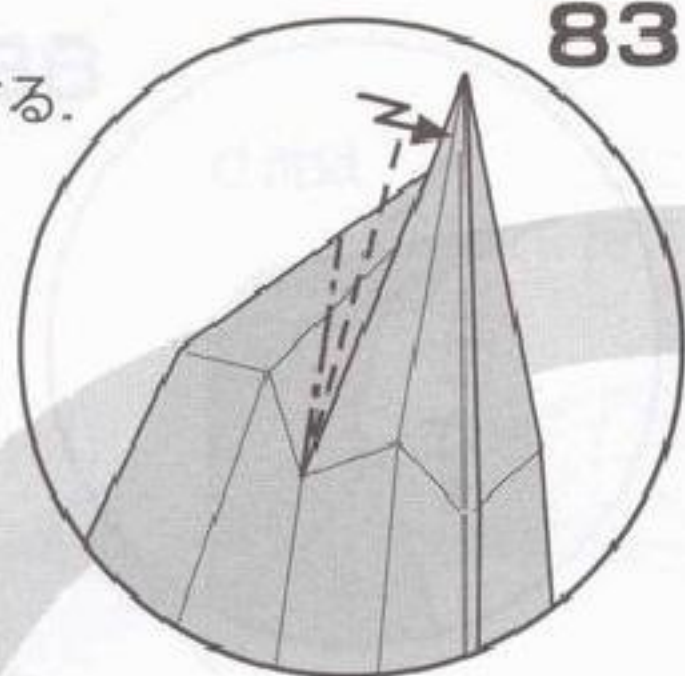
黒丸を
立てながら
半分に折る.



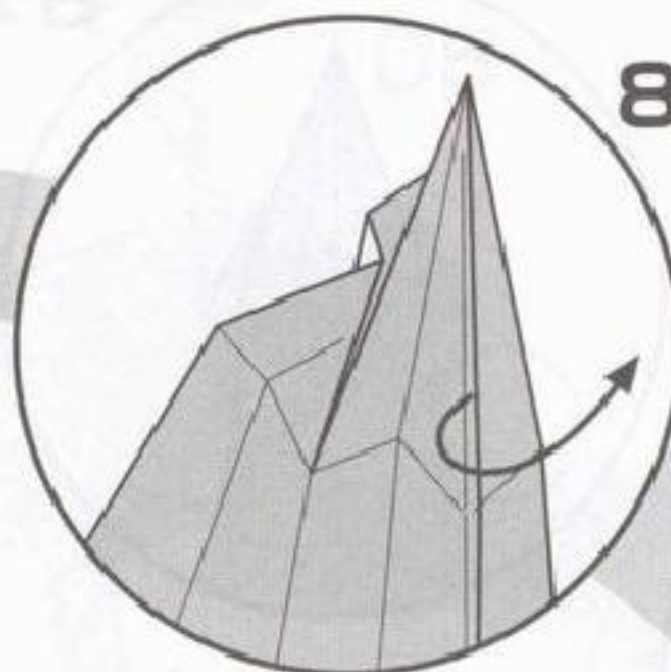


段折りする。

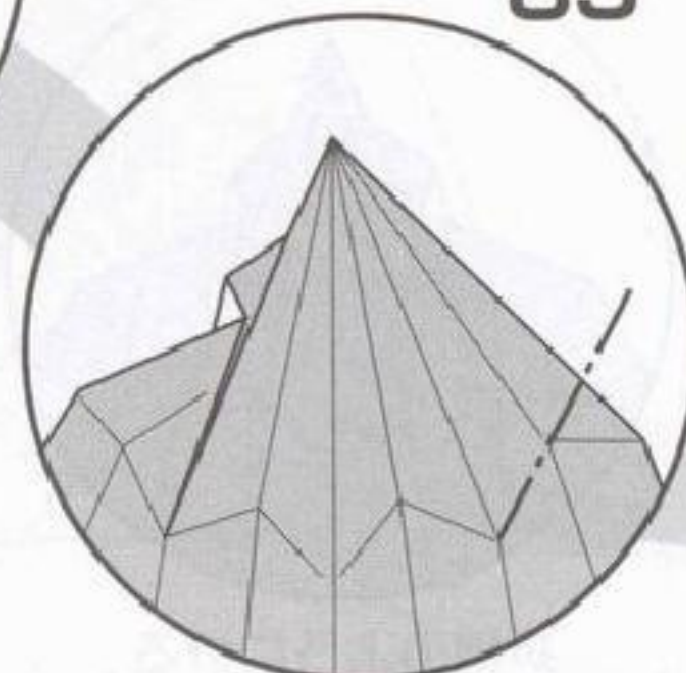
83



84



85

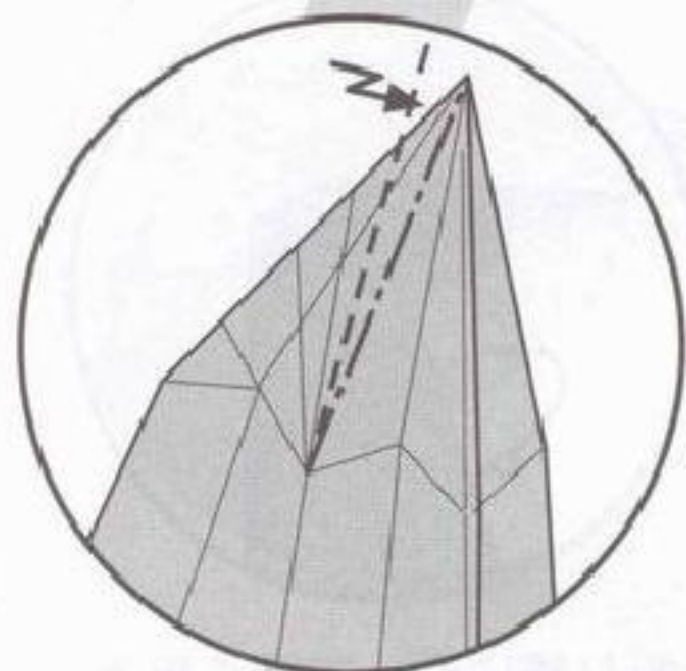


76~78 と
同様に内側の紙を
引き出して広げる。

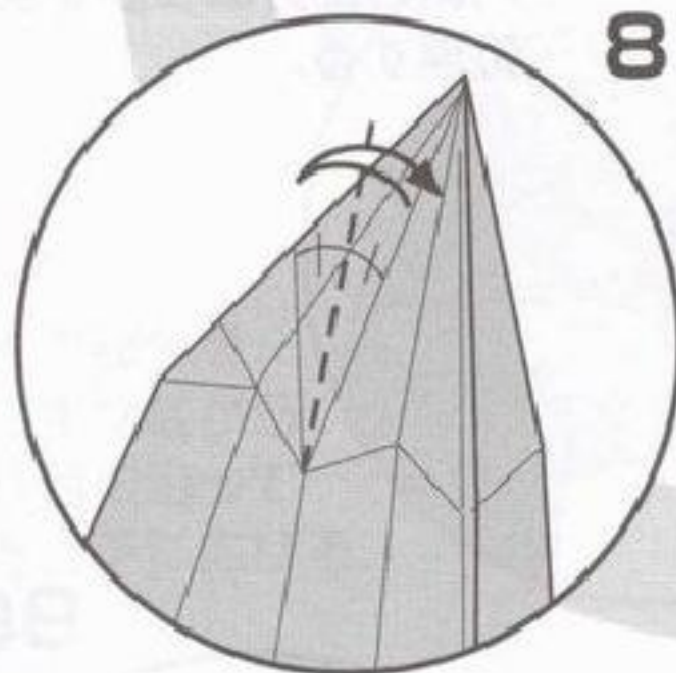
79~83 と同様に折る。

段折りする。

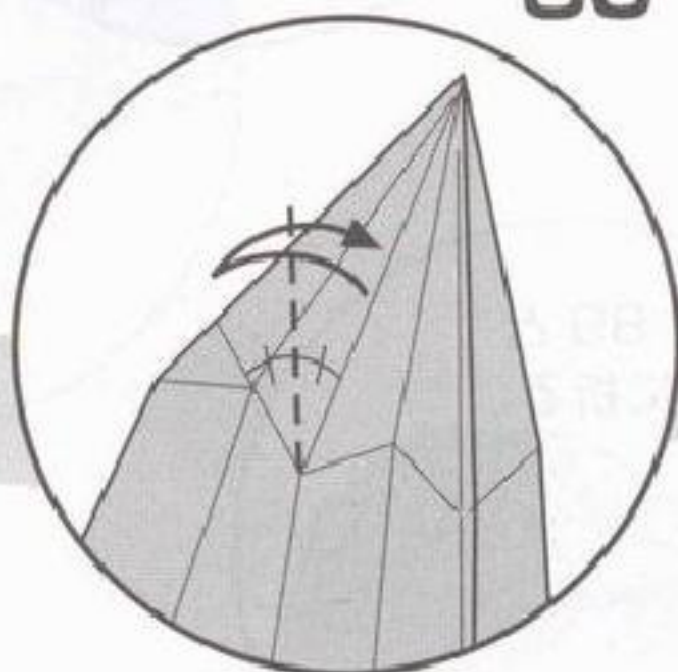
82



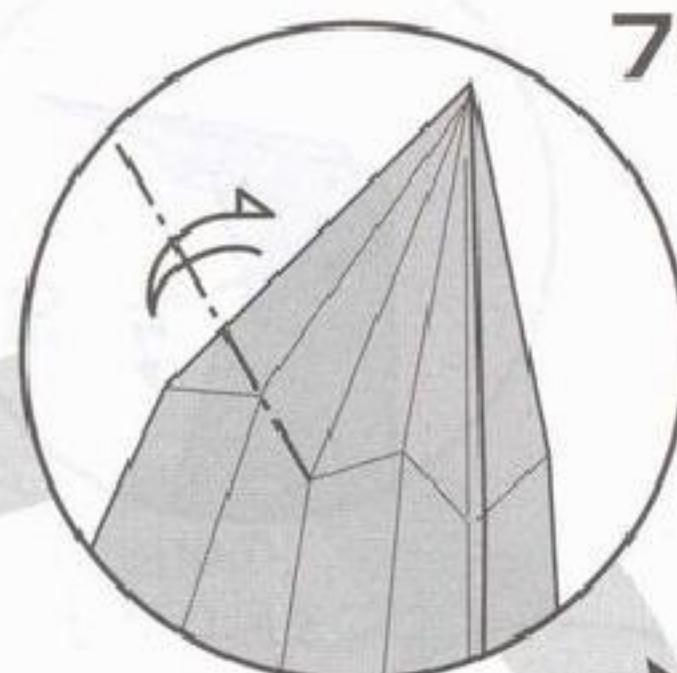
81



80



79

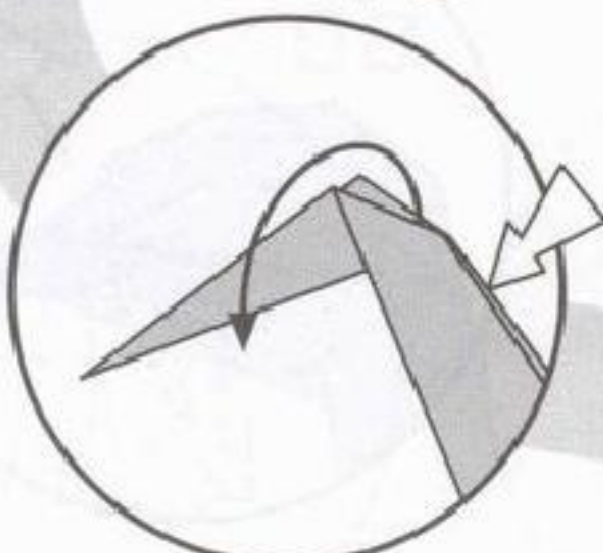


75

頭部を折る。

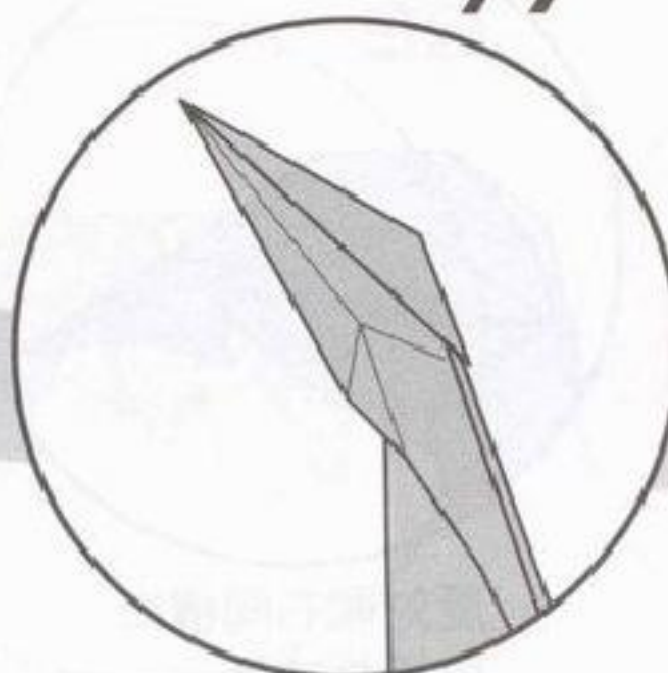


76

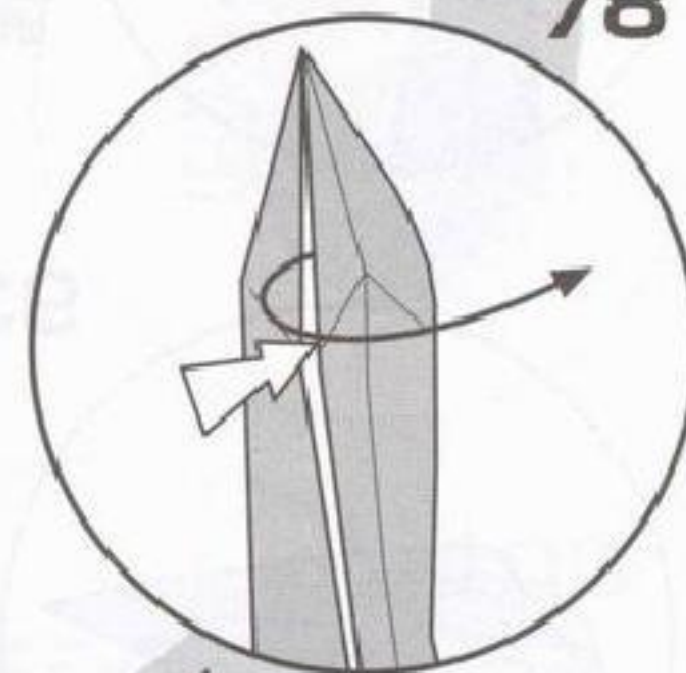


外側の 1 枚を
かぶせるように開く。

77

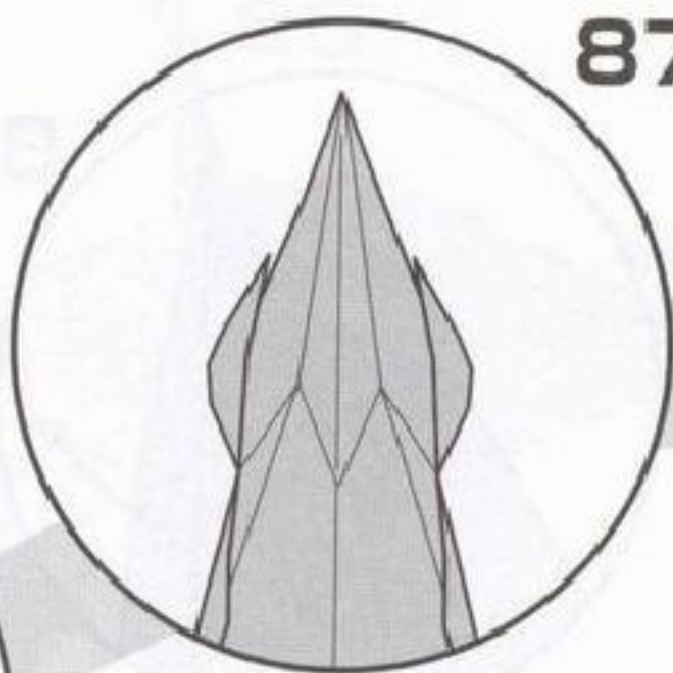


78

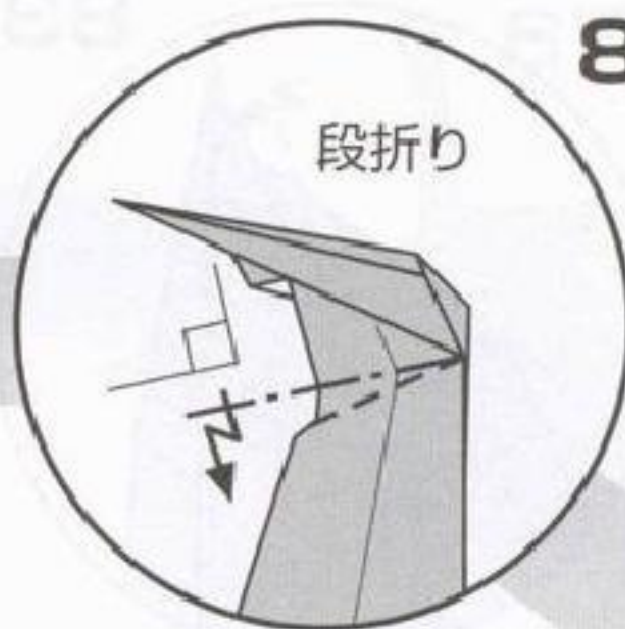


内側の 1 枚を
開いて引き出す。

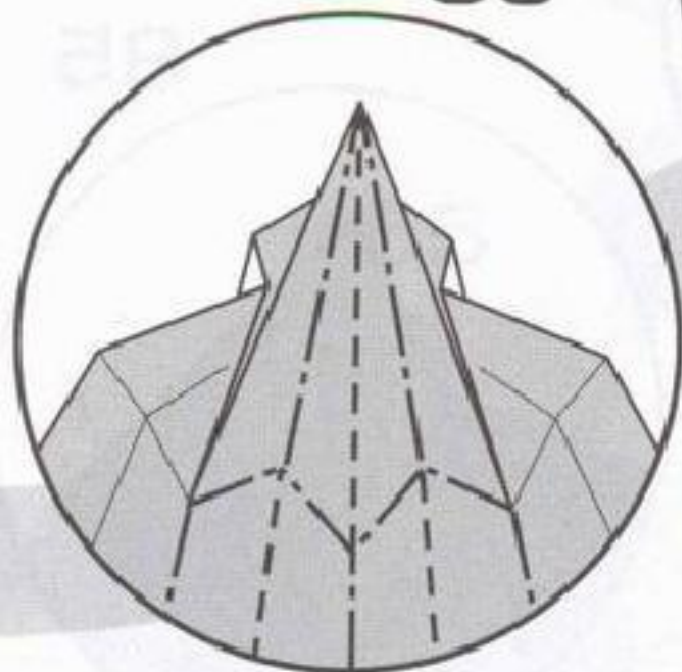
87



88

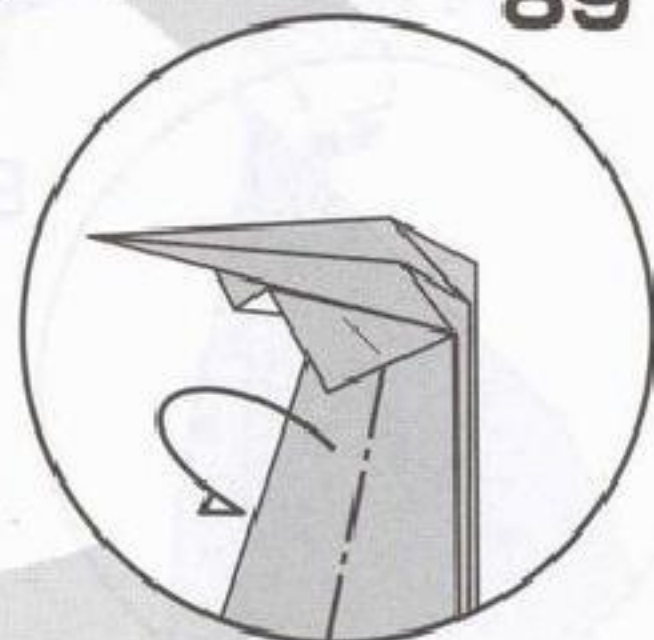


86

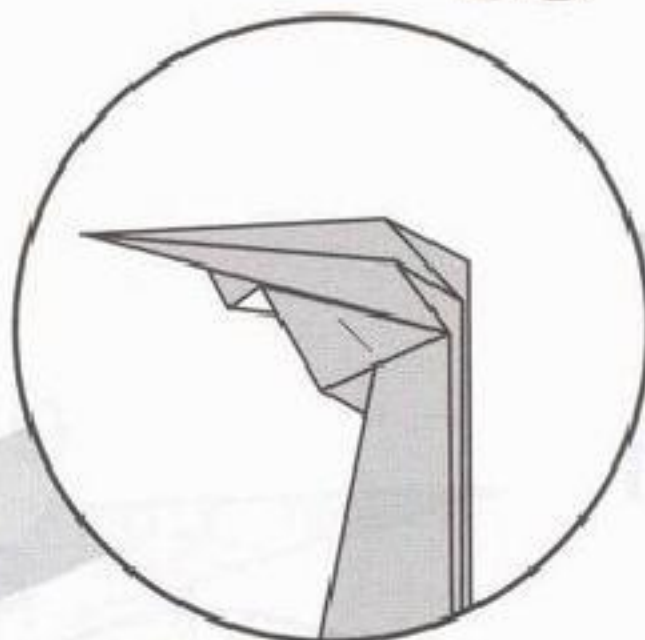


折線のように折る.

89

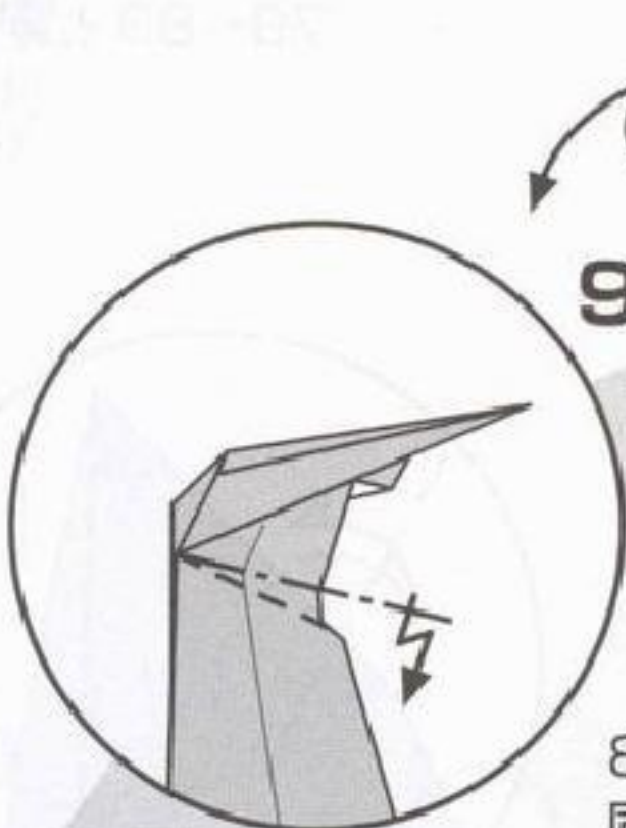


90



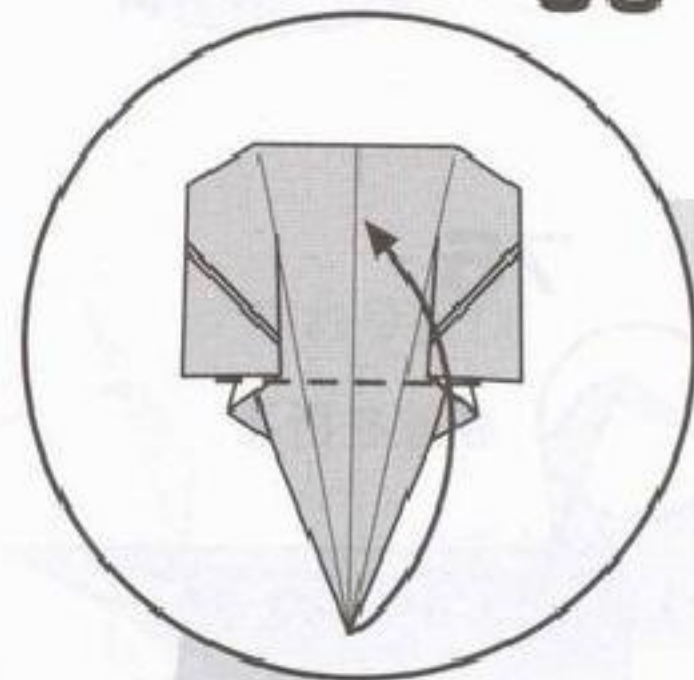
折り線に沿って細く折る.
内側の部分はつぶすように
処理する.

91

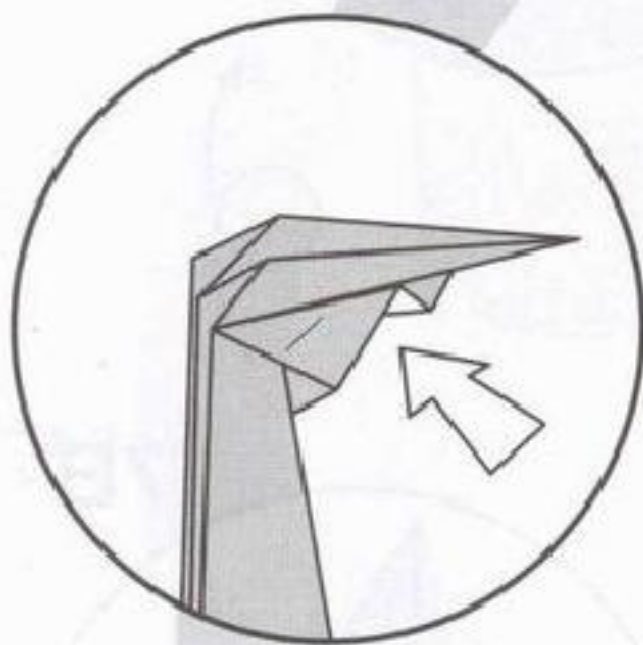


88, 89 と
同様に折る.

96

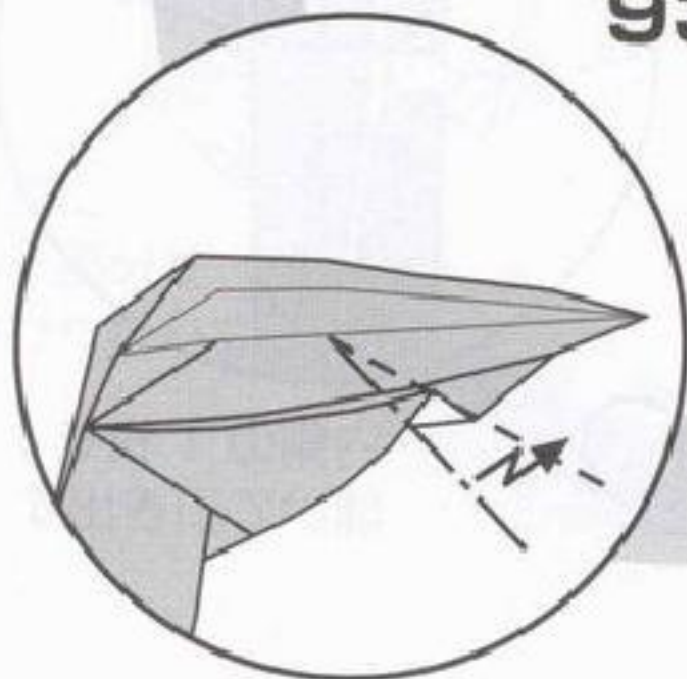


92



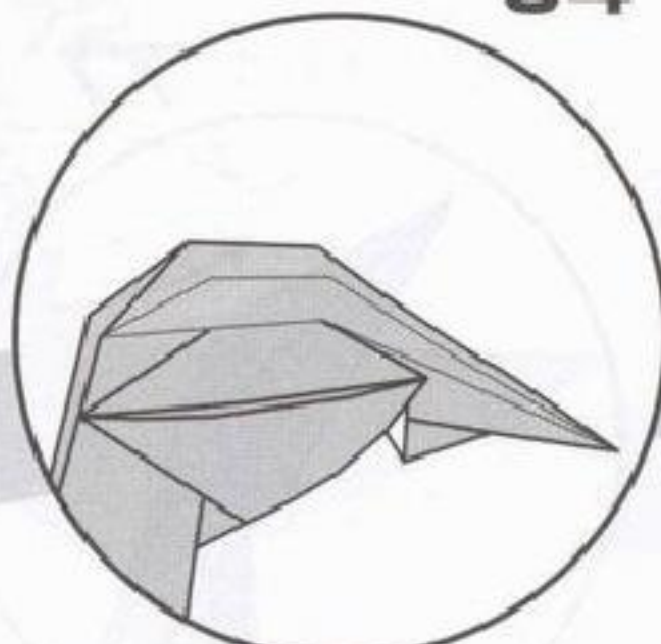
下から
頭頂部を広げる.

93



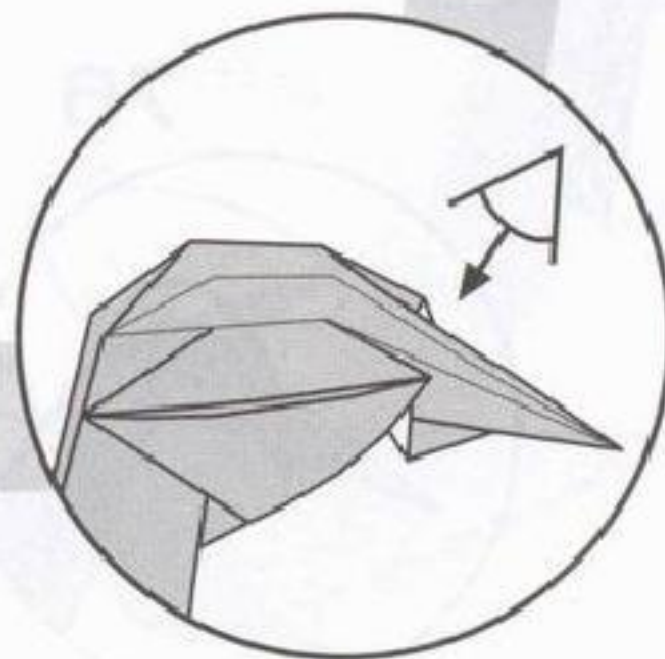
段折りする.

94



反対側も同様に
段折りする.

95



上に
持ち上げる。

105

106

104

内側から
襞を広げて、
押し出すように
眼球を折りだす。

103

黒丸の部分を
へこませながら
折り目に沿って
襞を上下に広げる。

102

目の位置に
谷線の
折り目をつける。

97

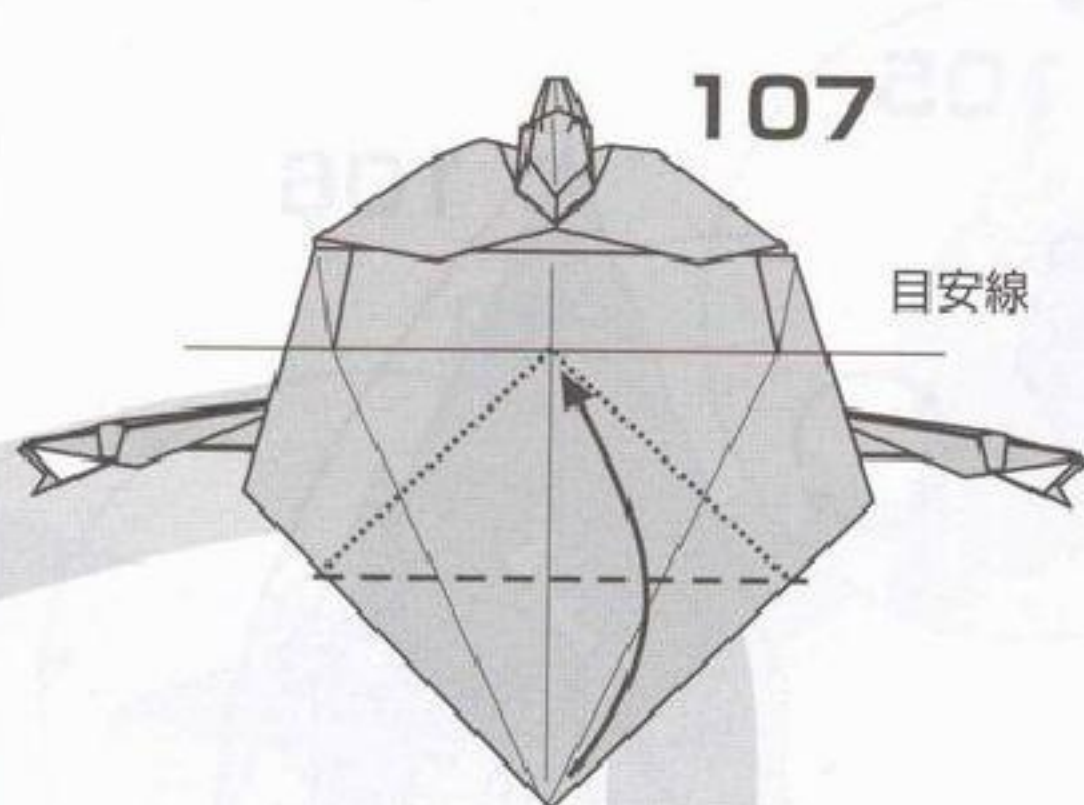
左右に
ずらすように
折って広げる。

101

98

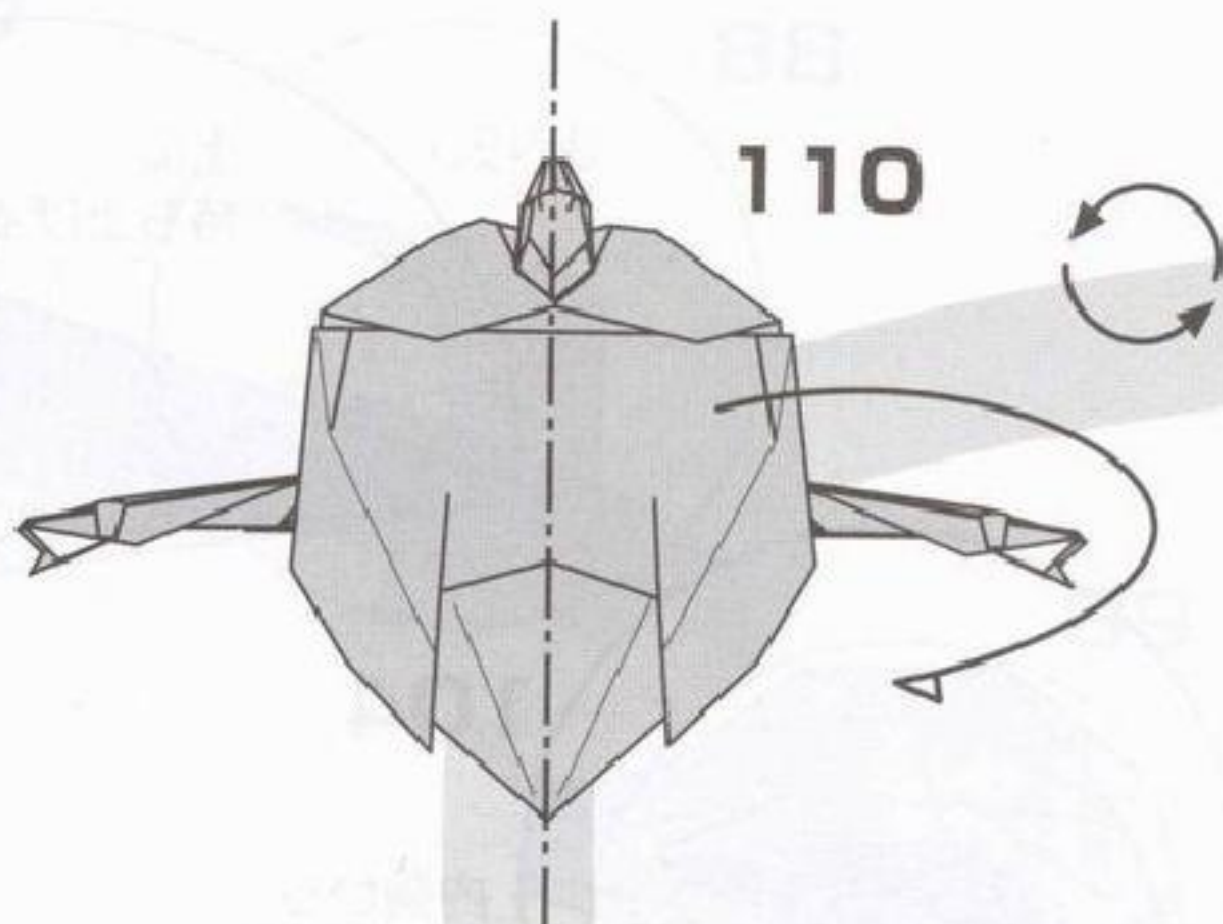
99

100



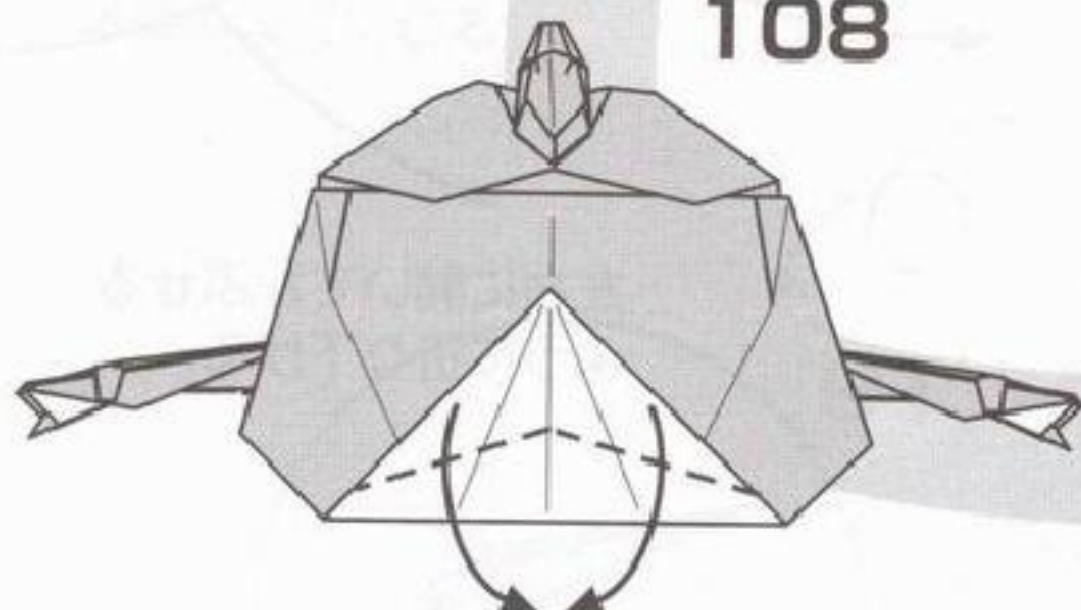
107

目安線

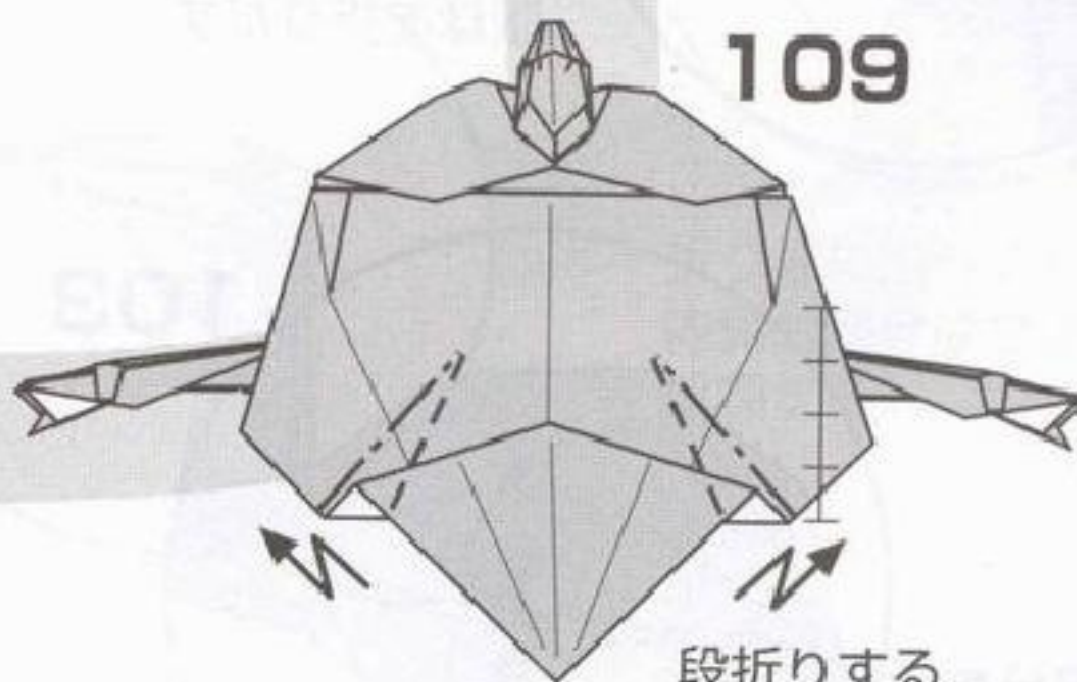


110

108



109



段折りする。



Orisuzi ("Fold-Creases")

フェラーラの夜中の街を歩く

Midnight stroll at Ferrara, 1989

三浦公亮

Miura Koryo

それは、今から20年前の12月のこと、その時期としては気持ちのよい夜の街を、私たちはわいわいとあるきはじめました。その日は、フェラーラの街のアリオストの館での集いを終えて、夕食をすませ、それでも何かみんな別れ難くて、街にくだしたのです。

その前の年になりますか、リンクス・リセイムという伏見先生を中心とする科学と芸術の会で、通称ミウラ折りの話をしました。それから、パドヴァ大学のHumi Huzitaから、フェラーラで折り紙の数学の国際会議を計画しているから、こないかと声がかかったのです。Humiは、ヨーロッパの各国の折り紙の人達と、広く付き

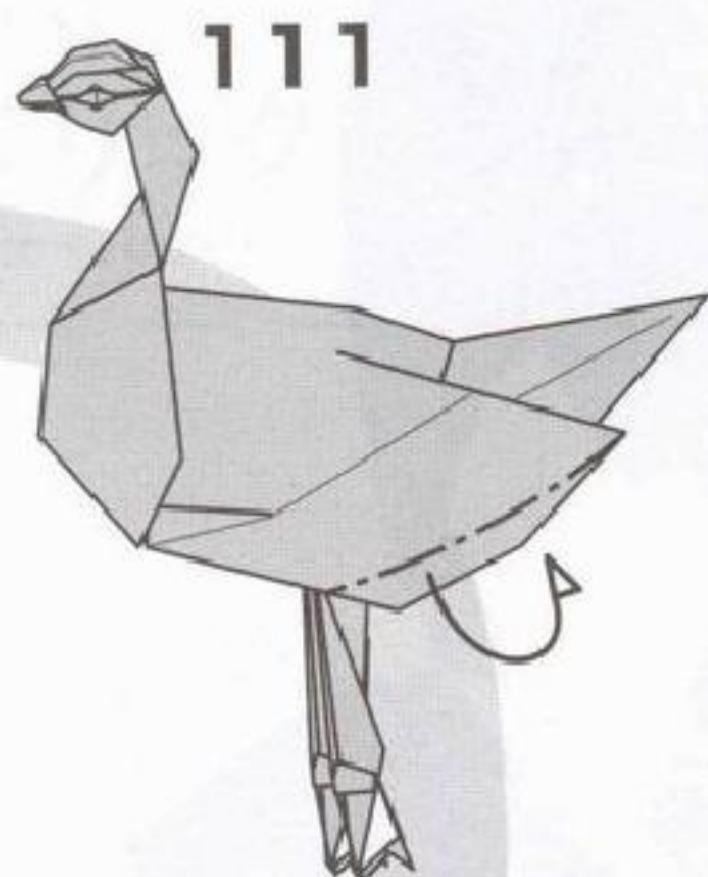
合いがありました。

折り紙にふくまれる、数学的真理には、科学的背景をもつ人達の間ではよく知られていました。しかし残念なことに、これらの研究はあちこちに散在していて、互いに知ることは非常に困難な時代でした。Humiは、こういう主題に関心を持つ人達を一堂に集めて議論させたら、どんなに素晴らしいかと考えたのです。1989年12月6日、それは折り紙の数学の記念すべき日、Humiの先駆的な事業を記念すべき日、でした。そして、私にとっては、その意義とは離れて、こんな楽しい会議が世の中に存在するのか、を知った日でした。

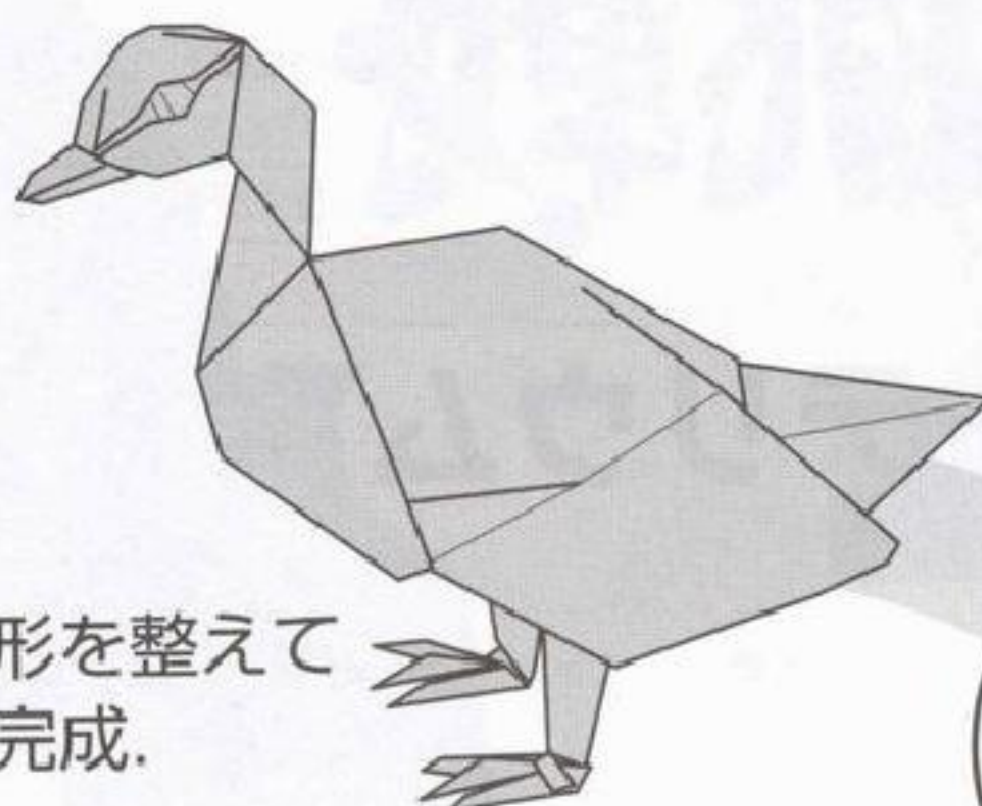
詩人アリオストの館は、ルネッサンス時

代のこじんまりした建物です。1935年にここでMargherita Belochが、折り紙の幾何学で三次元方程式を解けることを示したのです。会議録の表紙は、館の正面のHumiのペン画です。フェラーラは、街を囲む高い城壁にかこまれた、美しい都市で、15世紀ころの建物が多く残っています。土地っ子の案内で、城門とか昔の娼婦の館などなどを眺め、石畳の夜中の街をあてもなく歩いたことは、Humiへの思い出とともにあります。

編注) 三浦先生には今期より日本折紙学会顧問に就任頂きました。また、Humi Huzita=藤田文章氏の業績は91号「ペーパーフォルダーの横顔」をご覧ください。

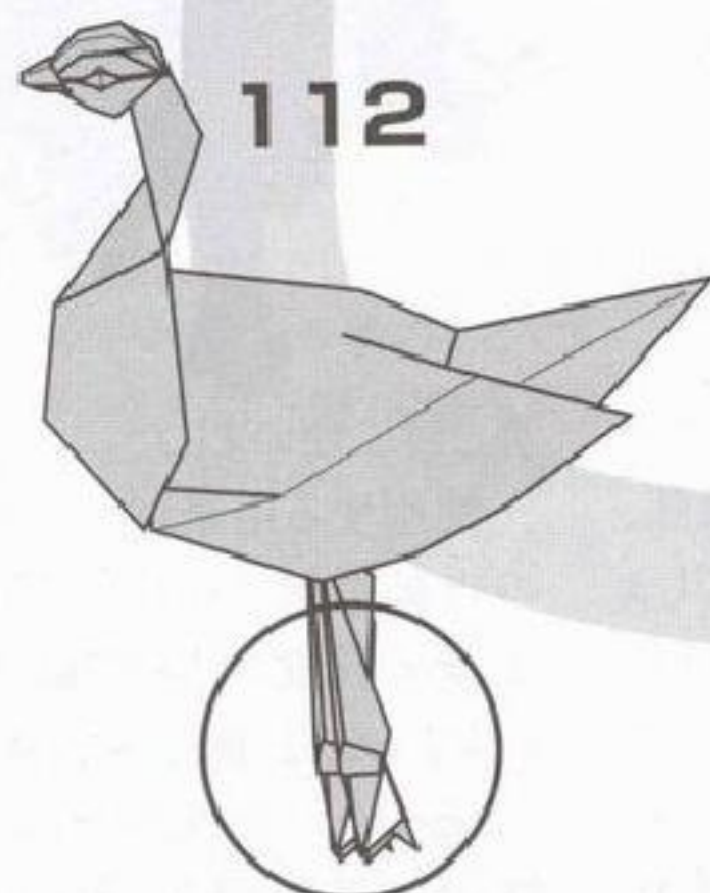


111

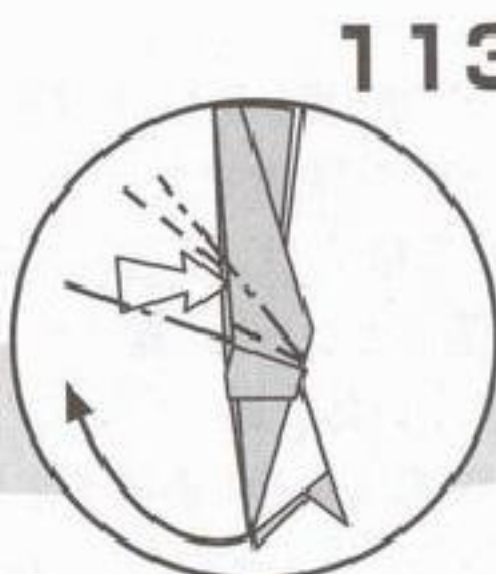


115

形を整えて
完成.

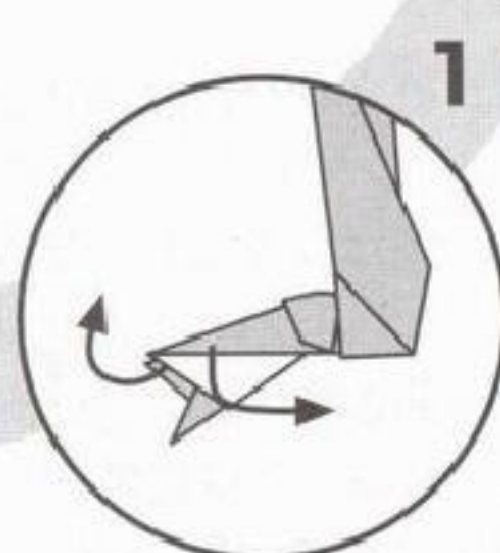


112



113

押し込むように
両側で段折り.



114

指を左右に開き、
ひれを広げる.

折紙三昧 ④

Origami-Zanmai (This Origami and That)

折紙探偵団20年

The 20th Anniversary (of Origami Tanteidan)

『「折紙探偵団新聞」創刊号をお届けします。昨年四月オープンした世界初の折紙専門常設ギャラリー“おりがみはうす”は現在首都圏の折紙マニア達の群れ集う場所と化しています。毎月一、二回集まって騒ぐだけでなしに我々の活動を広く世間に知らせようというわけで「折紙探偵団」発刊となった訳です。折紙探偵団では狭い意味での折紙に捕らわれない活動を行っていくつもりですので、折紙作品、評論のみならず様々な原稿、作品をお寄せください。そしてあなたもぜひ団員に。』

1990年4月5日、折紙探偵団団長(当時)の木村良寿氏のこの創刊の言葉から始まった折紙探偵団は、10年目からの日本折紙学会・「折紙

探偵団」マガジンへの発展を経て、2009年4月よりとうとう20年目に入ることとなりました。『折紙探偵団新聞』創刊号に続き、「またも出ました第貳号」、「これでなんとか参号」、「半年持ったぞ第四号」と毎号、「今回も、出せて良かった」という具合に、はうすの山口真さん、前述の木村さん、今は亡き吉野一生さんと隔月8ページのコピー新聞発刊を積み重ねることからスタートしました。そして、折り紙を通じて様々な出来事や出会いの幸運を味方にして、またひとつ節目を迎えることが出来ました。これを支えて下さった多くの仲間、読者の皆様に心より感謝申し上げます。

「折紙探偵団」の歩みは、正方形に角の配置を大きく構想し、折りすじをつけ、然りとて狙い過ぎず、時おり現れる形

の幸運を活かし作品を仕上げる創作折り紙の仕方にも似ています。20年続くことは発足時には想像すらしなかったものの、漠然と持っていた“夢”の一部は少しずつ形になってきたと感ずるところもあります。そして、今後ますます新鮮な出会いや発展の機会を得て進んでゆけるだろうことは、今は、少しは想像できるようになりました。20期から日本折紙学会評議員代表を再び務めさせていただくこととなりますが、発足メンバーのひとりとして、次世代へ繋がってゆくような次の20年のための折りすじをつけられればと思っています。

ご挨拶に変えて

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第 59 回

ブrontテリウム

Brontotherium

堀口直人

Horiguchi Naoto

Created : 2008.06

Paper Size : 50x50cm

Length : 24cm



この作品は、昨年のOrigamiUSAコンベンションで行われた「古生物」というテーマのコンテストのために作ったものになります。「ブrontテリウム」と言っても、あまり聞き慣れない方が多いでしょう。恐竜が絶滅した後に繁栄した大型のほ乳類の一種で、現在は生存していません。非常におおざっぱな説明をしますと、マンモスやスミロドンなどと似たカテゴリの生物と言え、イメージはつかみやすいかもしれません。この時代のほ乳類は“創作心”をくすぐられるような魅力的な形状をしたものが多いのですが、折紙の題材になることは相対的に少ないようです。

折紙の題材選びにおいて、一般的な見方におけるマイナー/メジャーな対象と、折紙の題材としてのマイナー/メジャーな対象の間には幾分かの相違があり、そしてその相違の形成過程はかなり複雑なものであるために、折紙の普及を考えるとときに両者の差異を意識することは結構重要なのではないかと時折思うことがあります。もっとも、この作品はどちらの点から見てもマイナーでしょうが。

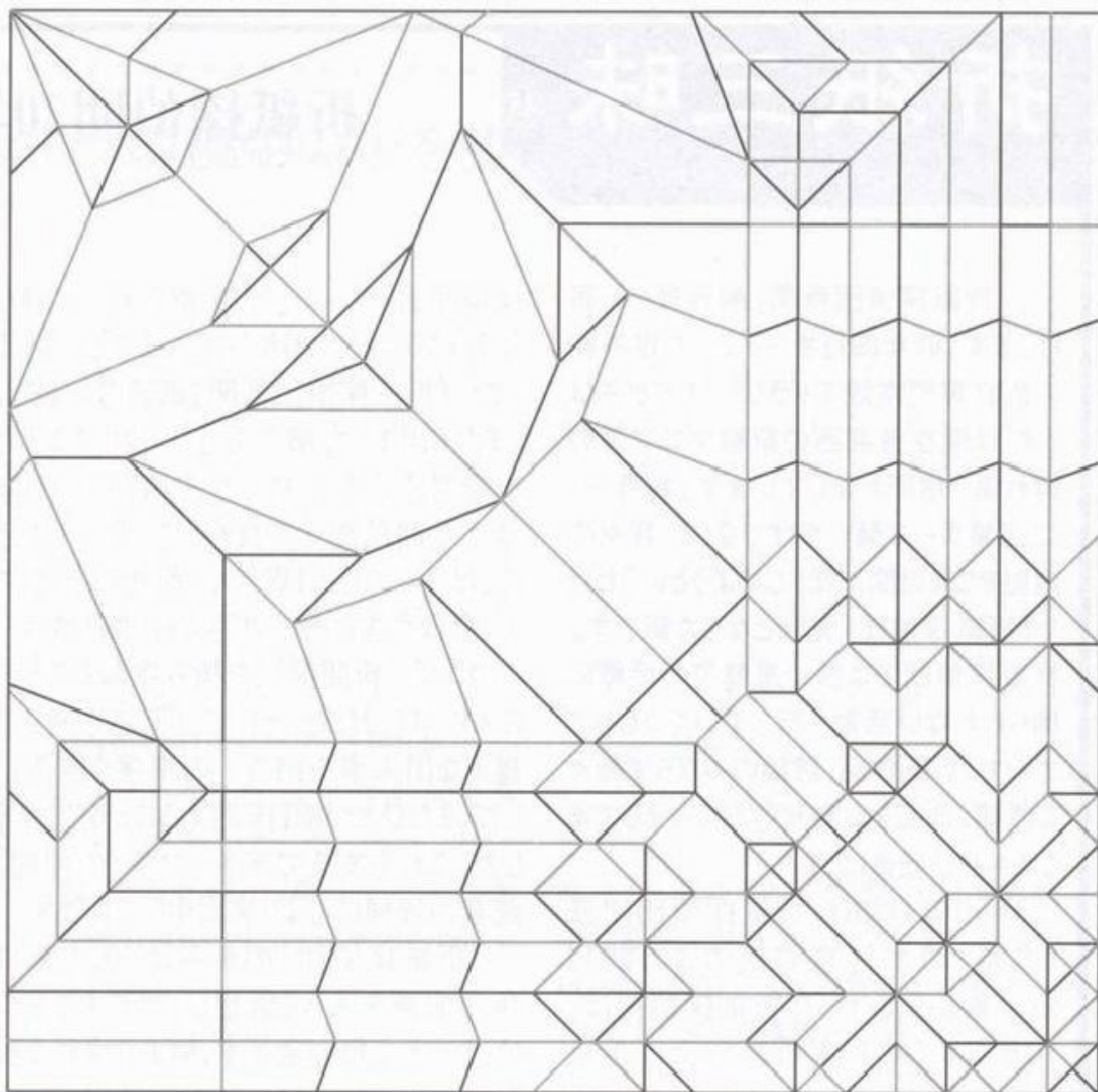
話が逸れたので展開図の説明に移ります。構造としては非常に単純な仕込みジャバラになります。仕込みの比率はよくあるものを使いましたが、 $1/3$ から $2/5$ 程度の間であれば自由に変化させられます。胴体は一見 22.5° でまとまっているように見えますが、実は前脚から肩周辺にズレがあります。適切な比率を当てればき

れいにまとまるかもしれません。こうした点は今後の課題です。

折る場合は、仕込み部を8等分してから、基本となる折り線をつけた後、頭部、前脚、胴体と進んでいくのがいいでしょう。展開図を折りあげますと大体形は見えてくると思いますので、後ろ脚の余ったヒダを引き寄せ折りて胴体と分けて、肩、首周りを整理した後、細かいところを仕上げて下さい。頭部先端の小さなカドは

鼻と唇に使いました。

使用する用紙についてですが、普通の折紙用紙でも十分に折れます。もちろん、ある程度大きめの紙の方がよいと思います。ただ、前半身は紙が集中して厚くなる一方で、後半身は薄すぎるという致命的欠陥がありますので、適切な用紙を探すのは困難かもしれません。



File-33

エリック・ジャーディ

Eric Gjerde

Hatori Koshiro

取材/羽鳥公士郎

エリック・ジャーディ(Eric Gjerde)=ミネソタ州ミネアポリス在住。今年の吉野一生基金招待者のひとり。



■折り紙を始めたのはいつですか。

子供の頃から折り紙をしていました。母から、折り鶴や蛙などの伝承作品を教えてもらい、紙で何かを作るのが大好きになりました。

■それでは平織り以外の折り紙もしていたのですか。なぜ平織りを選んだのですか。

私が平織りを選んだのではなく、平織りが私を選んだのです。何年か前のことですが、ロバート・ラングさんの「鯉」の鱗を折っているとき、繰り返しのパターンに非常に興味を持ちました。そこからすべてが始まったのです。

■平織り以外の創作はしていましたか。

いろいろな意味で、私はまだ折り紙の初心者だと思っています。具象的な作品を折ったり創作したりできるようになることには興味がありますが、私の創造性の生産物は、そのほとんどすべてが、抽象的で幾何学的な造形にしばられています。

■あなたのスタイルに影響を与えた折り紙作家は誰ですか。

私が自分の芸術的なスタイルを発展させるにつれ、ポール・ジャクソンさんやジョン・クロード・コレイアさんといった作家から影響を受けていることに気がつきました。また、藤本修三先生やクリス・パルマーさんの平織り作品にも多くを負っています。

■自分以外の折り紙作家で、面白いと思う人は誰ですか。

私が興味を持っているのは、折り紙という芸術の境界を拡張し続けている作家です。そのような人はたくさんいますが、少しだけ挙げるとすれば、バンサン・フロデュレール、ポリー・ベリティ、エリック・ジョワゼル、ジョエル・クーパー、ジャン・ディンさんなどです。彼らはみな、それぞれまったく異なることをしていますが、芸術的追求を新たな高みまで、またさまざまな新しい方向へ押し進めています。それにはとてもワクワクさせられます。

■最近『Origami Tessellations』という本を出版されましたが、この本について教えてください。

この本が生まれる前の数年間、私はインターネットで、自分の作品や発見したことを発表していました。それを本にすることに興味を持っていたところに、出版社から本を書かないかという話があったので、一も二もなく「イエス」と答えました。本を書く過程で、折り紙の本がどのように作られるのかということについて非常に多くのことを知ることができたので、とてもためになる体験でした。

この本では、平織りの基本と、すべての平織り作品に共通する技法について説明しています。そして、その技法を使った25の作品を、やさしいものから始めてかなり複雑なものまで紹介しています。また、ギャラリーの部分もあって、多くの才能ある折り紙作家たちの美しく複雑な平織り作品の写真を掲載しています。

■インターネットのFlickrという写真共有サイトで平織りのグループを主宰しているそうですね。

私が平織りを折りはじめたとき、自分の作品を折り紙界で共有したいと思ったので、Flickrに写真を投稿しはじめました。しだいに、平織りに興味を持つ人が増え、多くの人が平織りのグループに加わるようになりました。今では500人近いメンバーがいます。ここで作品を見せ合ったり教え合ったりするのはすばらしい体験で、新しい友人もたくさんできました。Flickrの平織りグループは、平織りに対する興味が世界中に広まっている一助となっていると思います。

また、昨年からは平織りの創作コンテスト「Origami Tessellation Design Challenge」も始めました。今年は2回目で、テーマは「ジャングル」です。有機的なテーマや形を用いた独創的な作品が生まれることを期待しています。ニューヨークのOrigamiUSAコンベンションにも専用のテーブルを用意しますが、日本からFlickr経由での参加も歓迎します。詳しくは<http://www.flickr.com/groups/otdc2009>をご覧ください。

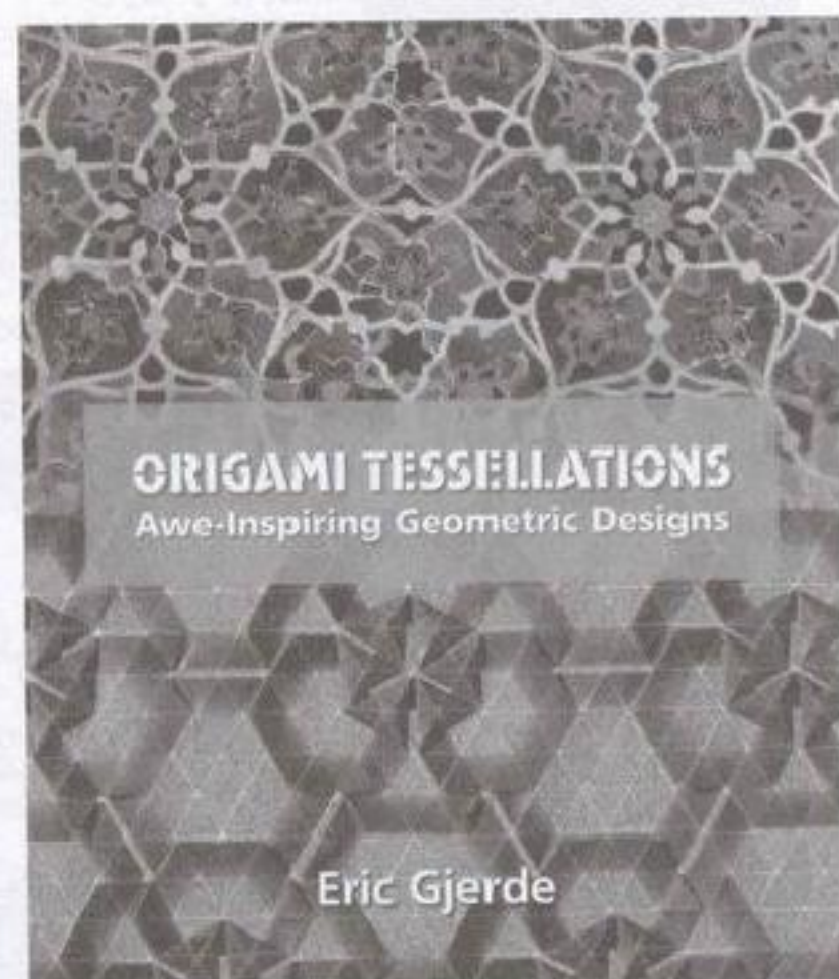
■多くの場所で作品を展示していると思いますが、もっとも印象に残っているのはどこですか。

今でもいちばん気に入っている展覧会は、ブラジルのブラジリアで開かれた「第1回国際平織り博覧会」です。これは私の友人のジャニ・アラウジョさんが主催したもので、世界中から参加者がいました。展示会場は、国立植物園の中に新しくできた展示ホールで、周りを巨大な木やきれいな庭に囲まれていました。この展示で、私は平織りの芸術的な可能性に目を開かれました。

■今後はどんな作品を作ってゆきたいですか。また、どんな活動をしてゆきたいですか。

私は今、自然から触発された、有機的な形や構造を探求しています。もっとも興味深い構造やパターンを持っているのは自然物だと思うので、それを自分の折り紙作品で再現する方法を見つけたいと思っています。

折り紙のおかげで世界中の人々と友情を築くことができ、とてもうれしく思っています。近い将来、平織りコンベンションを開催したいと思っています。また、引き続きさまざまな折り紙イベントに参加して、平織りについて教えたいと思います。



▲エリック・ジャーディ著『Origami Tessellations』の表紙。A K Peters刊、128ページ



JOAS 20th anniversary 15th Origami Tanteidan Convention

2009 August 14-16 at Toyo University, Tokyo.

2009 is a memorable year, the 20th year of Japan Origami Academic Society. On this memorable year, we hold The 15th (another memorable number!) Origami Tanteidan Convention, on August 14-16, 2009, at Toyo University, Tokyo. We expect that more folders than usual will join us and take part in origami classes, origami studies lectures and other events. Why miss this memorable event? Novices, maniacs, or whoever folds can join us. As usual, we exempt all those who come from abroad for the convention from the admission fee. Further information will be available in the magazine and on our web site. Also you can contact us by e-mail at webman@origami.gr.jp.

JOAS20周年記念 第15回 折紙探偵団コンベンション 参加者募集開始

2009年 8月14日(金)、15日(土)、16日(日)
会場:東洋大学(東京・文京区)

今年はJOAS以前の折紙探偵団から数えて20周年という節目。探偵団コンベンションも15回を迎える記念大会となる。全大会参加者の表彰、吉野一生基金協力者への表彰など記念大会にふさわしい企画も考えられている。また、例年どおり、最新作や未発表作品に直接触れることができる折紙探偵団ならではの楽しいコンベンションになる。

◆特別講演会(14日)

講演は「20年の歩み」講師未定、発足当時のメンバーによるトークショーになる予定です。他に岸本直子氏の翅の折り畳みに関する研究、吉野一生基金招待者で今号「ペーパーフォルダーの横顔」で紹介したエリック・ジャーディ氏の3組を予定しています。興味深い講演になること間違いなし。

◆講師募集

探偵団コンベンションのメインである折紙教室。この教室は、参加者の皆さんの協力により成り立っています。自信作をお持ちの方、お気に入り作品がある方、皆に教えてみませんか。初めての方も大歓迎です。自分の創作作品ではない作品を教えたいという方には、作者の使用許可を取るためのお手伝いをさせていただきますので、遠慮無くお問い合わせください。

ベテラン講師の申し込みも大歓迎。折紙指導員資格を持っている方は、実力を発揮するまたとない機会になります。

詳しくは、同封されている「講師参加のご案内」をご覧ください。

◆折紙指導員資格と指導員向け講習

折紙探偵団コンベンションでは、日本折紙学会が認定する「折紙指導員」の認定試験を受けることができます。現在、この資格を取得している方は65名。各地で活躍されています。今回も受験者を募集します。受験資格は、日本折紙学会の会員であること。受験料は無料ですが、合格後の登録料として3,000円が必要となります。

◆お楽しみ懇親会

会場は、今年も東洋大学のキャンパス内にあるスカイホールになります。スカイホールは高台にある校舎の16階で、夜の街並みがとてもきれいに見える場所です。

堅苦しさの無い折り紙好きのための親睦パーティーです。

毎年恒例なのが、全員参加型のゲーム。今年はJOAS20周年という事から、いろいろと企画されています。

賞品は、幻の絶版本をはじめ、折り紙好きにはたまらないものを用意します。多くの参加をお待ちしています。

◆参加申し込み方法

同封の申込用紙に必要事項を記入し、郵便またはファックスで日本折紙学会事務局までお送りください。

事務局＝〒113-0001 東京都文京区白山
1-33-8-216 TEL&FAX/03-5684-6080

本誌の購読等に関わらず、折り紙が好きならどなたでも参加できます。お知り合い同士声をかけての参加をお待ちしています。申込用紙が複数必要な場合は、コピーをとって使用してください。

■教室受付順位の決定方法について

教室受付順位とは、希望の教室申し込みを受け付ける順番です。番号が若いほど、希望の教室を受講できる可能性が高くなります。順番は、まず、6月25日到着分までの申し込み用紙で、シャッフルをして教室受付順をつけます。この順番は、15日と16日で逆になります。例えば、25日に到着した申し込みが100人とする、15日に1番だった人が16日に100番になります。

それ以後の申し込みについては、申し込み締切の8月7日(金)に2度目のシャッフルをして、残りの番号を振り分けします。この番号も、15日と16日目では(このグループ内で)順番が逆になります。早めのお申し込みにご協力お願い致します。これは、申し込みを早めにして、ボランティアによる事務処理の軽減に協力して頂くために行っております。

「第15回コンベンション折り図集」原稿大募集 e-mail: conv15@origami.

コンベンションに合わせて発行される折り図集への投稿作品を、広く募集します。国内外を問わず年をおごとに投稿作品数が多くなっています。今年も編集部は大いに期待しています。自慢の楽しい作品(折り図)をお寄せください。

●応募資格 特にありません。アマ・プロ、年齢不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要もありません。採用者(ページ数の条件あり)には、掲載作品数に関係なく『第15回折紙探偵団コンベンション折り図集』を1冊進呈。

●応募作品の条件 創作もしくはアレンジの作品で、自作の折り図に限りま
す。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの
創作者の了解を取った上で、名前も明記
すること。)原稿はデジタルデータが基本
となります。手描きの場合は状況(編集作

業工程の問題で)によって対応致します。

●折り図投稿マニュアル入手方法
ダウンロード:折紙探偵団HPの「コンベン
ション特設ページ」よりダウンロードできま
す。/郵便での取り寄せ:返信用封筒に送
り先を記入の上80円切手を貼って、請求
してください。

◆応募締め切り:2009年6月末日

Convention Book Vol.15

We are having, fortunately, the season of the JOAS 15th Origami Tanteidan Convention very soon again. As we do so every year, we call for the diagrams from folders all over the world. Here are the conditions of acceptance of your diagrams:

・The diagrams you send are

not yet published.

・The diagrams you send are in the form of digital data (we STRONGLY encourage sending diagrams in either Adobe Illustrator or Freehand format).

If your diagrams are accepted for publication in the 15th Convention Book, we will send you one copy of the 15th Convention Book to express our gratitude. The official deadline is the end of June, 2009, but we STRONGLY, again, encourage your early submission. The data should be send to the following e-mail address: **conv15@origami.gr.jp**

We look forward to seeing your original, unique diagrams, as usual.

◆第3回JOAS創作折り紙コンテスト

今年で3回目となるJOAS創作折り紙コンテスト。前号でもお知らせしましたが今回の特別テーマは、折紙探偵団20周年にちなみ、「20」です。また、前回に引き続き、干支部門と、自由題のはうす賞もあります。創作準備に入った方もいらっしゃると思います。準備期間を有効に使ってクオリティ

の高い作品を創り上げてください。

◆JOAS賞特別テーマ部門:20

◆JOAS賞干支部門:トラ

◆おりがみはうす賞:テーマなし

※ひとりで3賞それぞれへ1点ずつ応募できます。※JOAS賞はJOAS評議員およびコンベンション参加者の投票で決定しま

す。はうす賞はおりがみはうすが審査し決定します。

■応募作品は未発表作品に限ります。

未発表とは、インターネットや出版物など、公に発表していないことを指します。これは「新作」を募集したいという意図と、コンベンションの会場で初めて作品が披露されるというイベント性を考慮しての条件となります。早めに作品が完成してもコンベンション前に公開しないようご注意ください。

◆第10回折紙探偵団関西コンベンションレポート

小松英夫

5月5、6日の2日間、記念すべき第10回目を迎えて折紙探偵団関西コンベンションが神戸女学院大学で開催された。

スペシャルゲストのクリス・パルマー氏は「Birth of a Traditional Craft: Synergy of Disciplines」と題した講演で、近年取り組んできた布を用いた平織り「Shadowfolds」についてその手法に至

るまでの経緯をスライドとともに紹介。教室ではShadowfoldsの講習もあり、会場ではキットも販売された。

作品展示室では、中村和也氏による巨大折り紙の「ティラノサウルス全身骨格(吉野一生作)」が過去最大の大きさで参加者を見下ろす中、力作が多数展示されていた。人気投票第1位は宮本宙也氏の「河童」であった。

初日夜の懇親会では、「2工程でできる(折り図に描ける)作品」を創作するゲームが行われ、瞬発力ある若手が腕を振っていた。また、10年皆勤した参加者が揃って記念写真を撮る

場面では、皆から盛大な拍手が上がった。

▶壇上で個性的なコメントで会場を沸かせた10年皆勤の田村菜穂子さん



▲中村和也氏製作のライフサイズ(?)のティラノサウルススケルトン(吉野一生作)。今夏の折紙探偵団コンベンションに現れるかも。台も中村氏自作で、解体して運べる仕様になっている

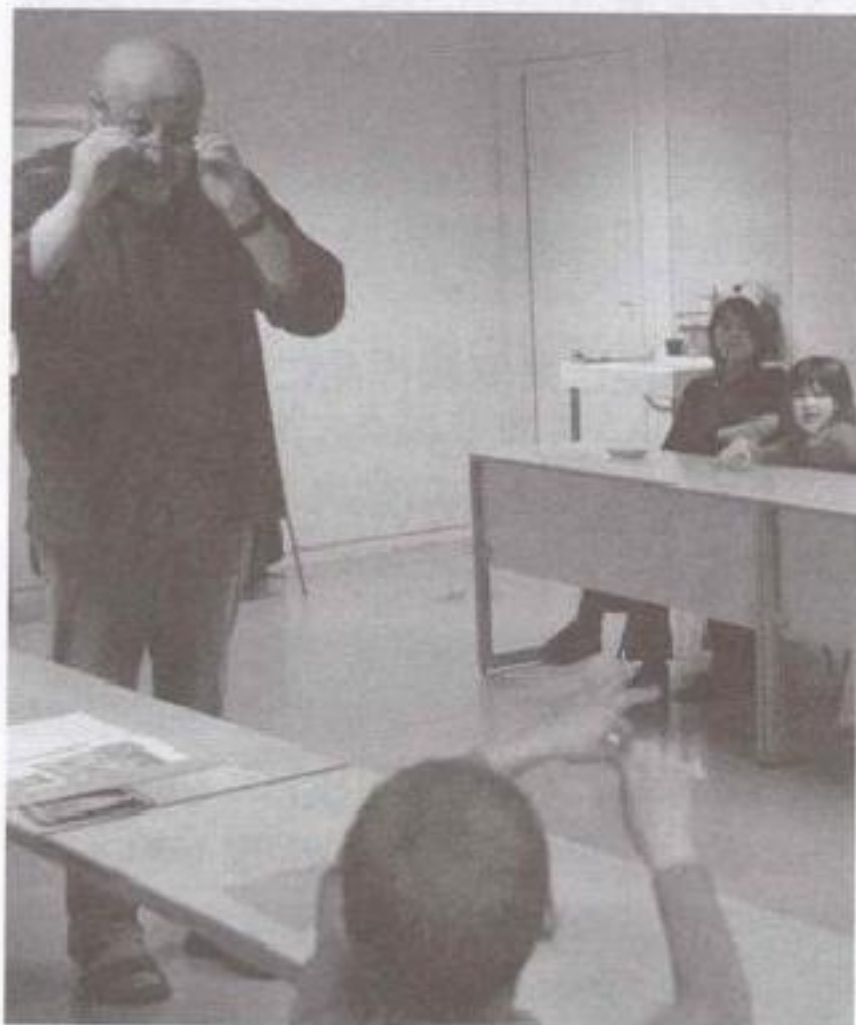


▲クリス・パルマー氏の講演とシルクで折られたShadowfoldsの講習作品

◆パリ折紙教室レポート

海聞チュルク (ドイツ)

イースターの休暇にパリを訪れた。幸運な事に滞在中にエリック・ジョワゼル氏の折紙教室があることを知り早速参加。エッフェル塔から歩いて数分の所にパリ日本文化会館があった。ここでは、あらゆる日本の文化を紹介していて、ショップには日本ファンのフランス人や観光客がひしめいていた。ジョワゼル氏は、ここの折紙教室を3年前くらいから担当している。基本的には1ヶ月に1回。モデルの大半は折る工程の最後に突然と形が変わる所謂トリックのあるモデルだった。あっという間に形が変わっていく折紙に子供達は歓喜の叫び声を上げていた。ジョワゼル氏は説明の度に声色を変えジェスチャーも面白く、まるでピエロか魔術師のように子供達の心を掴んでいた。一度折っ



た折紙を又開いて1枚の紙に戻した時には、がっかりした悲しい顔をして見せ、何という役者だろうと思った。子供の折紙教室は何回か見たが、このように子供達が目を輝かせ歓声を上げ折紙の虜になっている風景は見たことがない。次の世代に折紙を伝えていきたいというジョワゼル氏の熱い願望を感じる。彼はひとつのモデルを折るという作業だけにとどまらず、作者や折紙一般の事を真剣に説明していた。桃谷氏の名前も挙げられた。対象となるのはほとんどの場合子供である。折紙が日本文化のひとつだと思われる事は余りなく、ましてや芸術のひとつとして見られることもめったにない。あれだけ日本文化に興味を示すフランス人だが、折紙はその中に入っていないらしい。とても残念な思いがした。プロとして教えていく事も大変難しい。たいていの場合はアマチュアが無料折紙教室をやったり、幼稚園の先生が子供に折紙を教えたりしている。しかし、不思議な事にフランスでは折紙だけで生きている折紙家が10人ほどいるらしい。ジョワゼル氏もその1人であろう。彼の教室で教える平面的な伝承折紙と、現在の彼の表現力のある立体的作品との間に彼の歴史があると思った。1枚の紙から生まれる形の限界に挑戦しているのではないだろうか。体調がすぐれず立っているのさえ大変な状態の時に2時間半の授業をこなしたジョワゼル氏。彼の人柄と折紙に対する情熱に脱帽した。

東京友の会 ※折紙は各自持参

会場=JOASホール / 参加費=大人500円 (中学生以下300円)

講習会=14:00~16:00 / 研究会=16:00

●6月6日(土) / 講師:金澤隆史 / 作品:猫

●7月4日(土) / 講師:未定 / 作品:未定

静岡友の会※折紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F
参加費=大人500円(中学生以下は200円)時間=10:30~12:00

●6月7日(日) / 講師:辻和之 / 作品:未定

東海友の会※折紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスG棟
204・205 / 参加費=大人500円(中学生以下は200円) / 時間=13:00~16:30

●6月20日(土) / 講師:未定 / 作品:未定

●7月18日(土) / 講師:未定 / 作品:未定

関西友の会 ※折紙は各自持参

会場=神戸女学院大学文学館2階L-34教室
参加費=なし / 時間=13:00~16:00

●7月4日(土) / 講師:立石浩一 / 作品:West Indian Manatee及びBanana Slug(Michael LaFosse作)

●7月25日(土) / 講師:立石浩一 / 作品:藤本修三作品より

九州友の会※折紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ4F第2研修室B
参加費=大人300円、子供100円

時間=13:00~16:00

●6月28日(日) / 講師:未定 / 作品:未定

●7月19日(日) / 講師:未定 / 作品:未定

第6回折り紙の 科学・数学・教育 研究集会のお知らせ

第6回を数えることになった折り紙の科学・数学・教育研究集会を下記要項で行います。折り紙の科学・数学・教育に関する、最新研究の発表が行われます。

どなたでも聴講ができますので、興味のあるかたはぜひご参加ください。発表者などの詳細は、WEBでお知らせします。

日時:6月21日(日)

会場:JOASホール(東京都文京区白山1-33-8 朝日マンション2F)

参加資格:なし

◇主催:日本折紙学会

連絡先: webman@origami.gr.jp

(担当 前川)

JOASホール今後の予定

◆「知子の部屋」

6月20日(土) / 講師=布施知子 / 参加費=2,500円 / 12:30~16:00

7月18日(土) / 講師=布施知子 / 参加費=2,500円 / 12:30~16:00

アットホームな雰囲気の中で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参。

編集後記

■60才になるデビッド・プリル氏がめでたくゴールイン、結婚式を挙げた。■お相手の女性は予てから噂されていたロシア出身のアシアさんで、再婚同士。■結婚するという話は聞いていたので、式には必ず出席するから知らせてくれと伝えてあった。■招待状が届いたのでお祝いを持って、出席してきた。■プリル氏の親友でもある布施知子さんも出席していた。■折り紙仲間も何人か出席していて顔見知りも多かった。■普通結婚式というと若い人の出席が多いものだが若い人が見当たらない。■そんな訳で式もパーティーも落ち着いた雰囲気の中で楽しかった。■イギリスの折紙界は高齢化が進んでいるということを知ったことがあった。■イギリスに行く探偵団の若者はいないか。(や)

ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団

2009年5月25日発行 第20巻1号 通巻115号
発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

■ORIGAMITANTEIDAN / No.115 / Published on 25, May 2009 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216
Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Snow Goose" Produced by Tsuda Yoshio: Photographed by Matsuura Eiko / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはいすべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第14回折紙探偵団
コンベンション **折り図集 vol.14**
日本折紙学会 編 / 2,000円 / 送料420円
B5判 / 全256頁 **好評発売中!**

キューブリック:川村みゆき、リス 22.5:前川
淳、ネコ15° 2007:西川誠司、アゲハチヨ
ウ:目黒俊幸、カブトムシ2.1:神谷哲史、フグ:
シッポ・マボナ、カーラー・ユニット:ヘルマン・バ
ン・グーベルジャン、パンダ:ロマン・ディアス、
ヒッポグリフ:マヌエル・シルゴ等、国内外の41
作品収録

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込)※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折り図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵 4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折り図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
折り紙色紙百花 田中具子 著 残部僅少 山口 真 編	2,500円		B5判/全120頁/カラー口絵8頁/31作品収録 色紙に貼り込んで飾る花の折り紙作品集
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判/全180頁/カラー口絵4頁/18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第13回折紙探偵団 折り図集 vol.13 日本折紙学会 編 コンベンション	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作39作品を収録
第11回折紙探偵団 折り図集 vol.11 日本折紙学会 編 コンベンション	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 折り図集 vol.10 日本折紙学会 編 国際コンベンション	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

※第1回~第9回及び第12回の折り図集は全て絶版です ※書籍は郵便の「ゆうメール」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

商品名	送 料	内 容
限定版 折紙探偵団Tシャツ XS, S, M, L, 各サイズ 2,000円(税込)	国内一律 2着まで 500円	折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ 色は黒のみで布は厚手 ※数に限りがありますので、ご注文の 際には在庫を確認してください。
恐竜柄おりがみ用紙 1,000円(税込)	国内一律 1~2セット 440円	35×35cm/10枚入/70kg の洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット 1,200円(税込)		恐竜柄おりがみ用紙+ ドラゴン(北條高史作)の折り図

※定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送)送料には梱包材代が含まれています

**書籍
複数の
送料** 書籍2冊の送料は**530円**/書籍3冊の送料は**670円**
例外:「折り図集」又は「色紙百花」だけを3冊の場合
(例:折り図集13.14と色紙百花1冊)のみ**530円**

上記以外の場合はお問い合わせください・書籍と紙製品は別発送となります

GALLERY **おりがみはうす**
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp 10時~18時 日・祝休

折り紙用紙専門のオンラインショップ開店!
(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。
<http://origamihouse.store-web.net/>
※本ページ商品は取り扱いっておりません。ご注意ください

お待たせしました! 『折紙探偵団』専用ファイル
ピンが7本ついた改良型 **新発売!!**



変形B5判/箔押し ロゴ入
※箔押しの色は紺色から緑になりました
■雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊)と、
会員特別配布物(1冊)が収納可能!
お値段据え置き1冊750円

送料: 1冊250円(合計1,000円)
2冊350円(合計1,850円)
3冊470円(合計2,720円)

※定形外郵便で発送します(書籍・紙製品とは別)

本ページに記載していない商品は、現在取り扱いっておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお
送り下さい。入金を確認後、商品を送付させていただきます。ご希望
の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の
「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

色の配色と組み合わせを楽しむユニットです

組み方手順は写真付なのでわかりやすい



¥200
(税抜き)



¥200
(税抜き)



株式会社トヨー
ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡営業所 / 札幌出張所 / 松山出張所

日本折紙学会発行 定価 635円(本体605円)